

TASCAM

D01249301B

DA-6400

DA-6400dp






Digital Multitrack Recorder

取扱説明書



安全にお使いいただくために

製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、以下の注意事項をよくお読みください。

	警告 以下の内容を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
 電源プラグをコンセントから抜く	万一、異常が起きたら 煙が出た、変なおいや音がするときは 機器の内部に異物や水などが入ったときは この機器を落とした、カバーを破損したときは すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。 異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。 販売店またはティアック修理センター（巻末に記載）に修理をご依頼ください。
 指示	電源プラグにほこりをためない 電源プラグとコンセントの周りにゴミやほこりが付着すると、火災・感電の原因となります。 定期的（年1回くらい）に電源プラグを抜いて、乾いた布でゴミやほこりを取り除いてください。
 禁止	電源コードを傷つけない 電源コードの上に重い物を載せたり、コードを壁や棚との間に挟み込んだり、本機の下敷きにし ない 電源コードを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、熱器具に近づけて加熱 したりしない コードが傷んだまま使用すると火災・感電の原因となります。 万一、電源コードが破損したら（芯線の露出、断線など）、販売店またはティアック修理センター （巻末に記載）に交換をご依頼ください。 付属の電源コードを他の機器に使用しない 故障、火災、感電の原因となります。 交流100ボルト以外の電圧で使用しない この機器を使用できるのは日本国内のみです。表示された電源電圧（交流100ボルト）以外の電 圧で使用しないでください。また、船舶などの直流（DC）電源には接続しないでください。火災・ 感電の原因となります。 この機器を設置する場合は、放熱をよくするために、壁や他の機器との間は少し（20cm以上） 離して設置する ラックなどに入れるときは、機器の天面から1U以上、背面から10cm以上の隙間を空ける 隙間を空けないと内部に熱がこもり、火災の原因となります。 この機器の通風孔などから内部に金属類や燃えやすい物などを差し込む、または落とさない 火災・感電の原因となります。 この機器の通風孔をふさがない 通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。
 禁止	機器の上に花瓶や水などが入った容器を置かない 内部に水が入ると火災・感電の原因となります。

	警告	以下の内容を見逃して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
	分解禁止	この機器のカバーは絶対に外さない カバーを外す、または改造すると、火災・感電の原因となります。 内部の点検・修理は販売店またはティアック修理センター（巻末に記載）にご依頼ください。
	この機器を改造しない	火災・感電の原因となります。
	注意	以下の内容を見逃して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。
	電源プラグをコンセントから抜く	移動させる場合は、電源のスイッチを切るか、またはスタンバイにし、必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードを外す コードが傷つき、火災・感電の原因や、引っ掛けてけがの原因になることがあります。
	指示	旅行などで長期間この機器を使用しないときやお手入れの際は、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜く 通電状態の放置やお手入れは、漏電や感電の原因となる場合があります。
	オーディオ機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明にしたがって接続する また、接続は指定のコードを使用する	電源を入れる前には、音量を最小にする 突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となる場合があります。
	この機器はコンセントの近くに設置し、電源プラグは簡単に手が届くようにする 異常が起きた場合は、すぐに電源プラグをコンセントから抜いて、完全に電源が切れるようにしてください。	この機器には、付属の電源コードを使用する それ以外の物を使用すると、故障、火災、感電の原因となります。
	禁止	ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かない 湿気やほこりの多い場所に置かない。風呂、シャワー室では使用しない 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たる場所に置かない 火災・感電やけがの原因となる場合があります。
	電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない コードが傷つき、火災・感電の原因となる場合があります。 必ずプラグを持って抜いてください。	
	禁止	濡れた手で電源プラグを抜き差ししない 感電の原因となる場合があります。
	注意	5年に1度は、機器内部の掃除を販売店またはティアック修理センター（巻末に記載）にご相談ください。 内部にほこりがたまったら、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となる場合があります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除費用については、ご相談ください。

目次

安全にお使いいただくために	2	入力信号のルーティング設定	28
第1章 はじめに	6	I/Oカードの設定	29
本機の概要	6	IF-MA64/EXまたはIF-MA64/BNの場合	29
本製品の構成	6	タイムコード同期録音について	29
本書の表記	6	録音時間について	29
商標および著作権に関して	6	第5章 フォルダの操作 (BROWSE画面)	30
設置上の注意	7	BROWSE画面を開く	30
電源について	7	BROWSE画面内のナビゲーション	30
結露について	7	BROWSE画面内のアイコン表示	30
製品のお手入れ	7	フォルダの操作	30
SSD / HDDについて	7	テイクやファイルの操作	31
メディアについて	7	フォルダ名/テイク名/ファイル名を編集する	31
取り扱い上の注意	7	フォルダ/テイク/ファイルを削除する	32
フォーマットについて	7	フォルダ/テイク/ファイルのコピー	32
ユーザー登録について	7	フォルダをリビルド (再構成) する	33
アフターサービス	8	テイクのスタートタイムコードを編集する	33
新しいフォルダを作成する	33	フォルダ構成について	34
フォルダ構成について	34	フォルダ構成	34
ファイル名	34	ファイル名	34
ファイルフォーマットについて	34	ファイルフォーマットについて	34
第2章 各部の名称と働き	9	第6章 再生	35
フロントパネル	9	再生可能なファイル	35
リアパネル	11	再生の基本操作	35
PARALLEL端子について	12	再生する	35
ホーム画面	12	テイクを選択する	35
メニューの構成	14	前後のテイクにスキップする	35
メニュー画面の基本操作	16	テイクを直接指定する	35
メニュー操作の手順	16	早戻し/早送りサーチ	35
第3章 準備	17	再生モードを設定する	35
SSD/HDDケースにSSD / HDDをセットする	17	リピートモードを設定する	35
SSD/HDDケースを挿入する/取り出す	17	第7章 内部設定詳細	36
SSD/HDDケースを挿入する	17	タイムコードの設定	36
SSD/HDDケースを取り出す	17	TC SETUP 1ページの設定	36
セキュリティサービスについて	17	TC SETUP 2ページの設定	37
USBメモリーを挿入する/取り外す	18	PARALLEL端子の設定	38
別売のI/Oカードを取り付ける	18	PARALLEL INPUTページの設定	38
電源のオン/オフ (スタンバイ状態)	18	PARALLEL OUTPUTページの設定	38
内蔵時計の日時を設定する	19	ネットワーク機能の設定	39
輝度を調節する	19	SNTP機能の設定	40
SSD / HDD / USBメモリーを使えるようにする	19	ネットワーク機能 (FTPサーバー / telnet / VNC)	42
ヘッドホンの接続	20	FTP (ファイル・トランスファー・プロトコル) サーバー	42
ヘッドホンのモニターモード設定	20	リモートコントロール (Telnet)	43
ロック機能の設定	21	VNC (ヴァーチャル・ネットワーク・コンピューティング)	44
第4章 録音	22	OSC (オシレーター) の設定	44
録音動作での制約事項	22	第8章 マーク機能とロケート機能	45
マスタークロックを設定する	22	マーク機能	45
ワード/ビデオ端子の設定をする	23	マークポイントを登録する	45
リファレンスレベルを設定する	23	マークポイントの操作	45
インプットモニターを設定する	23	マークポイントに移動する	45
任意のチャンネルのインプットモニターを設定する	24	マークポイントの名前を編集する	46
録音チャンネルを設定する	24	マークポイントを削除する	46
任意のチャンネルのレコードファンクションを設定する	24	カレントテイクの全てのマークポイントを削除する	46
録音するファイル形式を設定する	25	マークポイントの位置を編集する	46
ファイル名の形式を設定する	26	マークポイントの情報を見る	46
文字列の編集方法	26	指定した位置にロケートする	47
テイク番号を自動で更新する	27	途中まで指定したロケート条件でサーチを行う	47
テイク番号を手動で更新する	27		
録音中に自動でマークポイントを登録する	27		
録音中に手動でマークポイントを登録する	28		
録音中のマークポイントの登録	28		
ポーズモード機能を設定する	28		

第9章 外部機器で録音したファイルを取り込む.....	48
取り込み前の準備	48
取り込んだファイルを本機で扱う	48
第10章 パソコンを使ったデータ送受信	49
必要なパソコンシステム.....	49
SSD/HDDとパソコンを接続する	49
接続を解除する.....	50
第11章 各種設定／情報表示／キーボード操作	51
INFOボタン／インジケータの表示	51
ファームウェアバージョンの確認	51
ファームウェアアップデート手順	52
メディアの情報の確認	52
ピークホールド表示の設定.....	53
メーターモードの設定	53
USBキーボードを使った操作.....	53
キーボードタイプの設定	53
キーボードを使って名前や数値を入力する	53
キーボード操作一覧.....	54
電源リダンダント確認機能の設定（DA-6400dpのみ）.....	55
システムバックアップデータを エクスポートする／インポートする	55
出荷時の設定に戻す	56
第12章 トラブルシューティング.....	57
第13章 仕様	58
定格	58
アナログ出力.....	58
コントロール入出力定格.....	58
一般	58
寸法図	59
ブロックダイアグラム	59
第14章 ソフトウェアなどに関する重要なお知らせ.....	60
Open Source License Term.....	60

第1章 はじめに

このたびは、TASCAM Digital Multitrack Recorder DA-6400 / DA-6400dpをお買い上げいただきまして、誠にありがとうございますとさせていただきます。

ご使用になる前に、この取扱説明書をよくお読みになり、正しい取り扱い方法をご理解いただいた上で、末永くご愛用くださいますようお願い申し上げます。お読みになったあとは、いつでも見られる所に保管してください。

また取扱説明書は、TASCAMのウェブサイト (<http://tascam.jp/>) からダウンロードすることができます。

本機の概要

- 44.1k/48kHz 24bit時最大64チャンネル、88.2k/96kHz 24bit時最大32チャンネルの録音/再生が可能なプロフェッショナル用途のマルチトラックレコーダー
- 1Uラックマウントサイズ
- カラー液晶ディスプレイ (320x120ドット) を搭載
- 記録メディアに2.5inch SSDを採用し、耐振動性、耐環境性に優れ、メンテナンス・フリーを実現。フロントパネルよりスロット構造で着脱可能
- AC電源リダンダント機能を搭載 (DA-6400dpのみ)
- カードスロットを搭載し、別売のI/Oカードを使用することでフレキシブルな入出力に対応
- 3Pインレットタイプの電源ケーブル装備
- ビデオリファレンス (NTSC/PALブラックバースト信号、またはHDTV Tri-level信号)、またはワードクロック入力および出力
- LAN (Gigabit Ethernet) 機能を搭載し、ネットワーク経由でファイル転送、リモートコントロール、監視が可能
- パラレルリモートコントロールに対応
- RS-422 (9ピンシリアルプロトコル準拠) シリアルリモートコントロールに対応
- USBメモリーを使用してファームウェアのアップデートが可能

本製品の構成

本製品の構成は、以下の通りです。

梱包箱と梱包材は、後日輸送するときのために保管してください。付属品が不足している場合や輸送中の損傷が見られる場合は、タスカム カスタマーサポート (巻末に記載) までご連絡ください。

- | | |
|------------------------------------|----|
| ● 本体 | x1 |
| ● 電源コード (DA-6400のみ) | x1 |
| ● 電源コード (DA-6400dpのみ) | x2 |
| ● AK-CC25 (SSD/HDDケース) | x1 |
| ● TASCAM TSSD | x1 |
| ● USBケーブル
(補助電源コネクタ付き、USB3.0準拠) | x1 |
| ● ラックマウントビスキット | x1 |
| ● セキュリティービスキット | x1 |
| ● 取扱説明書 (本書、保証書付き) | x1 |

本書の表記

本書では、以下のような表記を使います。

- 本機のボタン/端子などを「MENUボタン」のように太字で表記します。
- ディスプレーに表示される文字を“BROWSE”のように“_”で括って表記します。
- ディスプレーに表示される反転表示部のことを「カーソル」と表記します。
- 「USBフラッシュドライブ」のことを「USBメモリー」と表記します。
- 本機での1回の録音操作で作られる最大64個の音声ファイル群のことを「テイク」と表記します。
- 本機で再生可能なファイルの総称として「音楽ファイル」と表記する場合があります。
- 現在選択中のデバイスのことを「カレントデバイス」と表記します。
- 現在選択中のフォルダーのことを「カレントフォルダー」と表記します。
- 現在ロード中のテイクのことを「カレントテイク」と表記します。
- 必要に応じて追加情報などを、「ヒント」、「メモ」、「注意」として記載します。

ヒント

本機をこのように使うことができる、といったヒントを記載します。

メモ

補足説明、特殊なケースの説明などを記載します。

注意

指示を守らないと、人がけがをしたり、機器が壊れたり、データが失われたりする可能性がある場合に記載します。

商標および著作権に関して

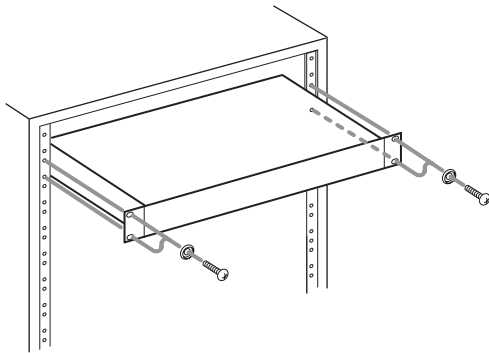
- TASCAMおよびタスカムは、ティアック株式会社の登録商標です。
- 当製品には、イーソル株式会社のリアルタイムOSベースソフトウェアプラットフォーム「eT-Kernel Platform」が搭載されています。
- その他、記載されている会社名、製品名、ロゴマークは各社の商標または登録商標です。

ここに記載されております製品に関する情報、諸データは、あくまで一例を示すものであり、これらに関します第三者の知的財産権、およびその他の権利に対して、権利侵害がないことの保証を示すものではありません。従いまして、上記第三者の知的財産権の侵害の責任、またはこれらの製品の使用により発生する責任につきましては、弊社はその責を負いかねますのでご了承ください。

第三者の著作物は、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上権利者に無断で使用できません。装置の適正使用をお願いします。弊社では、お客様による権利侵害行為につき一切の責任を負担致しません。

設置上の注意

- 本機の動作保証温度は、摂氏0度～40度です。
- 次のような場所に設置しないでください。音質悪化の原因、または故障の原因となります。
 - 振動の多い場所
 - 窓際などの直射日光が当たる場所
 - 暖房器具のそばなど極端に温度が高い場所
 - 極端に温度が低い場所
 - 湿気の多い場所や風通しが悪い場所
 - ほこりの多い場所
- 本機は、水平に設置してください。
- 放熱をよくするために、本機の上には物を置かないでください。
- パワーアンプなど熱を発生する機器の上に本機を置かないでください。
- 本機をラックにマウントする場合は、付属のラックマウントビスケットを使って、下図のように取り付けてください。なお、ラック内部では、本機の上に1U以上のスペースを空けてください。



電源について

- 付属の電源コードをAC IN端子に奥までしっかりと差し込んでください。
- AC100V (50-60Hz) 以外の電源には、接続しないでください。
- 電源コードの抜き差しは、プラグを持って行ってください。
- 電源リダンダント用に接続する2つの電源は、他方に影響がない別系統の電源から取ってください。

結露について

本機を寒い場所から暖かい場所へ移動したときや、寒い部屋を暖めた直後など、気温が急激に変化すると結露を生じることがあります。結露したときは、約1～2時間放置してから電源を入れてお使いください。

製品のお手入れ

製品の汚れは、柔らかい乾いた布で拭いてください。化学雑巾、ベンジン、シンナー、アルコールなどで拭かないでください。表面を傷める、または色落ちさせる原因となります。

SSD / HDDについて

メディアについて

本機は、録音／再生にSSD / HDDを使います。また、本機には動作確認済みのSSDが同梱されています。

このSSDはTASCAMから別売もされていますので、これをご使用ください。

他のメディアについての情報は、TASCAMウェブサイトをご参照ください。または、タスカムカスタマーサポートまでお問い合わせください。(http://tascam.jp/)

取り扱い上の注意

SSD / HDDは、精密にできています。SSD / HDDの破損を防ぐため、取り扱いに当たって以下の点をご注意ください。

- 極端に温度の高いあるいは低い場所に放置しないこと。
- 極端に湿度の高い場所に放置しないこと。
- 濡らさないこと。
- 上に物を載せたり、ねじ曲げたりしないこと。
- 衝撃を与えないこと。
- 録音、再生状態やデータ転送などアクセス中に、抜き差しを行わないこと。
- 持ち運ぶ際、専用のケースなどに入れて運ぶこと。

フォーマットについて

本機でフォーマットされたSSD / HDDは、録音時の性能向上のために最適化されています。そのため、本機で使用するSSD / HDDは本機でフォーマットを行ってください。パソコンなどでフォーマットされたSSD / HDDは、本機での録音時にエラーになる可能性があります。

ユーザー登録について

TASCAMのウェブサイトにて、オンラインでのユーザー登録をお願い致します。

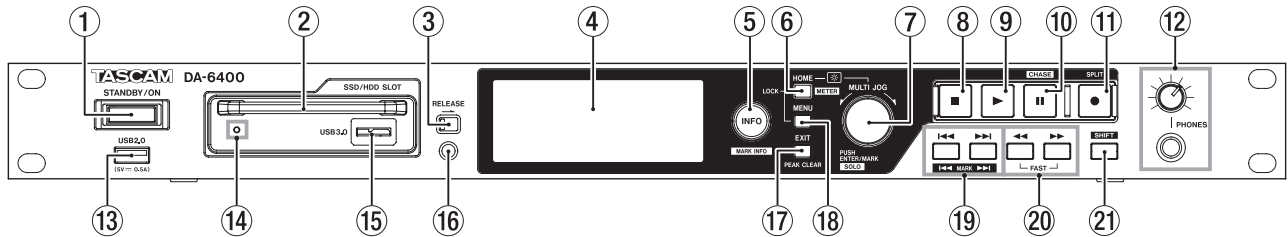
<http://tascam.jp/support/registration/>

アフターサービス

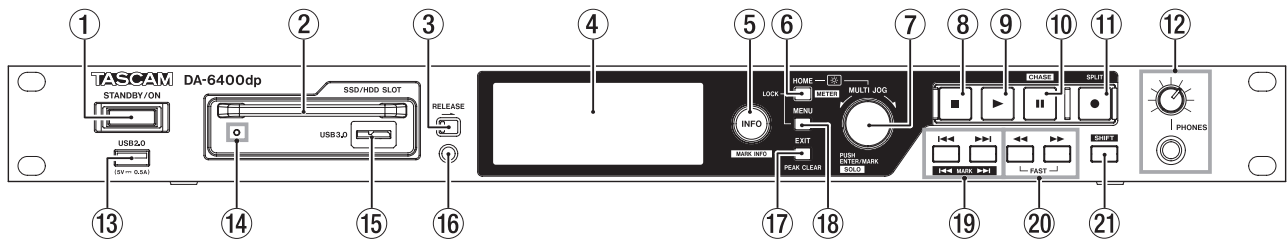
- この製品には、保証書が添付（巻末に記載）されています。大切に保管してください。万が一販売店の捺印やご購入日の記載がない場合は、無料修理保証の対象外になりますので、ご購入時のレシートなどご購入店・ご購入日が確認できる物を一緒に保管してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年です。保証期間中は、記載内容によりティアック修理センター（巻末に記載）が無償修理致します。その他の詳細については、保証書をご参照ください。
- 保証期間経過後、または保証書を提示されない場合の修理などについては、お買い上げの販売店またはティアック修理センター（巻末に記載）にご相談ください。修理によって機能を維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理致します。
- 万一、故障が発生した場合は使用を中止し、必ず電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げの販売店またはティアック修理センター（巻末に記載）までご連絡ください。修理を依頼される場合は、次の内容をお知らせください。
なお、本機の故障、もしくは不具合により発生した付随的損害（録音内容などの補償）の責については、ご容赦ください。
本機を使ったSSD / HDD / USBメモリーなどの記憶内容を消失した場合の修復に関しては、補償を含めて当社は責任を負いかねます。
 - 型名、型番（DA-6400 / DA-6400dp）
 - 製造番号（Serial No.）
 - 故障の症状（できるだけ詳しく）
 - お買い上げ年月日
 - お買い上げ販売店名
- お問い合わせ先については、巻末をご参照ください。
- 本機を廃棄する場合に必要となる収集費などの費用は、お客様のご負担になります。

フロントパネル

DA-6400 フロントパネル



DA-6400dp フロントパネル



① STANDBY/ONスイッチ

電源のオン/スタンバイ状態の切り換えを行います。
電源オン時に押し続けると、スタンバイ状態に切り換えるかどうかのメッセージがポップアップ表示されます。
メッセージがポップアップ表示中に**MULTI JOG**ダイヤルを押し続けると、スタンバイ状態に切り換わります。

注意

電源を入れる前には、接続機器の音量を最小にしてください。
突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。

② SSD/HDDスロット

SSD/HDDケースを挿入/取り出します。(→ 17ページ「SSD/HDDケースを挿入する/取り出す」)

注意

本機がSSD/HDDにアクセス中(録音中、再生中、SSD/HDDにデータを書き込み中などSSD/HDDケースのインジケータがオレンジ色で点滅している間)には、SSD/HDDケースを抜き差ししないでください。

③ RELEASEスイッチ

RELEASEスイッチを「→」の方向へスライドすると、挿入されているSSD/HDDケースのロックが解除され、SSD/HDDケースが取り出せるようになります。

④ カラーディスプレイ

各種情報を表示します。

⑤ INFOボタン/インジケータ

本機が正常に動作しているときは、**INFO**インジケータが青色に点灯します。

本機にエラーまたは警告事項が発生しているときは、**INFO**インジケータが赤色に点灯します。

INFOインジケータが青色に点灯しているときにこのボタンを押すと、ディスプレイに本機の動作状態を表示します。また、**INFO**インジケータが赤色に点灯しているときにこのボタンを押すと、ディスプレイにメッセージを表示します。(→ 51ページ「INFOボタン/インジケータの表示」)

SHIFTボタンを押しながらこのボタンを押すと、「**MARK INFO**」画面を表示します。(→ 45ページ「マークポイントの操作」)

⑥ HOME [METER] ボタン

- ホーム画面表示中に押すと、時間表示モードを切り換えることができます。
- メニュー画面表示中に押すと、ホーム画面に戻ります。
- このボタンを押しながら**MULTI JOG**ダイヤルを回すと、カラーディスプレイおよび各種インジケータの輝度を調節することができます。(→ 19ページ「輝度を調節する」)
- このボタンを押しながら**MULTI JOG**ダイヤルを押し回しすると、カラーディスプレイのみの輝度が調節できます。(→ 19ページ「輝度を調節する」)
- メーターモードの設定が「**32ch**」に設定されている際に**SHIFT**ボタンを押しながらこのボタンを押すと、ホーム画面に表示するレベルメーターのチャンネル表示を「**1-32**」表示と「**33-64**」表示を切り換えします。(→ 53ページ「メーターモードの設定」)

⑦ MULTI JOGダイヤル

このダイヤルは、回して使うホイール機能と、押して使うボタン機能を兼ね備えています。

[ホイール機能]

- ホーム画面で白いソロ選択枠表示中に**MULTI JOG**ダイヤルを回すと、ヘッドホン出力のソロ選択枠表示を左右に移動し、**PHONES**端子から出力するチャンネルの選択を行います。
- ホーム画面で灰色のソロ選択枠表示中に**MULTI JOG**ダイヤルを回すと、カレントテイクのマークポイントに移動します。マークポイントがない場合、テイクにスキップします。
- メニュー画面表示中、メニュー項目の選択や設定値の選択を行います。
- 名前の編集時、文字の選択を行います。
- **HOME [METER]** ボタンを押しながら**MULTI JOG**ダイヤルを回すと、カラーディスプレイと各種インジケータの輝度を調節できます。
- **HOME [METER]** ボタンを押しながらこのダイヤルを押し回しするとカラーディスプレイのみの輝度が調節できます。
- 「**BROWSE**」画面表示中に回すと、フォルダーを選択することができます。(→ 30ページ「BROWSE画面内のナビゲーション」)

第2章 各部の名称と働き

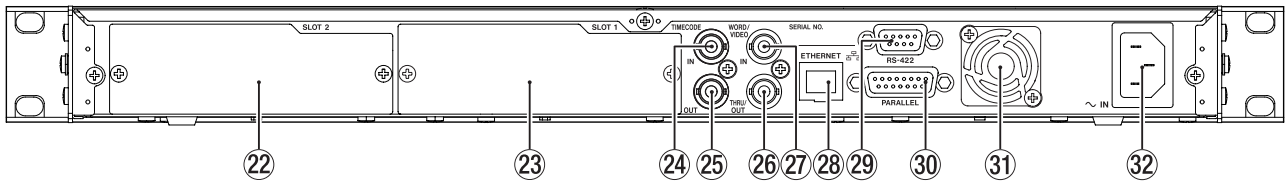
[ボタン機能]

- ホーム画面表示中、停止中／録音中／録音待機中／再生中／再生待機中に押すと、マークポイントを登録します。(→ 45ページ「マーク機能」)
 - ホーム画面表示中、**SHIFT**ボタンを押しながら**MULTI JOG**ダイヤルを押すと、ソロ選択枠表示の白／灰色切り換えを行います。
 - ホーム画面表示中、**SHIFT**ボタンを押しながら**MULTI JOG**ダイヤルを押し続けると、ヘッドホンのモニターモードの“**STEREO**”／“**MONO**”切り換えを行います。(→ 21ページ「ヘッドホンのモニターモード設定」)
 - メニュー画面表示中、選択や設定を確定します(**ENTER**ボタン機能)。
 - “**BROWSE**”画面表示中に押すと、選択中のフォルダー／ファイルのフォルダーメニュー／ファイルメニューをポップアップ表示します。(→ 30ページ「フォルダーの操作」)、(→ 31ページ「テイクやファイルの操作」)
 - “**BROWSE**”画面やメニュー画面を表示中に、**SHIFT**ボタンを押しながら**MULTI JOG**ダイヤルを回すと、大まかな設定動作(MOVE Fast動作)をします。
- ⑧ ■ **ボタン**
再生や録音を停止します。
- ⑨ ▶ **ボタン／インジケーター**
停止中または再生待機中に押すと、再生を開始します。
録音待機中に押すと、録音を開始します。
再生中や録音中、ボタンが点灯します。
- ⑩ ■ **[CHASE] ボタン／インジケーター**
停止中または再生中に押すと、再生待機状態になります。
録音中に押すと、録音待機状態になります。
再生待機中や録音待機中、ボタンが点灯します。
- ⑪ ● **[SPLIT] ボタン／インジケーター**
停止中に押すと、録音待機状態になります。
録音中や録音待機中は、ボタンが点灯します。
録音中に押すと、録音は継続したままですが、現在のテイクへの録音を停止し、新しいテイクへの録音を継続します。
- ⑫ **PHONES端子／つまみ**
ステレオヘッドホンを接続するためのステレオ標準ジャックです。ミニプラグのヘッドホンを接続する場合は、変換アダプターをご使用ください。
PHONESつまみでヘッドホン出力レベルを調節します。
- 注意**
ヘッドホンを接続する前には、**PHONES**つまみで音量を最小にしてください。突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。
- ⑬ **USB2.0端子**
USBメモリーを挿入／取り外します。(→ 18ページ「USBメモリーを挿入する／取り外す」)
USBメモリーを接続し、メモリー内のファイルとSSD／HDDとの相互コピーをします。また、USBキーボードを接続し、フォルダー名やファイル名などの入力や外部コントロールに使用します。初期設定は、日本語用キーボードに設定されています。英語用キーボードは日本語用キーボードと配列が異なるため、英語用キーボードを使用する場合には“**KEYBOARD TYPE**”画面で設定を変更してください。(→ 53ページ「キーボードタイプの設定」)
- ⑭ **SSD/HDDスロット電源／アクセスインジケーター**
通電中、SSD/HDDにアクセスしていない場合は、青色に点灯し続けます。
SSD／HDDにアクセス中は、SSD/HDDスロットインジケーターがオレンジ色に点滅します。

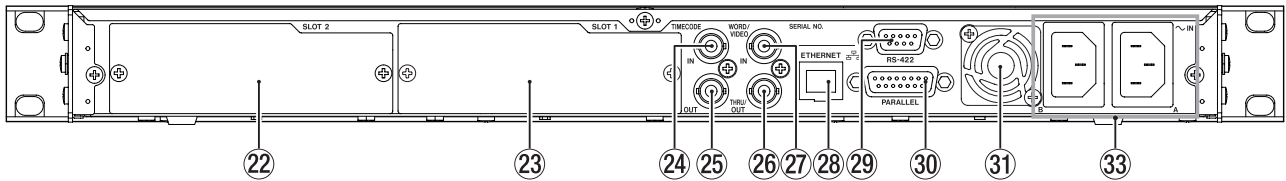
- ⑮ **SSD/HDDスロットUSB3.0端子**
付属のUSBケーブルを使って、パソコンと接続します。
パソコンとSSD／HDDのデータをやりとりする際に使用します。
USB2.0対応のUSBポートに接続した場合は、USB2.0転送速度にのみ対応します。
- ⑯ **セキュリティービス取り付け穴**
付属のセキュリティービスキットを使って**RELEASE**スイッチをロックすることができます。(→ 18ページ「セキュリティービスについて」)
- ⑰ **EXIT [PEAK CLEAR] ボタン**
各設定画面を表示中にこのボタンを押すと、メニュー階層を1つ戻ります。
確認のポップアップメッセージに対して「**NO**」と答えるときに、このボタンを押します。
ホーム画面を表示中にこのボタンを押すと、レベルメーターのピークホールドをクリアします。
- ⑱ **MENUボタン**
ホーム画面を表示中にこのボタンを押すと、メニュー画面を表示します。(→ 14ページ「メニューの構成」)、(→ 16ページ「メニュー画面の基本操作」)
- ⑲ ◀◀ / ▶▶ **[MARK ▶▶ / ▶▶] ボタン**
このボタンを押すと、前／次のテイクにスキップします。
SHIFTボタンを押しながらこのボタンを押すと、前／次のマークポイントに移動します。
- ⑳ ◀◀ / ▶▶ **ボタン**
このボタンを押している間、早戻し／早送りサーチを行います。
早戻し／早送りサーチ中に逆方向の◀◀ボタンまたは▶▶ボタンを押し続けると高速早戻し／早送りサーチを行います。
- ㉑ **SHIFTボタン**
- ホーム画面表示中にこのボタンを押しながら**MULTI JOG**ダイヤルを押すと、メーター部に白い枠が表示され、**MULTI JOG**ダイヤルを回して**PHONES**端子から音声出力するチャンネルを選択できるようになります。
 - ホーム画面表示中、このボタンを押しながら**MULTI JOG**ダイヤルを押し続けると、ヘッドホンのモニターモードの“**STEREO**”／“**MONO**”切り換えを行います。(→ 21ページ「ヘッドホンのモニターモード設定」)
 - メーターモードの設定が“**32ch**”に設定されている際にこのボタンを押しながら**HOME [METER]**ボタンを押すと、ホーム画面に表示するレベルメーターのチャンネル表示を“**1-32**”表示と“**33-64**”表示を切り換えします。(→ 53ページ「メーターモードの設定」)
 - このボタンを押しながら**INFO**ボタンを押すと、“**MARK INFO**”画面を表示します。
 - このボタンを押しながら**MENU**ボタンを押すと、逆方向にメニューページが切り換わります。
 - ホーム画面で音声出力チャンネル選択中、“**REC FUNCTION**”画面または“**INPUT MONITOR**”画面で設定変更チャンネルを選択中、“**BROWSE**”画面でフォルダー選択中に、このボタンを押しながら**MULTI JOG**ダイヤルを回すと、カーソルが大きく移動します。
- 停止中／再生待機中／再生中に
- このボタンを押しながら◀◀ **[MARK ▶▶] ボタン**を押すと、1つ手前のマークポイントに移動し、停止／再生待機、または再生を開始します。
 - このボタンを押しながら▶▶ **[MARK ▶▶] ボタン**を押すと、1つ先のマークポイントに移動し、停止／再生待機、または再生を開始します。

リアパネル

DA-6400 リアパネル



DA-6400dp リアパネル



- ② **SLOT 2**
別売のI/Oカードを搭載するためのカードスロットです。
- ③ **SLOT 1**
別売のI/Oカードを搭載するためのカードスロットです。
- ④ **TIMECODE IN端子**
BNCタイプのSMPTEタイムコード入力端子です。
- ⑤ **TIMECODE OUT端子**
BNCタイプのSMPTEタイムコード出力端子です。
- ⑥ **WORD/VIDEO THRU/OUT端子**
BNCタイプのワードクロック、ビデオリファレンス信号出力端子です。
ワードクロック信号（スルー、もしくは44.1k/48k/88.2k/96kHzの出力）、ビデオリファレンス信号（IN端子の信号をスルー）を出力します。
- ⑦ **WORD/VIDEO IN端子**
BNCタイプのワードクロック、ビデオリファレンス信号入力端子です。ワードクロック信号（44.1k/48k/88.2k/96kHz）、ビデオリファレンス信号（NTSC / PALのブラックバースト信号、HDTV Tri-Level信号）を入力します。
- ⑧ **ETHERNET端子**
イーサネット端子です。ネットワーク接続し、ファイルの転送や、外部から本機を制御するのに使用します。
- ⑨ **RS-422端子**
D-sub 9ピンのRS-422シリアルコントロール端子です。
外部コントローラーを接続します。
- ⑩ **PARALLEL端子**
D-sub 15ピンのパラレルコントロール端子です。
外部コントローラーを接続します。
- ⑪ **放熱用ファン**
本機の過熱を防ぐためのファンです。ファンの部分をふさいで放熱を妨げることのないようにしてください。
- ⑫ **AC IN端子 (DA-6400のみ)**
付属の電源コードを接続します。
- ⑬ **AC IN A / B端子 (DA-6400dpのみ)**
付属の電源コードを接続します。
電源リダンダント（冗長化）運転を行うには、AC IN A端子およびAC IN B端子の両方に電源を接続します。

第2章 各部の名称と働き

PARALLEL端子について

リアパネルにあるPARALLEL端子は、本機器を外部制御するためのパラレルコントロール端子です。

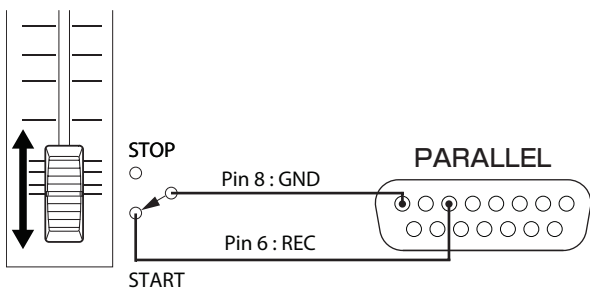
PARALLEL端子の機能の設定内容は、“PARALLEL INPUT” ページおよび “PARALLEL OUTPUT” ページで設定することができます。(→ 38ページ「PARALLEL端子の設定」)

工場出荷時のピンアサインは、以下の通りです。

Pin No.	I/O	機能 (初期値)
1	O	OUTPUT AUX1 (“STOP TALLY”)
2	O	OUTPUT AUX2 (“REC TALLY”)
3	I	INPUT AUX1 (“TAKE SKIP +”)
4	I	INPUT AUX2 (“TAKE SKIP -”)
5	O	OUTPUT AUX3 (“ERROR TALLY”)
6	I	INPUT AUX3 (“FADER REC”)
7	I	INPUT AUX4 (“REW”)
8		GND
9	O	OUTPUT AUX4 (“PLAY TALLY”)
10	O	OUTPUT AUX5 (“PAUSE TALLY”)
11	I	INPUT AUX5 (“F.FWD”)
12	I	STOP
13	I	PLAY
14	I	INPUT AUX6 (“PAUSE”)
15		+5V

- I: コマンド入力、トランスポートコントロール用
内部回路で、+5Vでプルアップ
50m sec以上のロー信号の入力で動作
INPUT AUXに “FADER REC” を設定した場合、ロー信号の入力で録音開始、ハイ信号の入力で録音停止。
INPUT AUXに “FADER START” を設定した場合、ロー信号の入力で再生開始、ハイ信号の入力で再生待機。
- O: コマンド出力、タリール出力用
内部回路は、オープンコレクタ (出力インピーダンス: 10Ω)
動作時にローコマンドを出力
耐圧20V、最大電流35mA
+5V: 最大供給電流 50mA

以下は、フェーダースタート/ストップや “FADER REC” のような、レベルによって本機の録音や再生をコントロールする場合の接続例です。

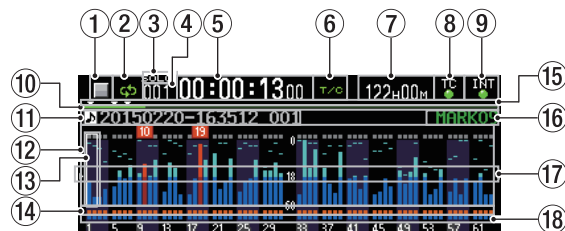


メモ

INPUT AUXに複数の “FADER REC” または “FADER START” を設定することはできません。

ホーム画面

本機のディスプレイには、以下の情報が表示されます。



① トランスポートステータス表示

現在のトランスポートの状態をアイコン表示します。

アイコン	表示内容
	再生時
	再生待機時
	停止時
	早戻し時
	早送り時
	早戻し時 (高速サーチ)
	早送り時 (高速サーチ)
	録音時
	録音待機時

② リpeat状態表示

	リピート再生がオフのときは、“” アイコンは消灯します。
	リピート再生がオンのときは、“” アイコンが緑色に点灯します。

③ ソロ表示

ソロ選択枠が白で表示されているとき、“SOLO” アイコンを点滅表示します。

④ テイク番号表示

録音/再生中のテイク番号を表示します。

⑤ タイムカウンター表示

録音/再生テイクの経過時間、またはタイムコード時刻を表示します。

⑥ 時間表示モード表示

現在の時間表示モードをアイコン表示します。



時間表示モード	表示内容
	テイク先頭からの経過時間を表示します。
	テイクの終わりまでの残り時間、録音時は最大ファイルサイズまでの残り時間を表示します。
	テイクの総経過時間を表示します。
	再生時はテイクの総残り時間、録音時は録音可能残り時間を表示します。
	録音・再生テイクのタイムコード時刻を表示します。

⑦ メディア残量表示



現在のメディアの録音可能残り時間を表示します。
SSD / HDDが装着されていない場合は、“No Media”と表示されます。
未フォーマットのSSD / HDD装着時は、“UNFORMAT”と表示されます。
フォルダー内のテイク、フォルダーなどの総数がシステムの制限数を超えたため録音ができなくなった場合には、“Rec Limit”と表示されます。

⑧ タイムコード状態表示

“TC GENERATOR MODE”画面が“TC SYNC REC”以外の場合



	正しいタイムコードが入力され、認識が正常なときは、“TC”インジケータが緑色に点灯します。
	入力タイムコードの認識が正常でないときは、消灯します。

“TC GENERATOR MODE”画面が“TC SYNC REC”の場合

	正しいタイムコードが入力され、認識が正常なときは、“TC”インジケータが赤色に点灯します。
	入力タイムコードの認識が正常でないときは、“TC”インジケータが赤点滅します。





⑨ オーディオ同期の状態表示

現在選択されているマスタークロックの名前がインジケータと一緒に表示されます。(→ 22ページ「マスタークロックを設定する」)

	マスタークロックに同期中、インジケータが緑色に点灯します。
	マスタークロックに同期していないときは、インジケータが点滅します。

⑩ タイムバー表示

現在の再生位置を表示します。時間表示モードによって、表示内容が異なります。

時間表示モード	表示内容	バー表示
	テイクの長さに対する現在の再生位置を表示。	左端から右端に伸びていくように表示。 左端から右端に縮んでいくように表示。
	フォルダー内の全テイクの長さに対する現在の再生位置を表示。	左端から右端に伸びていくように表示。
	フォルダー内の全テイクの長さに対する現在の再生位置を表示。(テイクの区切り目には、縦の白線を表示。)	左端から右端に縮んでいくように表示。
	テイクの長さに対する現在の再生位置を表示。	左端から右端に伸びていくように表示。

メモ

録音中は、約10秒周期で左端から右端まで伸びるプログレスバーが表示されます。

⑪ テイク名表示

現在呼び出しているテイク名を表示します。

⑫ レベルメーター表示部

入力音または再生音のレベルを表示します。
レベルがオーバーロードするとバーメーターが赤くなり、バーメーター上部にチャンネル番号がポップアップ表示されます。

⑬ ソロ選択枠表示部

現在、PHONES端子から出力しているチャンネルのレベルメーター表示を白または灰色の枠で表示します。選択枠が白で表示されているときにMULTI JOGダイヤルを回して、PHONES端子から出力されるチャンネルを選択します。
SHIFTボタンを押しながらMULTI JOGダイヤルを押すと、ヘッドホン出力のソロ選択枠表示の白/灰色切り換えを行います。
“PHONES MONITOR MODE”画面の設定が“MONO”のとき、ソロ選択枠表示がモノラルチャンネル表示になります。(→ 21ページ「ヘッドホンのモニターモード設定」)

⑭ レコードファンクション表示部

各チャンネルのレコードファンクションのオン/オフを表示します。

レコードファンクション オン : 赤色点灯
レコードファンクション オフ : 灰色点灯

⑮ マークポイント表示

マークポイントに“▼”アイコンを表示します。

⑯ マーク名表示

現在時刻または直前のマーク名を表示します。

⑰ レベルメーターガイド表示

入力/出力レベルの目安となるレベルメーターガイドです。目盛りの-18dBの位置を表示しています。
“REFERENCE LEVEL”画面の設定値によって、“▶ 18 ◀”ガイド表示位置と数値が変わります。(→ 23ページ「リファレンスレベルを設定する」)

⑱ インプットモニター表示部

各チャンネルのインプットモニターのオン/オフを表示します。
インプットモニター オン : 青点灯
インプットモニター オフ : 消灯

メモ

サンプリング周波数が88.2k/96kHzの場合、33-64chエリアの下記データは表示されません。

- レベルメーター
- レコードファンクション
- インプットモニター

また、33-64chにはソロ選択枠を移動できません。

第2章 各部の名称と働き

メニューの構成

MENUボタンを押すと、最初はメニュー画面の“GENERAL”ページが表示されます。次回以降は、前回表示したページが表示されます。



メニュー画面は、メニュー項目の種類ごとに17のページで構成されています。

ページ名	内容
1 GENERAL	一般機能の設定を行います。
2 REC FILE FORMAT	録音ファイルフォーマットの設定を行います。
3 REC OPTIONS	録音オプションの設定を行います。
4 PLAY SETUP	再生の設定を行います。
5 INPUT ROUTING1	インプットルーティングの設定を行います。
6 INPUT ROUTING2	
7 SLOT1	SLOT 1の設定を行います。
8 SLOT2	SLOT 2の設定を行います。
9 TC SETUP 1	タイムコード関連の設定を行います。
10 TC SETUP 2	
11 PARALLEL INPUT	PARALLEL端子の入力の設定を行います。
12 PARALLEL OUTPUT	PARALLEL端子の出力の設定を行います。
13 NETWORK	ネットワークの設定を行います。
14 SNTP	SNTPの設定を行います。
15 MEDIA	メディアの操作を行います。
16 PREFERENCES	プリファレンス項目の設定を行います。
17 SYSTEM SETUP	システムの設定を行います。

各メニュー項目は、以下の通りです。

メニュー項目	機能	参照ページ
GENERALページ		
BROWSE	“BROWSE” 画面を表示。	→ 30ページ
CLOCK MASTER	マスタークロックを設定	→ 22ページ
WORD/VIDEO SETUP	ワード/ビデオ端子を設定	→ 23ページ
REFERENCE LEVEL	リファレンスレベルを設定	→ 23ページ
INPUT MONITOR	入力モニター機能を設定	→ 23ページ
REC FILE FORMATページ		
REC FUNCTION	録音チャンネルを設定	→ 24ページ
BIT LENGTH	ビット長を設定	→ 25ページ
REC Fs	サンプリング周波数を設定	
FILE NAME	ファイル名の形式を設定	→ 26ページ
REC OPTIONSページ		
AUTO FILE INCREMENT	オートテイク機能を設定	→ 27ページ
AUTO MARK	オートマーク機能を設定	→ 27ページ
PAUSE MODE	ポーズモード機能を設定	→ 28ページ
PLAY SETUPページ		
PLAY MODE	再生モードを設定	→ 35ページ
REPEAT MODE	リピートモードを設定	→ 35ページ
INPUT ROUTING1ページ		
CHANNEL 1-8	入力のルーティングを設定	→ 28ページ
CHANNEL 9-16		
CHANNEL 17-24		
CHANNEL 25-32		
INPUT ROUTING2ページ		
CHANNEL 33-40	入力のルーティングを設定	→ 28ページ
CHANNEL 41-48		
CHANNEL 49-56		
CHANNEL 57-64		
SLOT1ページ		
SLOT1に装着されているSLOTカードの各種機能を設定		→ 29ページ
SLOT2ページ		
SLOT2に装着されているSLOTカードの各種機能を設定		→ 29ページ
TC SETUP 1ページ		
GENERATOR TC	タイムコードジェネレーターのタイムコードを設定	→ 36ページ
GENERATOR U.B.	タイムコードジェネレーターのユーザーズビット (U.B.) を設定	
TC INPUT MONITOR	入力タイムコード時刻を表示	
TC INPUT FRAME	入力タイムコードのフレームタイプを表示	
TC INPUT U.B.	入力タイムコードのユーザーズビット (U.B.) を表示	
START TIME	タイムコードを再開する時刻を設定	

メニュー項目	機能	参照ページ
TC SETUP 2ページ		
TC GENERATOR MODE	タイムコードジェネレーター のモードを設定	→ 37ページ
TC FRAME TYPE	タイムコードのフレームタイプ を設定	
TC OUTPUT MODE	タイムコードの出力モードを 設定	
PARALLEL INPUTページ		
INPUT AUX1	PARALLEL端子の入力端子 の機能を設定	→ 38ページ
INPUT AUX2		
INPUT AUX3		
INPUT AUX4		
INPUT AUX5		
INPUT AUX6		
PARALLEL OUTPUTページ		
OUTPUT AUX1	PARALLEL端子の出力端子 の機能を設定	→ 38ページ
OUTPUT AUX2		
OUTPUT AUX3		
OUTPUT AUX4		
OUTPUT AUX5		
EOM	EOM機能を設定	
NETWORKページ		
MAC ADDRESS	本機のMACアドレスを表示	→ 39ページ
IP ADDRESS	現在のIPアドレスを表示	
DNS ADDRESS	DNSサーバーのIPアドレス を表示	
IP SETUP	本機のIPアドレスなどを設定	
DNS SETUP	DNSサーバーのIPアドレス を設定	
PASSWORD	パスワードを設定	
SNTPページ		
SNTP STATUS	SNTP機能の状態を表示	→ 40ページ
SNTP UPDATE	SNTPの更新モードを設定	
NTP SERVER	NTPサーバー名を設定	
UPDATE TIME	NTPサーバーから時刻を取 得する時刻を設定	
TIME ZONE	協定世界時 (UTC) からの オフセット時間を設定	
DST SETUP	夏時間機能を設定	
MEDIAページ		
QUICK FORMAT	メディアのクイックフォー マット	→ 20ページ
FULL FOMAT	メディアのフルフォーマット	
MEDIA INFO	メディア情報を表示	→ 52ページ
SSD/HDD USB CONNECT	SSD/HDDとパソコンを接 続	→ 49ページ
PREFERENCESページ		
PHONES MONITOR MODE	ヘッドホンのモニターモード を設定	→ 21ページ
PEAK HOLD TIME	レベルメーターのピークホ ールド時間を設定	→ 53ページ
METER MODE	レベルメーターの表示チャン ネル数を設定	→ 53ページ

メニュー項目	機能	参照ページ
KEYBOARD TYPE	キーボードの種類を設定	→ 53ページ
POWER REDUNDANCY CHECK	電源リダンダント確認機能を 設定	→ 55ページ
SYSTEM SETUPページ		
SYSTEM BACKUP	システムバックアップデータ のエクスポート/インポート	→ 55ページ
FACTORY PRESET	工場出荷時の設定に戻す	→ 56ページ
OSCILLATOR	オシレーターを設定	→ 44ページ
CLOCK ADJST	内蔵時計の日時を設定	→ 19ページ
VERSION INFO	システムのバージョン情報を 表示	→ 51ページ
F/W UPDATE	ファームウェアのアップデー ト	→ 52ページ

メモ

各メニュー項目で設定したオシレーターのオン/オフ設定以外
の内容は、電源をオフにしても保持されます。

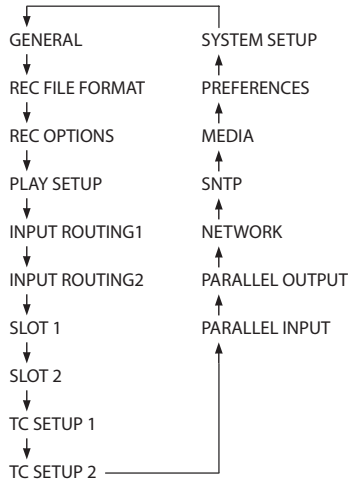
第2章 各部の名称と働き

メニュー画面の基本操作

メニュー画面の各メニューページ操作は、以下の操作で行います。

項目をページ単位で切り換えるには：

目的のメニューページが表示されるまでMENUボタンを押します。
切り換わる順番は、下記の通りです。



メモ

- SHIFTボタンを押しながらMENUボタンを押すと、逆方向にメニューページが切り換わります。
- MULTI JOGダイヤルを回して、メニュー画面“GENERAL”ページの“BROWSE”項目から“SYSTEM SETUP”ページの“F/W UPDATE”項目まで、1項目ごとに上下させることができます。
- SHIFTボタンを押しながらMULTI JOGダイヤルを回すと、メニュー画面を1ページごとに上下させることができます。

項目を選択する（画面の縦方向の選択）には：

MULTI JOGダイヤルを回します。

選択した項目を確認するには：

MULTI JOGダイヤルを押します。

画面に表示されていないサブ画面に進むには：

MULTI JOGダイヤルを押します。

メニュー階層を1つ戻るには：

EXIT [PEAK CLEAR] ボタンを押します。

メニューモード中、直接ホーム画面に戻るには：

HOME [METER] ボタンを押します。

メニュー操作の手順

オートマーク機能の設定を例に説明します。

1. MENUボタンを押して、メニュー画面の“GENERAL”ページを表示します。



2. MENUボタンを押して、各種メニューページを表示します。



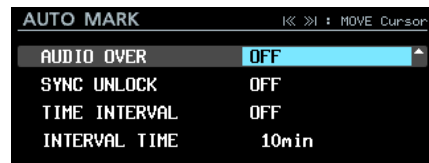
[REC OPTIONSページを表示時]

3. MULTI JOGダイヤルを回して、設定する項目を選択します。



[AUTO MARK選択時]

4. MULTI JOGダイヤルを押して、各種設定画面を表示します。



[AUTO MARK画面を表示時]

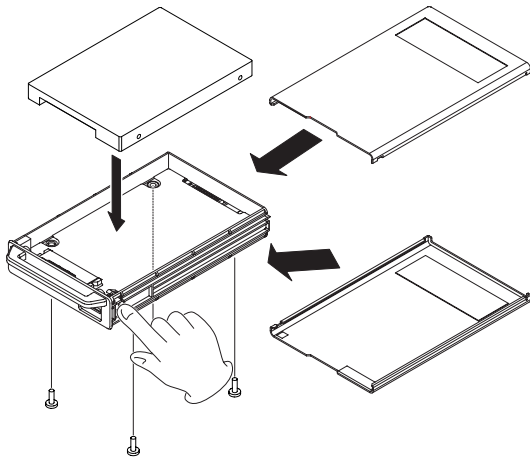
5. MULTI JOGダイヤルを回して、設定を変更します。
6. 同じ画面内で別の項目を設定する場合は、MULTI JOGダイヤルを押して次の設定項目にカーソルを移動します。
◀◀ / ▶▶ [MARK ◀◀ / ▶▶] ボタンでカーソル移動ができる場合は、画面右上に“|◀◀ ▶▶| : MOVE Cursor”と表示されます。
7. 必要に応じて、手順5. ~ 6.を繰り返して、各項目を設定します。
8. 最後の項目でMULTI JOGダイヤルを押すと、変更した設定を確認しメニュー画面に戻ります。
HOME [METER] ボタンを押すと、ホーム画面に戻ります。

メモ

- EXIT [PEAK CLEAR] ボタンを押すとメニュー操作を取り消し、メニュー画面に戻ります。
- 表示のみで変更できないメニュー項目は、灰色の文字で表示され、MULTI JOGダイヤルで選択できません。

SSD/HDDケースにSSD / HDDをセットする

1. SSD/HDDケースのハンドル左側のカバーロックを押しながら、下側のカバーをコネクタ側へスライドさせて外します。
2. SSD/HDDケースのハンドル右側のカバーロックを押しながら、上側のカバーをコネクタ側へスライドさせて外します。
3. SSD/HDDケースの上側にSSD / HDDを置き、ハンドルのコネクタに差し込みます。
4. セットしたSSD / HDDを、SSD/HDDケースの下側からネジで固定します。
5. SSD/HDDケースのカバーロック部を押しながら、上側と下側にコネクタ側からカバーをスライドさせて取り付けます。



注意

上下のカバーを取り付ける際、ハンドル近くにある部品を挟まないようにしてください。

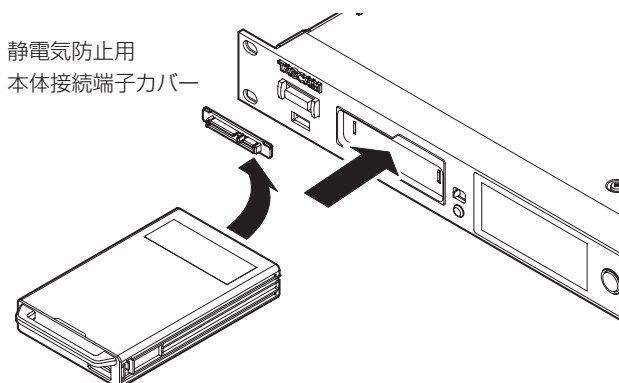
SSD/HDDケースを挿入する / 取り出す

SSD/HDDケースを挿入する

フロントパネルのSSD/HDD SLOTにSSD/HDDケースをフロントパネルと段差がない状態になるまで挿入します。

注意

SSD/HDDケースを本機に挿入する際は、SSD/HDDケースから静電気防止用本体接続端子カバーを取り外してください。



メモ

- SSD/HDDケースがうまく挿入できないとき、SSD/HDDケースを抜き、再度SSD/HDDケースを入れてください。
- 電源が入った状態でも挿入することができます。

SSD/HDDケースを取り出す

SSD/HDDケースを取り出します。

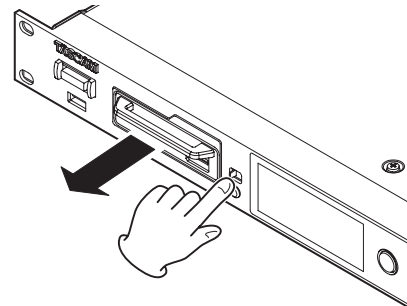
注意

本機がSSD/HDDにアクセス中（録音中、再生中、SSD / HDDにデータを書き込み中などSSD/HDDケースのインジケータがオレンジ色で点滅している間）は、SSD/HDDケースを取り出さないでください。録音が正しく行われなかったり、録音したデータが破損したり、モニター機器から突然大きな音が出て、機器の破損や聴力障害の原因になる可能性があります。

メモ

本機がSSD/HDDにアクセス中（録音中、再生中、SSD / HDDにデータを書き込み中などSSD/HDDケースのインジケータがオレンジ色で点滅している間）以外では、電源が入った状態でも取り出すことができます。

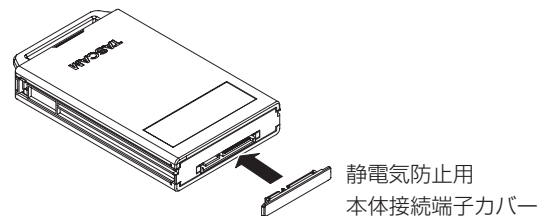
1. RELEASEスイッチを「▶」の方向へスライドさせます。SSD/HDDケースのロックが解除され、SSD/HDDケースが取り出せるようになります。



2. RELEASEスイッチを「▶」の方向へスライドさせた状態で、SSD/HDDケースを手でつまんでSSD/HDDケースを引き出します。

注意

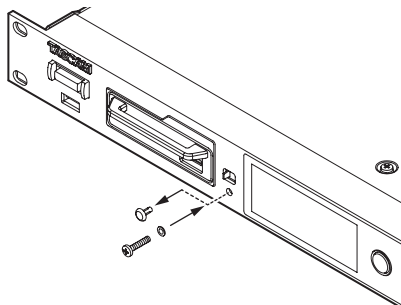
SSD/HDDケースを本機から取り出した際は、SSD/HDDケースに静電気防止用本体接続端子カバーを取り付けてください。



セキュリティビスについて

付属のセキュリティビスキットを使ってSDD/HDDケースを取り出せないようにロックすることができます。

セキュリティビスの取り付け/取り外しは、プラスドライバーを使って行ってください。



メモ

取り付けの際は、ビスの締めすぎにご注意ください。

USBメモリーを挿入する/取り外す

電源がオン/オフどちらのときもUSBメモリーの挿入/取り外しができます。

注意

下記のようなUSBメモリーアクセス中には、USBメモリーを取り外さないでください。

USBメモリー上のデータが破損する可能性があります。

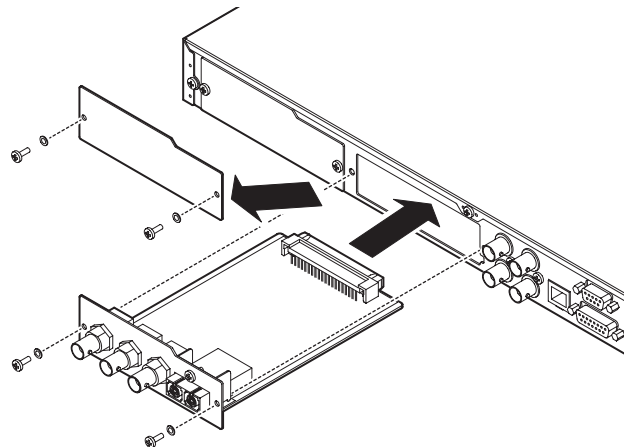
また、“Firmware UPDATE” 実行中に取り外した場合、本機が正常に起動/動作できなくなる可能性があります。

- “FACTORY PRESET” 実行中
- “SYSTEM BACKUP” の “IMPORT/EXPORT” 実行中
- “Firmware UPDATE” 実行中
- “BROWSE” 画面でUSBメモリーにアクセス中

別売のI/Oカードを取り付ける

注意

別売のI/Oカードを取り付けるまたは取り外す際は、あらかじめ電源コードをコンセント、または本体から抜いた状態で作業を行ってください。



1. ブランクパネルを止めている2本のネジを外し、パネルを外します（別のカードが取り付けられている場合は、そのカードを外します）。
2. I/Oカードをカードスロットに挿入します。I/Oカードの端をカードスロット内側の白いガイドに合わせて確実に差し込んでください。カチッと音がしてI/Oカードのバックプレートが本機リアパネルと隙間がなくなるまでI/Oカードを押してください。無理に押し込まないでください。うまく差し込めない場合は、いったん抜き出してからやり直してください。
3. 外した2本のネジで、I/Oカードを固定します。
4. 本機の電源を入れて、“VERSION INFORMATION” 画面で挿入したI/Oカードを認識していることを確認します。（→ 51 ページ「ファームウェアバージョンの確認」）
“SLOT1 : ---- (None)” のように表示されている場合は、I/Oカードが正しく挿入されていないか、ネジがしっかり締められていない可能性があります。再度I/Oカードを本機に確実に挿入してください。

電源のオン／オフ（スタンバイ状態）

電源がオフ（スタンバイ状態）時に、フロントパネルのSTANDBY/ONスイッチを押します。



[DA-6400dpの起動画面]



[ホーム画面]

本機が起動し、起動画面が表示されたあと、ホーム画面になります。SSD/HDDスロットが挿入されていない場合や、カレントフォルダーに音声ファイルがない場合、ホーム画面のテイク番号や時間が表示されません。

電源をオフにするには：

STANDBY/ONスイッチを押し続けると、確認メッセージがポップアップ表示されます。

確認メッセージをポップアップ表示中にMULTI JOGダイヤルを押し続けると、電源がオフ（スタンバイ状態）になります。

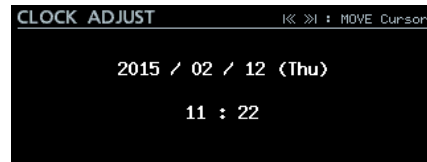
注意

- 本機が動作中（録音中、再生中、SSD / HDDにデータを書き込み中などSSD/HDDケースのインジケータがオレンジ色で点滅している間）は、電源をオフ（スタンバイ状態）にしないでください。録音が正しく行われなかったり、録音したデータが破損したり、モニター機器から突然大きな音が出て、機器の破損や聴力障害の原因になる可能性があります。
- 初回電源投入時（および電源を切った状態で長時間置いたため内蔵電池がリセットされたとき）には、起動画面が表示されたあとに、内蔵時計の日時を設定する“CLOCK ADJUST”画面が表示されます。（→ 19ページ「内蔵時計の日時を設定する」）

内蔵時計の日時を設定する

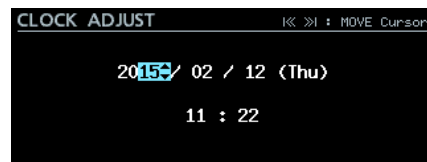
本機は、本体内の時計を基に、録音したファイルに日時を記録します。

1. “SYSTEM SETUP” ページの“CLOCK ADJUST”項目を選択し、“CLOCK ADJUST”画面を表示します。（→ 16ページ「メニュー操作の手順」）



2. MULTI JOGダイヤルを押すと変更箇所のカーソルが現れ、設定モードになります。

◀ / ▶ [MARK ◀ / ▶] ボタンを押して、カーソルを移動することもできます。



3. MULTI JOGダイヤルを回して値を変更してからMULTI JOGダイヤルを押して確定すると、カーソルが次の項目へ移動します。
4. 「年」→「月」→「日」→「時」→「分」を変更すると、カーソルが消え、内蔵時計の日時の設定が終了します。

メモ

設定中にEXIT [PEAK CLEAR] ボタンを押すと変更を中止し、メニュー画面に戻します。

5. EXIT [PEAK CLEAR] ボタンを押して、メニュー画面に戻します。

輝度を調節する

HOME [METER] ボタンを押しながらMULTI JOGダイヤルを回すことにより、カラーディスプレイとインジケータの輝度を調節します。

HOME [METER] ボタンを押しながらMULTI JOGダイヤルを押し回すことにより、カラーディスプレイのみの輝度を調節します。



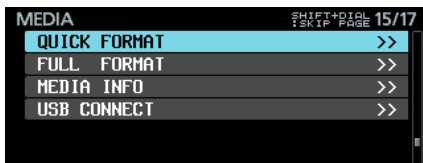
SSD / HDD / USBメモリーを使えるようにする

本機でSSD / HDD / USBメモリーを使えるようにするために、本機でフォーマットする必要があります。

注意

- フォーマットを行うと、SSD / HDD / USBメモリー上のデータは全て消去されます。十分確認した上で行ってください。
- 必ず本機にてフォーマットを行ってください。他の機器、パソコンなどでフォーマットしたSSD / HDD / USBメモリーを使用した場合は、動作に影響が出る場合があります。

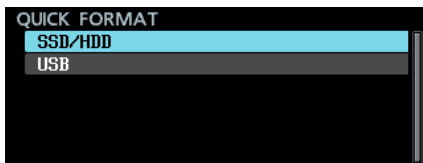
1. “MEDIA” ページの “QUICK FORMAT” 項目または “FULL FORMAT” 項目を選択します。(→ 16ページ「メニュー操作の手順」)



“QUICK FORMAT” 項目：メディアの管理領域のみを初期化します。

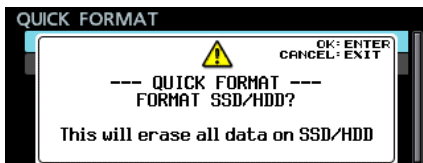
“FULL FORMAT” 項目：メディアの全領域を初期化します。

2. “QUICK FORMAT” 画面または “FULL FORMAT” 画面を表示し、フォーマットするメディアを選択します。



[“QUICK FORMAT” 項目選択時の表示]

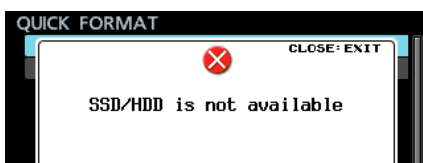
以下のメッセージがポップアップ表示されます。



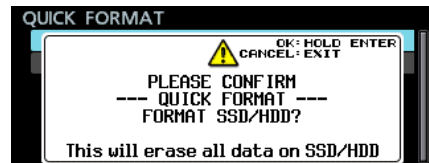
[“QUICK FORMAT” 項目選択時の表示]

メモ

- フォーマットを中止するには、EXIT [PEAK CLEAR] ボタンを押します。
- SSD/HDDケースが装着されていない場合は、以下のメッセージがポップアップ表示されます。

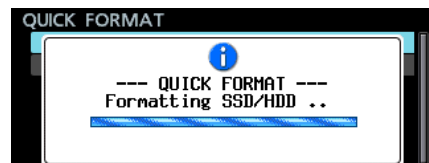


3. MULTI JOGダイヤルを、押します。
再度確認のためのメッセージがポップアップ表示されます。



[“QUICK FORMAT” 項目選択時の表示]

4. MULTI JOGダイヤルを押し続けると、フォーマットを開始します。
フォーマット実行中は、以下のメッセージがポップアップ表示されます。



[“QUICK FORMAT” 項目選択時の表示]

5. フォーマットが完了するとポップアップ表示が消えて、ホーム画面に戻ります。

ヘッドホンの接続

ヘッドホンをフロントパネルのPHONES端子に接続します。



注意

ヘッドホンを接続する前には、PHONESつまみで音量を最小にしてください。突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。

ヘッドホンのモニターモード設定

ヘッドホンのモニターモードを設定します。

1. “PREFERENCES” ページ “PHONES MONITOR MODE” 項目を選択し、“PHONES MONITOR MODE” 画面を表示します。(→ 16ページ「メニュー操作の手順」)



2. ヘッドホンのモニターモードを設定します。
選択肢：“STEREO”（初期値）、“MONO”
3. 設定を確認し、メニュー画面に戻します。

メモ

- 設定中にEXIT [PEAK CLEAR] ボタンを押すと変更を中止し、メニュー画面に戻します。
- ヘッドホンのモニターモードが“MONO”のとき、ホーム画面のソロ選択枠表示がモノラルチャンネル表示になります。

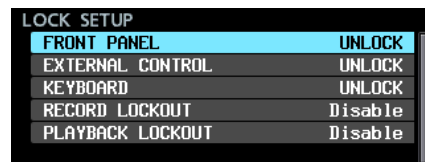
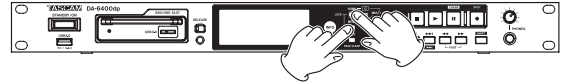


- ホーム画面または“PHONES MONITOR MODE”画面を表示中、SHIFTボタンを押しながらMULTI JOGダイヤルを長押しすると、ヘッドホンのモニターモードの“STEREO”／“MONO”切り換えを行います。

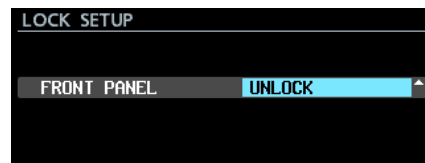
ロック機能の設定

本機は、フロントパネルや外部機器からの操作を受け付けなくするロック機能を設定することができます。

1. フロントパネルのHOME [METER] ボタンを押しながらMENUボタンを押して、“LOCK SETUP”画面を表示します。



2. ロック機能を設定する項目を選択し、ロック機能設定画面を表示します。(→ 16ページ「メニュー操作の手順」)



“FRONT PANEL” 項目

フロントパネルの操作ボタンをロックします。

選択肢：“UNLOCK”（初期値）、“LOCK”

メモ

下記は“LOCK”に設定しても操作できます。

- ホーム画面表示
- INFOボタン操作
- “LOCK SETUP”画面内の設定変更
- STANDBY/ONスイッチによる電源断操作
- カラーディスプレイおよび各種インジケーターの輝度調節

“EXTERNAL CONTROL” 項目

RS-422端子／PARALLEL端子からの外部操作とFTPクライアントアプリケーションでのファイル転送／Telnetによるリモートコントロールをロックします。

選択肢：“UNLOCK”（初期値）、“LOCK”

“KEYBOARD” 項目

USB2.0端子に接続されたUSBキーボードやテンキーからの操作とVNCビューワアプリケーション（→ 44ページ「VNC（ヴァーチャル・ネットワーク・コンピューティング）」）からのキーボードやマウスの操作をロックします。

選択肢：“UNLOCK”（初期値）、“LOCK”

“RECORD LOCKOUT” 項目

録音操作をロックします。再生機として使用しているときに、録音状態にしたい場合に“Enable”に設定します。

選択肢：“Disable”（無効、初期値）、“Enable”（有効）

“PLAYBACK LOCKOUT” 項目

再生操作をロックします。録音機として使用しているときに、再生状態にしたい場合に“Enable”に設定します。

選択肢：“Disable”（無効、初期値）、“Enable”（有効）

3. EXIT [PEAK CLEAR] ボタンを押して、メニュー画面に戻します。

第4章 録音

この章では、録音を行う場合の基本的な操作方法を説明します。

メモ

本機での最大録音チャンネル数は、

- サンプル周波数44.1k/48kHz時：64チャンネル
- サンプル周波数88.2k/96kHz時：32チャンネルとなります。

録音動作での制約事項

本機の特性として、1つのフォルダー内のファイル、フォルダーなどの総数が多くなるとそのフォルダーでの録音に制約が発生します。このため、以下のようなことが発生することがあります。

- 1つのフォルダー内のファイル、フォルダーなどの総数が約10,000を超えた場合

停止状態から新規テイクの録音ができない場合があります。フォルダーをロードした際に、そのフォルダーへ録音できない場合があります。これらのとき、以下のメッセージがポップアップ表示されます。また、このときにはホーム画面の録音可能残り時間表示部に“Rec Limit”と表示されます。



注意

1つのフォルダー内のファイル、フォルダーなどの総数には、本機外で作成されたファイルやフォルダーも含まれます。また、管理ファイルやシステムファイルなどの通常見えないファイルやフォルダーも含まれます。

マスタークロックを設定する

本機のマスタークロックを設定します。

注意

複数のデジタルオーディオ機器を接続したシステム内のマスタークロックを、1つになるように構成してください。

1. “GENERAL” ページの “CLOCK MASTER” 項目を選択し、“CLOCK” 画面を表示します。(→ 16ページ「メニュー操作の手順」)



2. マスタークロックを設定します。

選択肢	内容
“Internal” (初期値)	本機の内部クロックを使用します。
“WORD”	WORD/VIDEO IN端子に入力されるワードクロックに同期します。
“VIDEO”	WORD/VIDEO IN端子に入力されるビデオクロックに同期します。
“SLOT1”	SLOT1のデジタル信号のクロックに同期します。
“SLOT2”	SLOT2のデジタル信号のクロックに同期します。

3. 設定選択を確定し、メニュー画面に戻します。

メモ

- ビデオクロックに同期させる場合、入力信号のフレームレートと本機の “TC FRAME TYPE” 項目 (→ 37ページ「TC SETUP 2ページの設定」) の設定を一致させる必要があります。
- 設定したマスタークロックに同期できない場合は内部クロックに切り換わり、設定した選択肢名の後ろ側に “*” が表示されます。
- 同期できなくなった外部マスタークロックに再度同期できるようになると、“External Clock Regained. Switch to External?” とポップアップ表示されます。
MULTI JOGダイヤルを押すと、内部クロックから外部クロックにマスタークロックが切り換わります。
EXIT[PEAK CLEAR] ボタンを押すと、ポップアップ表示が消え、マスタークロックは内部クロックのままとなります。この際、設定した選択肢名の後ろに “* (Regained)” と表示されます。
- 設定した選択肢名の後ろに “* (Regained)” と表示されている状態でMULTI JOGダイヤルを押すと、確認メッセージ “Switch to Regained External Clock?” がポップアップ表示されます。MULTI JOGダイヤルを押すと、内部クロックから外部クロックにマスタークロックが切り換わります。
EXIT[PEAK CLEAR] ボタンを押すと、ポップアップ表示が消え、マスタークロックは内部クロックのままとなります。

注意

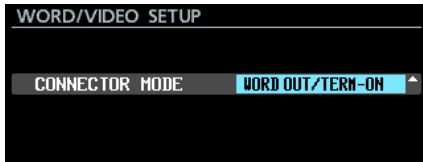
マスタークロックを切り換える際、音声入出力にノイズが発生する可能性があります。

そのため、マスタークロックを切り換えるタイミングにはご注意ください。

ワード／ビデオ端子の設定をする

WORD/VIDEO IN端子とWORD/VIDEO THRU/OUT端子の設定をします。

1. “GENERAL” ページの “WORD/VIDEO SETUP” 項目を選択し、“WORD/VIDEO SETUP” 画面を表示します。(→ 16 ページ「メニュー操作の手順」)



2. ワードクロックの出力信号を設定します。

選択肢	内容
“WORD OUT/TERM-ON” (初期値)	WORD/VIDEO THRU/OUT端子からの出力信号をWORD OUT信号に設定、WORD/VIDEO IN端子の終端抵抗(75Ω)をオンに設定します。
“WORD OUT/TERM-OFF”	WORD/VIDEO THRU/OUT端子からの出力信号をWORD OUT信号に設定、WORD/VIDEO IN端子の終端抵抗(75Ω)をオフに設定します。
“THRU OUT/TERM-OFF”	WORD/VIDEO THRU/OU端子からの出力信号をWORD/VIDEO IN端子からのTHRU出力に設定、WORD/VIDEO IN端子の終端抵抗(75Ω)をオフに設定します。

3. 設定選択を確認し、メニュー画面に戻します。

リファレンスレベルを設定する

アナログ入出力のヘッドルーム(最大レベルとリファレンスレベルとのレベル差)を設定します。

1. “GENERAL” ページの “REFERENCE LEVEL” 項目を選択し、“REFERENCE LEVEL” 画面を表示します。(→ 16 ページ「メニュー操作の手順」)



2. リファレンスレベルを設定します。

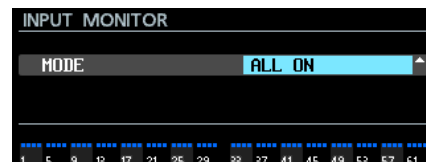
選択肢	内容
“-9dB”	基準レベル：+6dBu、最大レベル：+15dBu
“-14dB”	基準レベル：+4dBu、最大レベル：+18dBu
“-16dB”	基準レベル：+4dBu、最大レベル：+20dBu
“-18dB” (初期値)	基準レベル：+4dBu、最大レベル：+22dBu
“-20dB”	基準レベル：+4dBu、最大レベル：+24dBu

3. 設定選択を確認し、メニュー画面に戻します。

インプットモニターを設定する

再生する際は、インプットモニターをオフに設定してください。インプットモニターがオンになっているチャンネルは、音声入力端子からの音声の本機の音声出力端子から出力されます。

1. “GENERAL” ページの “INPUT MONITOR” 項目を選択し、“INPUT MONITOR” 画面を表示します。(→ 16 ページ「メニュー操作の手順」)



2. インプットモニターのモードを設定します。

選択肢：

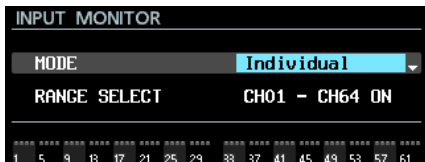
- “ALL ON” : 全チャンネルのインプットモニターをオンにする
- “ALL OFF” (初期値) : 全チャンネルのインプットモニターをオフにする
- “Individual” : 任意のチャンネルのインプットモニターを一括または個別にオン/オフする

3. 設定選択を確認し、メニュー画面に戻します。

任意のチャンネルのインプットモニターを設定する

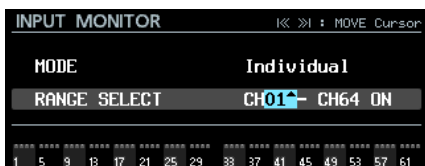
“INPUT MONITOR”画面の“MODE”項目を“Individual”に設定したとき、任意のチャンネルのインプットモニターを一括または個別にオン/オフすることができます。

1. “INPUT MONITOR”画面を表示します。(→ 16ページ「メニュー操作の手順」)
2. “INPUT MONITOR”画面のインプットモニターのモードを、“Individual”に設定します。



“MODE”項目の下側に“RANGE SELECT”項目が表示されます。

3. MULTI JOGダイヤルを押して確定すると、カーソルが次の項目へ移動します。
 ◀◀ / ▶▶ [MARK ◀◀ / ▶▶] ボタンを押して、カーソルを移動することもできます。
 カーソルが“ON” / “OFF”にあるときにMULTI JOGダイヤルを押すと、確認メッセージがポップアップ表示されます。確認メッセージ表示中にMULTI JOGダイヤルを押すと、一括設定を実施します。



[一括設定開始チャンネルを選択時]

選択肢：

- “CH01”～“CH63” : 一括設定開始チャンネル
- “CH02”～“CH64” : 一括設定終了チャンネル
- “OFF” / “ON” : 一括設定するインプットモニターのオン/オフ状態

4. カーソルをインプットモニター表示部に移動すると、チャンネルごと個別にインプットモニターを設定できます。MULTI JOGダイヤルを押すと、カーソルがあるチャンネルのインプットモニターのオン/オフ設定が切り換わります。



メモ

MULTI JOGダイヤルを回してチャンネルを選択することもできます。また、SHIFTボタンを押しながらMULTI JOGダイヤルを回すと、カーソルが4チャンネルずつ移動します。

録音チャンネルを設定する

1. “REC FILE FORMAT”ページの“REC FUNCTION”項目を選択し、“REC FUNCTION”画面を表示します。(→ 16ページ「メニュー操作の手順」)



2. レコードファンクションのモードを設定します。

選択肢

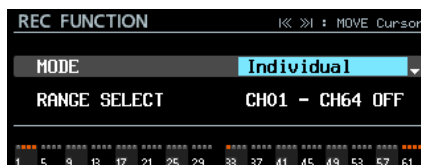
- “ALL ON” (初期値) : 全チャンネルのレコードファンクションをオンにする
- “ALL OFF” : 全チャンネルのレコードファンクションをオフにする
- “Individual” : 任意のチャンネルのレコードファンクションを一括または個別にオン/オフする

3. 設定選択を確定し、メニュー画面に戻します。

任意のチャンネルのレコードファンクションを設定する

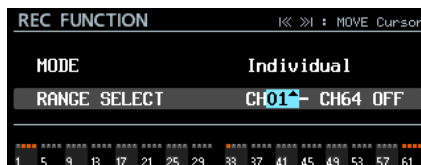
“REC FUNCTION”画面の“MODE”項目を“Individual”に設定したとき、任意のチャンネルのレコードファンクションを一括または個別にオン/オフすることができます。

1. “REC FUNCTION”画面を表示します。(→ 16ページ「メニュー操作の手順」)
2. “REC FUNCTION”画面のレコードファンクションのモードを、“Individual”に設定します。



“MODE”項目の下側に“RANGE SELECT”項目が表示されます。

3. MULTI JOGダイヤルを押して確定すると、カーソルが次の項目へ移動します。
 ◀◀ / ▶▶ [MARK ◀◀ / ▶▶] ボタンを押して、カーソルを移動することもできます。
 カーソルが“ON” / “OFF”にあるときにMULTI JOGダイヤルを押すと、確認メッセージがポップアップ表示されます。確認メッセージ表示中にMULTI JOGダイヤルを押すと、一括設定を実施します。

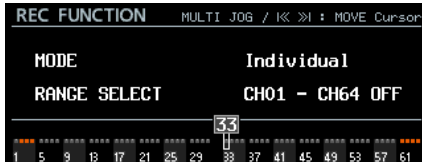


[一括設定開始チャンネルを選択時]

選択肢：

- “CH01”～“CH63”：一括設定開始チャンネル
- “CH02”～“CH64”：一括設定終了チャンネル
- “OFF”／“ON”：一括設定するレコードファンクションのオン／オフ状態

4. カーソルをレコードファンクション表示部に移動すると、チャンネルごと個別にレコードファンクションを設定できます。MULTI JOGダイヤルを押すと、カーソルがあるチャンネルのレコードファンクションのオン／オフ設定が切り換わります。



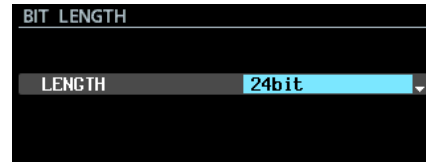
メモ

MULTI JOGダイヤルを回してチャンネルを選択することもできます。また、SHIFTボタンを押しながらMULTI JOGダイヤルを回すと、カーソルが4チャンネルずつ移動します。

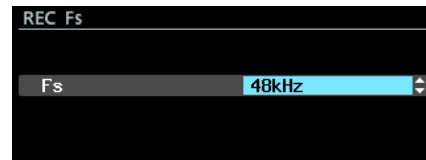
録音するファイル形式を設定する

録音するファイルの量子化ビット数とサンプリング周波数を設定します。

1. “REC FILE FORMAT” ページの “BIT LENGTH” 項目を選択し、“BIT LENGTH” 画面を表示します。(→ 16ページ「メニュー操作の手順」)

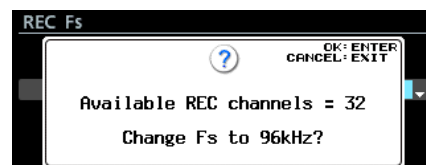


2. 録音するファイルの量子化ビット数を設定します。
選択肢：“16bit”、“24bit”（初期値）
3. 設定を確定し、“REC FILE FORMAT” ページを表示します。
4. MULTI JOGダイヤルを回して “REC Fs” 項目を選択します。
5. MULTI JOGダイヤルを押して、“REC Fs” 画面を表示します。



6. 録音するサンプリング周波数を設定します。
選択肢：“44.1kHz”、“48kHz”（初期値）、“88.2kHz”、“96kHz”
7. 設定選択を確定すると、本機のサンプリング周波数の切り換え処理を行い、メニュー画面に戻ります。

設定値を44.1k/48kHzから88.2k/96kHz、88.2kHz/96kHzから44.1k/48kHzに切り換える場合、下記のように最大録音チャンネル数が変わることを確認するメッセージが表示されます。



このメッセージでMULTI JOGダイヤルを押すと、サンプリング周波数の切り換え処理を行い、メニュー画面に戻ります。

メモ

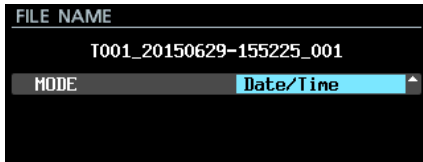
本機での最大録音チャンネル数は、

- REC Fs 44.1k/48kHz時：64チャンネル
- REC Fs 88.2k/96kHz時：32チャンネルとなります。

ファイル名の形式を設定する

録音時に自動的に付加されるファイル名の形式を設定することができます。

1. “REC FILE FORMAT” ページの “FILE NAME” 項目を選択し、“FILE NAME” 画面を表示します。(→ 16ページ「メニュー操作の手順」)



2. ファイル名の形式を以下の中から選択します。

選択肢

“Date/Time” (初期値) : 本機の内蔵時計の日時がファイル名になります。

“Folder Name” : フォルダー名がファイル名になります。

“User Word” : ユーザー登録した文字列 (最長31文字) がファイル名になります。

3. “Date/Time” および “Folder Name” を選択した場合、または “User Word” を選択してファイル名を編集しない場合は、MULTI JOGダイヤルを押してメニュー画面に戻します。

“User Word” を選択してファイル名を編集する場合は、▶▶ [MARK ▶▶] ボタンを押して “User Word” 画面を表示します。



4. ファイル名を編集します。名前の編集方法については、26ページ「文字列の編集方法」を参照ください。
5. 編集が終了したら “Enter” を選択後、編集した文字列を確認し、“FILE NAME” 画面に戻します。
6. 設定選択を確定し、メニュー画面に戻します。

文字列の編集方法

以下の操作で文字列を編集します。

カーソル (編集位置) を移動するには :

本体の◀◀ / ▶▶ [MARK◀◀ / ▶▶] ボタンを押します。

入力する文字を変更するには :

MULTI JOGダイヤルを回します。

カーソル位置 (編集位置) に選択された文字を入力するには :

MULTI JOGダイヤルを押します。

1文字分の空白 (スペース) を空けるには :

MULTI JOGダイヤルを回して各行の左端にある空白文字を選択し、MULTI JOGダイヤルを押します。

文字を削除するには :

MULTI JOGダイヤルを回して “DEL” (カーソルより後ろの文字を削除する場合)、または “BS” (カーソルより前の文字を削除する場合) を選択し、MULTI JOGダイヤルを押します。

カーソルより後ろの文字を全て削除するには :

MULTI JOGダイヤルを回して “DEL” 表示を選択し、MULTI JOGダイヤルを押し続けます。

カーソルより前の文字を全て削除するには :

MULTI JOGダイヤルを回して “BS” 表示を選択し、MULTI JOGダイヤルを押し続けます。

大文字 / 小文字を切り換えるには :

SHIFT ボタンを押します。

編集をキャンセルするには :

EXIT [PEAK CLEAR] ボタンを押します。

日付を入力するには :

MULTI JOGダイヤルを回して “DATE▲” を選択します。MULTI JOGダイヤルを押すと、“yyyy-mm-dd” 形式の本体内蔵時計の日付が入力されます。

“RENAME FOLDER” 画面では、すでに同じフォルダー名があるとき、“_” (アンダースコア) に加えてその時点で存在しない番号が付加されます。

注意

- SSD / HDDをパソコンに接続して、パソコンからファイル名を編集することもできますが、パソコン上でファイル名の編集を行った場合は、本機でのファイルの再生順がパソコンでの編集以前と変わる場合がありますのでご了承ください。
- 名前入力画面には、英数字および記号以外の文字は表示されません。英数字および記号以外の文字が名前に含まれていた場合は、名前入力画面を表示する際、これらの文字が除去されます。
- 以下の記号や句読点は、名前に使うことができません。

¥ / : * ? " < > |

メモ

USBキーボードを使って文字を編集することも可能です。(→ 53ページ「キーボードを使って名前や数値を入力する」)

入力文字数制限について

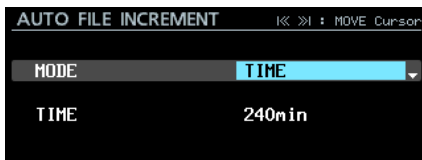
文字列表示エリアでは、最大文字数以内の背景が青く表示されます。最大文字数を超えた部分の背景は灰色で表示され、“Enter” を選択して確定すると切り捨てられます。

テイク番号を自動で更新する

録音中、設定された条件を満たしたときにテイク番号を自動更新します。テイク番号が更新されるごとに新しいオーディオファイルが作成されます。

メニューを使って、オートファイルインクリメント機能の動作モードの選択および詳細設定を行います。

1. “REC OPTIONS” ページの “AUTO FILE INCREMENT” 項目を選択し、“AUTO FILE INCREMENT” 画面を表示します。(→ 16ページ「メニュー操作の手順」)



["MODE" 項目が "TIME" のときの表示]

2. オートファイルインクリメント機能の動作モードを設定します。

選択肢

- “SIZE” : 設定したファイルサイズごとに自動で更新します。
- “TIME” (初期値) : 指定した時間ごとに自動で更新します。

メモ

“AUTO FILE INCREMENT” 画面表示中に **MARK** ボタンを押すと、カーソルが設定項目間を移動します。

3. MULTI JOGダイヤルを押して、設定を確定します。次の設定項目にカーソルが移動します。
4. MULTI JOGダイヤルを回して、選択肢を選択します。

“SIZE” 選択時

選択肢: “640MB (77min)”、“1GB (124min)”、“2GB (248min)” (初期値)

“TIME” 選択時

選択肢: “1min” ~ “240min”
(初期値: “240min”、“1min” ステップ)

メモ

- 動作モードが “SIZE” のとき、“SIZE” 項目に表示される選択肢の括弧内の時間は、“REC Fs” 画面や “BIT LENGTH” 画面の設定によって変化します。
 - 動作モードが “TIME” でカーソルが “TIME” 項目のとき、SHIFTボタンを押しながらMULTI JOGダイヤルを回すと、“10min” ステップずつ値が変わります。
5. 設定選択を確定し、メニュー画面に戻します。

テイク番号を手動で更新する

録音中に ● [SPLIT] ボタンを押すと、テイク番号を更新することができます。

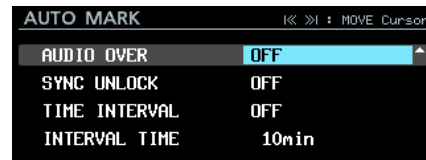
システム上の制約により、下記のような更新を行えないタイミングで ● [SPLIT] ボタンを押すと、メッセージが表示されます。

- ● [SPLIT] ボタンを短時間に連打した場合
- メディアの残量がほとんどなくなった場合
- フォルダー内のファイル数制限に達した場合

録音中に自動でマークポイントを登録する

オートマーク機能をオンにすると、オーディオレベルがオーバードロートしたときや、外部クロックが外れて同期エラーが発生したときに自動的にマークポイントを登録することができます。これにより、録音中に発生したシステム上の問題発生箇所を素早くサーチして確認することができます。

1. “REC OPTIONS” ページの “AUTO MARK” 項目を選択し、“AUTO MARK” 画面を表示します。(→ 16ページ「メニュー操作の手順」)



2. MULTI JOGダイヤルを使って、以下のオートマーク機能の設定項目を設定します。

“AUDIO OVER” 項目

オーディオレベルが0dB (フルビット) になった場合に、マークポイントを登録します。

選択肢: “OFF” (初期値)、“ON”

“SYNC UNLOCK” 項目

マスタークロックとの同期が外れた場合に、マークポイントを登録します。

選択肢: “OFF” (初期値)、“ON”

“TIME INTERVAL” 項目

一定時間ごとにマークポイントを登録します。

選択肢: “OFF” (初期値)、“ON”

“INTERVAL TIME” 項目

“TIME INTERVAL” 項目が “ON” のときの、マークポイントを登録する間隔の時間を設定します。

選択肢: “1min” ~ “240min”
(初期値: “10min”、“1min” ステップ)

メモ

- “AUTO MARK” 画面表示中に **MARK** ボタンを押すと、カーソルが設定項目間を移動します。
 - “AUTO MARK” 画面表示中、カーソルが “INTERVAL TIME” 項目のとき、SHIFTボタンを押しながらMULTI JOGダイヤルを回すと、“10min” ステップずつ値が変わります。
3. カーソルが “INTERVAL TIME” 項目のとき、MULTI JOGダイヤルを押して選択を確定し、メニュー画面に戻します。

メモ

- “AUDIO OVER” または “SYNC UNLOCK” のマークポイントを登録したあとは、10秒経過するまで同一マークポイントは登録されません。
- “AUDIO OVER” した場合には、マークポイント名 “OVERxx” * が登録されます。
- “SYNC UNLOCK” の場合には、マークポイント “UNLKxx” * が登録されます。
- “TIME INTERVAL” の場合には、マークポイント名 “TIMExx” * が登録されます。

※ “xx” は、全マークポイントに共通の通し番号です。

録音中に手動でマークポイントを登録する

録音中に手動でテイクの任意の位置にマークポイントを付け、再生時には素早くその位置に移動して再生することができます。

メモ

マークポイント位置への移動は、停止中、再生中、再生待機中のみ可能です。(→ 45ページ「マークポイントに移動する」)

録音中のマークポイントの登録

録音中、ホーム画面でマークポイントを登録したい位置に来たときにMULTI JOGダイヤルを押すと、その位置にマークポイントを登録することができます。

メモ

- マークポイントは、テイクごとに最大99個付けることができ、ファイルにマークポイントの情報を記録します。
- 停止中、再生中、再生待機中にマークポイントを登録することも可能です。(→ 45ページ「マークポイントを登録する」)
- 手動で付けたマークポイントには、マークポイント名“MARKxx”*が付きます。

※ “xx”は、全マークポイントに共通の通し番号です。

ポーズモード機能を設定する

ポーズモード機能を使って、録音中に録音待機状態にしたときにファイルを分割する、または分割しないを設定することができます。

1. “REC OPTIONS” ページの“PAUSE MODE”項目を選択し、“PAUSE MODE”画面を表示します。(→ 16ページ「メニュー操作の手順」)



2. ポーズモード機能を設定します。

選択肢

- “SPLIT” (初期値) : ファイルを分割する
- “NO SPLIT” : ファイルを分割しない

3. 設定選択を確定し、メニュー画面に戻します。

入力信号のルーティング設定

入力信号のルーティングを設定します。

1. “INPUT ROUTING1” ページまたは“INPUT ROUTING2” ページを表示し、設定を変更したいチャンネルの項目を選択します。(→ 16ページ「メニュー操作の手順」)
2. 選択したチャンネルの“INPUT ROUTING”画面を表示します。



[“INPUT ROUTING” 画面の “CHANNEL 1-8” 表示]

3. チャンネルに入力する信号を設定します。

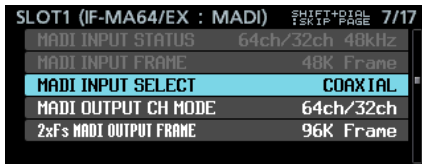
選択肢 :

- “SLOT1 1- 8” (“CHANNEL 1-8” の初期値)
- “SLOT1 9-16” (“CHANNEL 9-16” の初期値)
- “SLOT1 17-24” (“CHANNEL 17-24” の初期値)
- “SLOT1 25-32” (“CHANNEL 25-32” の初期値)
- “SLOT1 33-40” (“CHANNEL 33-40” の初期値)
- “SLOT1 41-48” (“CHANNEL 41-48” の初期値)
- “SLOT1 49-56” (“CHANNEL 49-56” の初期値)
- “SLOT1 57-64” (“CHANNEL 57-64” の初期値)
- “SLOT2 01-08”
- “SLOT2 09-16”
- “SLOT2 17-24”
- “SLOT2 25-32”
- “SLOT2 33-40”
- “SLOT2 41-48”
- “SLOT2 49-56”
- “SLOT2 57-64”

4. 設定選択を確定し、メニュー画面に戻します。

I/Oカードの設定

別売のI/OカードをSLOT 1またはSLOT 2に差し込むと、差し込んだI/Oカードの情報や各種設定が“SLOT1”ページまたは“SLOT2”ページに表示されます。



[IF-MA64/EX 挿入時の表示]

メモ

別売のI/OカードがSLOT 1またはSLOT 2に差し込まれていない場合は、“No Card”と表示されます。



IF-MA64/EXまたはIF-MA64/BNの場合

MADI INPUT STATUS

MADI入力信号のチャンネルモード／フレーム周波数を表示します。

例) 64ch/32ch 48kHz

入力信号がない場合は、“no signal”と表示します。

MADI INPUT FRAME

MADI入力信号のフレームタイプ (48K Frame / 96K Frame) を表示します。

入力信号がない場合は、“no signal”と表示します。

MADI INPUT SELECT (IF-MA64/EXのみ)

使用する入力端子を設定します。

選択肢：“COAXIAL” (初期値)、“OPTICAL”

MADI OUTPUT CH MODE

出力チャンネルモードを設定します。

選択肢：“64ch/32ch” (初期値)、“56ch/28ch”

メモ

“f”の左側：1xFs時のチャンネルモード

“f”の右側：2xFs時のチャンネルモード

2xFs MADI OUTPUT FRAME

本機のサンプリング周波数が88.2k/96kHzのときのMADI出力信号のフレームタイプを設定します。

選択肢：“48K Frame”、“96K Frame” (初期値)

注意

サンプリング周波数が88.2k/96kHzでフレームタイプが48K FrameのMADI信号と、サンプリング周波数が44.1k/48kHzのMADI信号は区別ができません。

そのため、受信側機器のサンプリング周波数と一致しない48K FrameのMADI入力信号は、正しいオーディオデータとして受信できません。

48K FrameのMADI信号を扱う場合は、必ず送受信双方の機器のサンプリング周波数を一致させた上でご利用ください。

メモ

IF-MA64/EXのMADI COAXIAL THRU端子の信号は、電源のオン／オフに関わらずMADI COAXIAL IN端子の信号をスルー出力します。

ただし、電源をオン／オフするタイミングで、MADI COAXIAL THRU端子の信号に瞬間的な乱れが生じます。

そのため、MADI COAXIAL THRU端子の信号を外部機器で使用している場合には、電源をオン／オフするタイミングにご注意ください。

タイムコード同期録音について

本機は、録音開始時に内蔵タイムコードジェネレーターのタイムコード時間をキャプチャーし、ファイルのスタート時間とします。

録音時間について

各録音フォーマットにおけるSSD / HDD容量別の録音時間を以下の表に示します。

書き込みファイル フォーマット	メディア容量			
	80GB	120GB	240GB	480GB
16bit / 44.1kHz / 64チャンネル	3h 55m	5h 53m	11h 47m	23h 35m
16bit / 48kHz / 64チャンネル	3h 36m	5h 24m	10h 49m	21h 40m
24bit / 44.1kHz / 64チャンネル	2h 36m	3h 55m	7h 51m	15h 43m
24bit / 48kHz / 64チャンネル	2h 24m	3h 36m	7h 13m	14h 26m
24bit / 88.2kHz / 32チャンネル	2h 36m	3h 55m	7h 51m	15h 43m
24bit / 96kHz / 32チャンネル	2h 24m	3h 36m	7h 13m	14h 26m

- 上記録音時間は目安です。ご使用のメディアにより異なる場合があります。
- 上記録音時間は連続録音時間ではなく、メディアに録音できる時間の合計です。

第5章 フォルダの操作 (BROWSE画面)

本機は、SSD / HDD上のオーディオファイルをフォルダ構造で管理することができます。

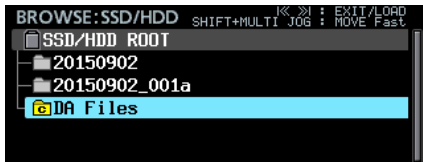
“BROWSE”画面から操作対象のフォルダを選択し、フォルダのメニューをポップアップ表示することができます。メニューからフォルダの作成を行うことができます。

メモ

- パソコンでSSD / HDDの内容を読み込むことにより、フォルダ構成の変更、フォルダ名 / ファイル名の編集、フォルダ / ファイルの削除などをパソコンから行うことができます。
- パソコンで編集を行った場合は、本機でのファイル再生順が編集以前と変わる場合があります。

BROWSE画面を開く

“GENERAL”ページの“BROWSE”項目を選択し、“BROWSE”画面を表示します。(→ 16ページ「メニュー操作の手順」)



BROWSE画面内のナビゲーション

“BROWSE”画面には、パソコンにおけるファイルのリスト表示のように、フォルダがリスト表示されます。

“BROWSE”画面が表示されているとき、MULTI JOGダイヤルおよび◀◀ / ▶▶ [MARK ◀◀ / ▶▶] ボタンを使って、操作対象のフォルダやファイルを選択します。

- MULTI JOGダイヤルを押して、フォルダメニューをポップアップ表示します。(→ 30ページ「フォルダの操作」)
- EXIT [PEAK CLEAR] ボタンを押すと、フォルダ階層を1つ上ります。
メディア選択階層でEXIT [PEAK CLEAR] ボタンを押すと、メニュー画面に戻ります。
フォルダメニューを操作中に押すと、操作を1つ戻します。
- MULTI JOGダイヤルを回して、フォルダやファイルの選択をします。
- フォルダやファイルを選択中に◀◀ [MARK ◀◀] ボタンを押すと上位の階層に、▶▶ [MARK ▶▶] ボタンを押すと下位の階層に移動できます。また、フォルダの選択中にMULTI JOGダイヤルを押してポップアップ表示されるフォルダメニューの“ENTER”項目や“LOAD”項目を選択することでも階層に移動できます。“BROWSE”画面の1行目を選択時は上位の階層に、2行目以下を選択時は下位の階層に移動します。
- フォルダやファイルを選択中にHOME [METER] ボタンを押すと、ホーム画面に戻ります。
- テイクを選択中に▶ ボタンを押すと、ホーム画面に戻り選択したテイクが再生されます。
- テイクを選択中にII [CHASE] ボタンを押すと、ホーム画面に戻り選択したテイクの先頭で再生待機状態となります。

BROWSE画面内のアイコン表示

以下に“BROWSE”画面内のアイコン表示を説明します。

フォルダ

“📁”アイコンに続いて、フォルダ名が表示されます。カレントフォルダには“C”と書かれた黄色い“📁”アイコンが表示されます。

テイク

“🎵”アイコンに続いて、ファイル名が表示されます。カレントテイクには、黄色い“🎵”アイコンが表示されます。

オーディオファイル

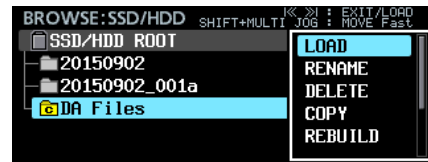
テイクに含まれるオーディオファイルには“🎵”アイコンが表示されます。

その他のファイル

“📄”アイコンに続いて、ファイル名が表示されます。

フォルダの操作

“BROWSE”画面内の希望のフォルダを選択し、MULTI JOGダイヤルを押してフォルダメニューをポップアップ表示します。



MULTI JOGダイヤルを回して希望の項目を選択し、MULTI JOGダイヤルを押すと、以下の動作を行います。

ENTER/EXIT

“ENTER”項目表示中にMULTI JOGダイヤルを押すと、選択中のフォルダ内に移動し、リストを表示します。

“EXIT”項目表示中にMULTI JOGダイヤルを押すと、選択中のフォルダを閉じて上の階層に移動します。

LOAD

カレントフォルダとして選択してフォルダ内に移動し、リストを表示します。

メモ

カレントフォルダとして選択できるのは、SSD/HDDのルートにあるフォルダだけです。それ以外の場所にあるフォルダはカレントフォルダとしては選択できません。

RENAME

“RENAME FOLDER”画面が表示され、選択したフォルダ名を編集します。(→ 31ページ「フォルダ名 / テイク名 / ファイル名を編集する」)

DELETE

選択したフォルダを削除します。(→ 32ページ「フォルダ / テイク / ファイルを削除する」)

COPY

選択したフォルダをコピーします。(→ 32ページ「フォルダ / テイク / ファイルのコピー」)

REBUILD

FTPにより本機のファイルを削除した際などに、選択したフォルダのリビルド (再構成) を実施します。(→ 33ページ「フォルダをリビルド (再構成) する」)
停止状態以外には、実施できません。

INFO

選択したフォルダの作成日時がポップアップ表示されます。

CREATE

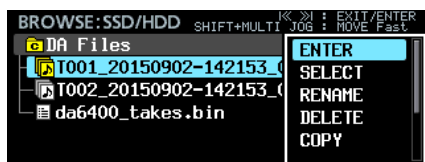
新しいフォルダを作ります。(→ 33ページ「新しいフォルダを作成する」)

CANCEL

フォルダメニューを閉じます。

テイクやファイルの操作

“**BROWSE**” 画面内の希望のテイクやファイルを選択し、**MULTI JOG**ダイヤルを押してファイルメニューをポップアップ表示します。



MULTI JOGダイヤルを回して希望の項目を選択し、**MULTI JOG**ダイヤルを押すと、以下の動作を行います。

ENTER (テイク選択時のみ)

選択したテイクのファイルリスト画面を表示します。

SELECT (テイク選択時のみ)

選択したテイクをカレントテイクとして選択してホーム画面に戻ります。

RENAME

“**RENAME TAKE**” 画面または “**RENAME FILE**” 画面が表示され、選択したテイクやファイル名を編集します。(→ 31ページ「フォルダ名/テイク名/ファイル名を編集する」)

DELETE

選択したファイルを削除します。(→ 32ページ「フォルダ/テイク/ファイルを削除する」)

COPY

選択したファイルをコピーします。(→ 32ページ「フォルダ/テイク/ファイルのコピー」)

EDIT TC (テイク選択時のみ)

選択したテイクのスタートタイムコードを編集します。(→ 33ページ「テイクのスタートタイムコードを編集する」)

INFO

選択したテイクやファイルの情報をポップアップ表示します。
選択ファイルがテイクの場合は、2ページに分けて以下の内容を表示します。2ページ目を表示するには、**MULTI JOG**ダイヤルを押して切り換えます。

ページ	表示内容
1ページ目	作成日時
	サンプリング周波数/ビット長/チャンネル数
	ファイル容量
	ファイル長
2ページ目	STARTタイムコード
	ENDタイムコード
	フレームタイプ

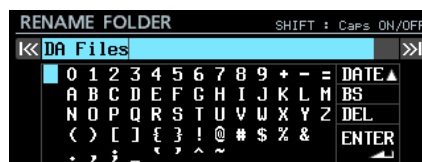
選択ファイルがテイク以外の場合は、作成日時とファイル容量を表示します。

CANCEL

ファイルメニューを閉じます。

フォルダ名/テイク名/ファイル名を編集する

- 名前を編集するフォルダ/テイク/ファイルを選択し、フォルダメニューまたはファイルメニューをポップアップ表示します。
- “**RENAME**” 項目を選択し、“**RENAME FOLDER**” 画面または “**RENAME TAKE**” 画面または “**RENAME FILE**” 画面を表示します。



[フォルダ名編集時の表示]

- 名前を編集します。
名前の編集方法については、26 ページの「文字列の編集方法」を参照ください。
- 名前の編集が終了したら “**ENTER**” を選択後、名前を確定します。
“**Renaming ...**” がポップアップ表示され、名前が編集されます。
名前を編集後、“**BROWSE**” 画面に戻ります。

注意

- SSD / HDDをパソコンに接続してパソコンからファイル名を編集することもできますが、パソコンで編集を行った場合には本機でのファイル再生順が編集以前と変わる場合があります。
- 名前入力画面には、英数字および記号以外の文字は表示されません。英数字および記号以外の文字が名前に含まれていた場合は、名前入力画面を表示する際、これらの文字が除去されます。
- 以下の記号や句読点は、名前に使うことができません。

¥ / : * ? " < > |

第5章 フォルダーの操作 (BROWSE画面)

フォルダー／テイク／ファイルを削除する

フォルダー／テイク／ファイルをSSD / HDDまたはUSBメモリーから削除することができます。

フォルダーを削除すると、その中に含まれるファイルも削除されます。

1. 削除したいフォルダー／テイク／ファイルを選択し、フォルダーメニューまたはファイルメニューをポップアップ表示します。
2. “DELETE” 項目を選択し、MULTI JOGダイヤルを押します。以下のメッセージがポップアップ表示されます。



[フォルダー削除時の表示]

メモ

削除を中止するには、EXIT [PEAK CLEAR] ボタンを押します。

3. MULTI JOGダイヤルを、押します。再度確認のためのメッセージがポップアップ表示されます。

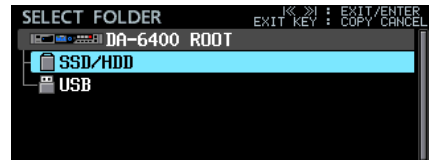


[フォルダー削除時の表示]

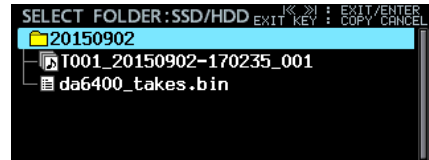
4. MULTI JOGダイヤルを押し続けると、選択したフォルダー／テイク／ファイルが削除されます。削除中は、“Deleting Folder ...” のようにポップアップ表示され、フォルダー／テイク／ファイルが削除されます。削除が終了すると、“BROWSE” 画面に戻ります。

フォルダー／テイク／ファイルのコピー

1. コピーするフォルダー／テイク／ファイルを選択し、フォルダーメニューまたはファイルメニューをポップアップ表示します。
2. “COPY” 項目を選択しMULTI JOGダイヤルを押すと、コピー先フォルダーの選択画面に切り換わります。
3. コピー先のフォルダーに移動します。
 - 初回コピーの際は、メディア選択画面になりますので、コピー先フォルダーが含まれるメディアを選択してコピー先フォルダーに移動します。

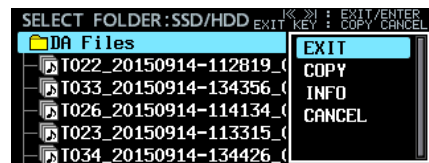


- 2回目以降は、最後に表示したコピー先フォルダーの選択画面になります。



メモ

- コピー先選択中は“BROWSE”表示が“SELECT FOLDER”表示の点滅に切り換わります。
 - コピー先選択中にEXIT [PEAK CLEAR] ボタンを押すと、“CANCEL COPY?”と確認メッセージがポップアップ表示されます。MULTI JOGダイヤルを押すと、コピー先フォルダーの選択画面から“BROWSE”画面に戻ります。
 - コピー先選択中にポップアップメニューの“CANCEL”項目を選択してMULTI JOGダイヤルを押すと、コピー先フォルダーの選択画面から“BROWSE”画面に戻ります。
4. コピー先フォルダーを選択し、フォルダーメニューをポップアップ表示します。



5. “COPY” 項目を選択してMULTI JOGダイヤルを押すと、確認のメッセージがポップアップ表示されます。



[フォルダーコピーの表示]

6. MULTI JOGダイヤルを押すと、コピーが実行されます。コピーを中止する場合やコピー先を変更する場合は、EXIT [PEAK CLEAR] ボタンを押してください。

メモ

コピー先に同じフォルダー名/テイク名/ファイル名が存在した際は、メッセージ “Cannot Copy Folder” / “Cannot Copy Take” / “Cannot Copy File” がポップアップ表示されます。コピーするフォルダー名/テイク名/ファイル名を変更する場合は、MULTI JOGダイヤルを押してください。名前の入力方法は、26 ページの「文字列の編集方法」を参照ください。

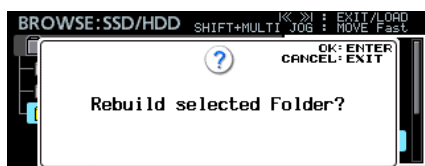
EXIT [PEAK CLEAR] ボタンを押すと、コピーを中止します。

7. コピー中は、進行状況がポップアップ表示されます。コピーが完了するとポップアップ表示が消えて、“BROWSE” 画面に戻ります。

フォルダーをリビルド (再構成) する

FTPにより本機のファイルを削除したときなど、管理ファイルと音声ファイルとの間に不整合が生じた場合に、フォルダーをリビルド (再構築) します。

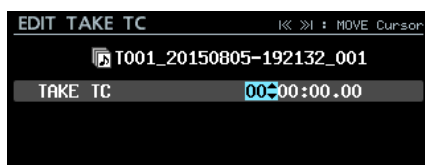
1. リビルド (再構築) したいフォルダーを選択し、MULTI JOG ボタンを押してフォルダーメニューをポップアップ表示します。
2. フォルダーメニューの “REBUILD” 項目を選択し、MULTI JOGダイヤルを押します。確認ポップアップメッセージが表示されます。



3. MULTI JOGダイヤルを押すと、リビルド (再構築) を実施します。

テイクのスタートタイムコードを編集する

1. スタートタイムコードを編集したいテイクを選択し、MULTI JOGボタンを押してファイルメニューをポップアップ表示します。
2. ファイルメニューの “EDIT TC” 項目を選択し、MULTI JOGダイヤルを押します。“EDIT TAKE TC” 画面が表示されます。



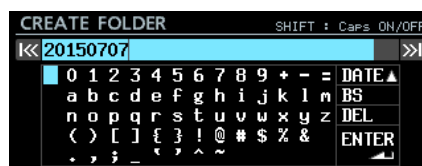
3. MULTI JOGダイヤルを使って、時刻を変更します。最後の桁でMULTI JOGダイヤルを押して確定し、“BROWSE” 画面に戻ります。

メモ

- 編集中にEXIT [PEAK CLEAR] ボタンを押すと変更を中止し、“BROWSE” 画面に戻ります。
- USBキーボードで数字を入力することもできます。

新しいフォルダーを作成する

1. フォルダーメニューをポップアップ表示します。
2. “CREATE” 項目を選択し、“CREATE FOLDER” 画面を表示します。



3. フォルダー名を入力します。フォルダー名の入力方法については、26 ページの「文字列の編集方法」を参照ください。
4. フォルダー名の編集が終了したら “ENTER” を選択後、名前を確定します。確認のメッセージがポップアップ表示されます。



メモ

フォルダーの作成を中止するには、EXIT [PEAK CLEAR] ボタンを押します。

5. MULTI JOGダイヤルを押して、新しいフォルダーを作成します。“Creating Folder...” がポップアップ表示され、新規フォルダーが作成されます。新規フォルダーを作成後、“BROWSE” 画面に戻り、新規フォルダーがカレントフォルダーになります。

メモ

- 1つの階層上に作成できるフォルダー数は、最大1000個です。
- 最初に表示されるフォルダー名は、内蔵時計の年月日となります。(例: 20150301)
- 既存の名前と重複した場合には、内蔵時計の年月日に3桁の番号が追加されたものとなります。(例: 20150301_001)

第5章 フォルダーの操作 (BROWSE画面)

フォルダー構成について

本機は、オーディオフォルダーの中で、オーディオファイルを管理します。

SSD / HDDの中にはテイクをまとめるための、“DA Files”などのオーディオフォルダー群、オーディオフォルダーの中にテイクと呼ばれるオーディオファイル群があります。

フォルダー構成

フォルダー構成は、下図のようになっています。

SSD / HDDをUSBケーブルでパソコンに接続してアクセスするとフォルダーやファイルの構成を確認することが可能です。

注意

フォルダー内のファイルの変更や削除をする、または名称を変更すると本機からそのフォルダーを再生することができなくなる場合があります。

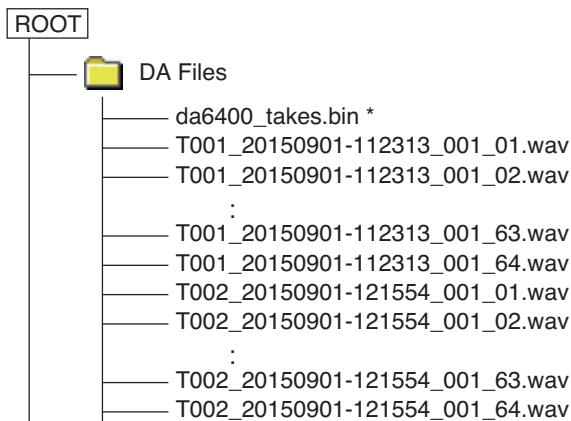
メモ

- これら以外にも管理用のフォルダーやファイルが作成されます。
- カレントフォルダーとして選択できるのは、SSD/HDDのルートにあるフォルダーだけです。それ以外の場所にあるフォルダーは、カレントフォルダーとして選択できません。

ファイル名

ファイルの命名規則は、以下の通りです。

T[テイク番号3桁]_[ファイル名]_[番号3桁]_[チャンネル番号2桁].wav



※ : 自動作成されたオーディオ管理ファイル

ファイルフォーマットについて

本機で記録再生できるファイルフォーマットは、以下の通りです。

ファイルフォーマット	: BWF / WAV *
サンプリング周波数	: 44.1k/48k/88.2k/96kHz
量子化ビット数	: 16 / 24ビット
チャンネル数	: 1チャンネル

※ WAVファイルの記録は、本機では行えません (再生のみ可能です)。

メモ

- 本機では、[ファイル名前半部]_[チャンネル番号2桁].wav というファイル名で、64個以下の1チャンネルのWAVファイルをまとめて、1つのテイクとして認識します。
- チャンネル番号が1桁の場合は、番号の先頭に“0”を付加して“01”、“02”のようにしてください。
- ファイル名の [チャンネル番号2桁] 部が“65”以上のWAVファイルは、1つのテイクとして認識されません。
- ファイル名の [チャンネル番号2桁] 部がないWAVファイルは、1つのテイクとして認識されます。

SDD / HDDに収録されているオーディオファイルの再生機能を説明します。

以下の説明では、オーディオファイルが記録されたSSD / HDDが本機にセットされ、本機の電源がオンになっていることを前提にしています。

再生可能なファイル

本機では、以下の形式のファイルを再生することができます。

- ファイルフォーマット : BWF / WAV
- サンプル周波数 : 44.1k/48k/88.2k/96kHz
- 量子化ビット数 : 16 / 24ビット
- チャンネル数 : 1チャンネル

注意

“REC Fs”画面の設定と異なるサンプル周波数のテイクは再生できません。

“REC Fs”画面の設定と異なるサンプル周波数のテイクを再生させたい場合は、“REC Fs”画面の設定を変更してください。(→ 25ページ「録音するファイル形式を設定する」)

メモ

本機での最大再生チャンネル数は、

- サンプル周波数44.1k/48kHz時：64チャンネル
- サンプル周波数88.2k/96kHz時：32チャンネルとなります。

再生の基本操作

ここでは、再生、再生待機状態、停止などの基本操作について説明します。以下の説明では、必要な接続を終え、本機の電源がオンになっている、オーディオファイルが記録されたSSD / HDDをセットし、ディスプレイにホーム画面が表示されていることを前提にしています。

再生する

再生を始めるには、本体の▶ ボタンを押します。本機で再生可能なオーディオファイルがメディア上に記録されていない場合は、“There is no take.”とポップアップ表示されます。

再生を停止するには：

- ボタンを押します。

再生を再生待機状態にするには：

- [CHASE] ボタンを押します。

テイクを選択する

複数のテイクが存在するときの選曲方法を説明します。

前後のテイクにスキップする

◀◀ / ▶▶ [MARK ▶▶ / ▶▶] ボタンを押すと、前後のテイクにスキップします。

テイクを直接指定する

1. “BROWSE”画面で再生したいテイクをMULTI JOGダイヤルを回して選択します。
2. MULTI JOGダイヤルを押して、ファイルメニューを表示します。

3. ファイルメニュー項目の“SELECT”を選んでMULTI JOGダイヤルを押すと、選択したテイクがカレントテイクになり、ホーム画面に戻ります。

早戻し / 早送りサーチ

テイク内を早戻し / 早送りサーチすることができます。

1. 希望のテイクを再生または再生待機状態にします。
2. ◀◀ / ▶▶ ボタンを押し続けると、早戻し / 早送りが始まります。
3. 押し続けているボタンを放すとサーチが止まり、サーチを始める前の状態（再生待機または再生）に戻ります。

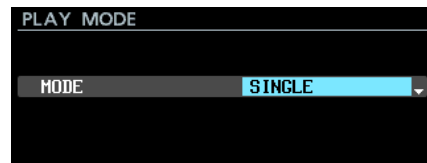
メモ

早戻し / 早送り中に、押し続けている◀◀ / ▶▶ ボタンと反対方向の◀◀ / ▶▶ ボタンを同時に押し続けると、高速での早戻し / 早送りサーチ状態となります。

再生モードを設定する

再生する方法を設定します。

1. “PLAY SETUP”ページの“PLAY MODE”項目を選択し、“PLAY MODE”画面を表示します。(→ 16ページ「メニュー操作の手順」)



2. 再生モードを設定します。

選択肢

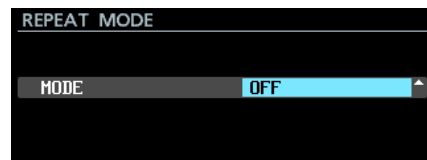
- “SINGLE” (初期値) : 現在選択しているテイクのみを再生します。
- “ALL” : 現在ロードしているフォルダー内の全テイクを再生します。

3. 設定を確定し、メニュー画面に戻ります。

リピートモードを設定する

リピート再生のオン / オフを設定します。

1. “PLAY SETUP”ページの“REPEAT MODE”項目を選択し、“REPEAT MODE”画面を表示します。(→ 16ページ「メニュー操作の手順」)



2. リピート再生のオン / オフを設定します。

選択肢：“OFF” (初期値)、“ON”

3. 設定を確定し、メニュー画面に戻ります。

メモ

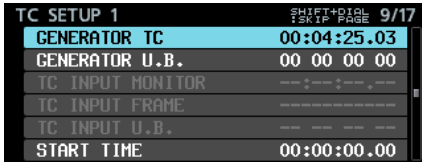
リピート再生をオンにすると、再生モードに応じてそのエリアをリピート再生します。

第7章 内部設定詳細

タイムコードの設定

“TC SETUP 1” ページおよび “TC SETUP 2” ページを使って、タイムコード関連の設定を行います。

TC SETUP 1ページの設定

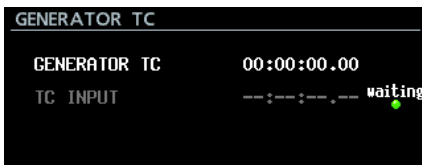


GENERATOR TC

現在のタイムコードジェネレーターの時刻を表示します。“GENERATOR TC” 項目を選択中にMULTI JOGダイヤルを押すと、“GENERATOR TC” 画面を表示します。



[“FREE RUN” に設定時の “GENERATOR TC” 画面]



[“FREE RUN” に設定時以外の “GENERATOR TC” 画面]

“GENERATOR TC” 項目：

“TC GENERATOR MODE” 画面の “GENERATOR MODE” 項目の設定が “FREE RUN” のとき、“RESTART” を選択してMULTI JOGダイヤルを押すと、タイムコードジェネレーターのタイムコードをスタートタイムに戻します。

“TC INPUT” 項目：

“TC GENERATOR MODE” 画面の “GENERATOR MODE” 項目の設定が “FREE RUN” のとき、“CAPTURE” を選択してMULTI JOGダイヤルを押すと、“TC INPUT” に表示されている現在のタイムコード時刻を取り込み、タイムコードジェネレーターのタイムコードに設定します。

“TC GENERATOR MODE” 画面の “GENERATOR MODE” 項目の設定が “FREE ONCE” または “JAM SYNC” のとき、タイムコードの取り込み待ちの状態では、“waiting” インジケータ（キャプチャー状態表示）が緑に点灯し、タイムコードをキャプチャーすると消えます。

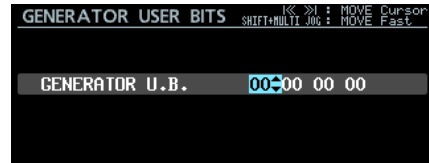
“START TIME” 項目：

“START TIME” 画面の “START TIME” 項目で設定した、タイムコードを再開する時刻を表示します。

GENERATOR U.B.

タイムコードジェネレーターのユーザズビット（U.B.）を表示します。

“GENERATOR U.B.” 項目を選択中にMULTI JOGダイヤルを押すと、“GENERATOR USER BITS” 画面を表示します。



“GENERATOR U.B.” 項目：

ユーザズビット（U.B.）を設定します。

メモ

USBキーボードで数字とA-Fを入力することもできます。

TC INPUT MONITOR

入力タイムコード時刻を表示します。

TC INPUT FRAME

入力タイムコードのフレームタイプを表示します。

TC INPUT U.B.

入力タイムコードのユーザズビット（U.B.）を表示します。

START TIME

“GENERATOR TC” 画面の “RESTART” 項目を選択してMULTI JOGダイヤルを押したときに、タイムコードを再開する時刻を “TC SETUP 1” ページの “GENERATOR TC” 項目に表示します。“STAT TIME” 項目を選択中にMULTI JOGダイヤルを押すと、“START TIME” 画面を表示します。



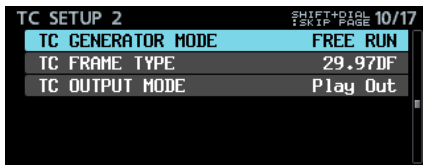
“START TIME” 項目：

タイムコードを再開する時刻を設定します。

メモ

USBキーボードで数字を入力することもできます。

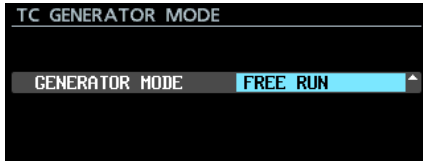
TC SETUP 2ページの設定



TC GENERATOR MODE

タイムコードジェネレーターのモードを表示します。

“TC GENERATOR MODE”項目を選択中にMULTI JOGダイヤルを押すと、“TC GENERATOR MODE”画面を表示します。



“GENERATOR MODE”項目：

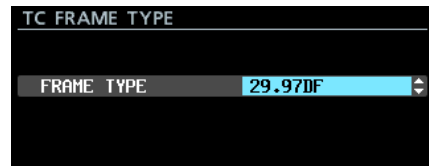
内部タイムコードジェネレーターのモードを設定します。

選択肢	内容
“FREE RUN” (初期値)	スタートタイムからタイムコードジェネレーターが自走します。
“FREE ONCE”	入力タイムコードを一度キャプチャーすると、キャプチャーしたタイムコード時刻からフリーランモードの自走を開始します。
“TIME OF DAY”	以下の操作をしたときに、内蔵時計の時刻をキャプチャーし、フリーランモードで自走します。 <ul style="list-style-type: none"> 電源投入時 “TC GEN MODE”を本モードに変更したとき 内蔵時計を再設定したとき
“JAM SYNC”	タイムコードが入力されているときは、入力タイムコードに同期します。タイムコードの入力がなくなると、フリーランモードで自走します。
“REGEN”	入力タイムコードに同期します。
“REC RUN”	録音時のみタイムコードジェネレーターが動作します。録音以外では、タイムコードジェネレーターは止まります。
“TC SYNC REC”	外部TCに同期すると録音を開始し、外部TCとの同期が外れると録音一時停止状態になります。 “TC SYNC REC”モードに設定されると、ホーム画面の“TC”インジケータは赤色で点灯／点滅します。詳細は、12ページ「ホーム画面」の⑧ タイムコード状態表示の“TC”インジケータを参照ください。 メモ 本機のフレームタイプ設定と入力TCのフレームタイプを一致させてください。

TC FRAME TYPE

タイムコードのフレームタイプを表示します。

“TC FRAME TYPE”項目を選択中にMULTI JOGダイヤルを押すと、“TC FRAME TYPE”画面を表示します。



“FRAME TYPE”項目：

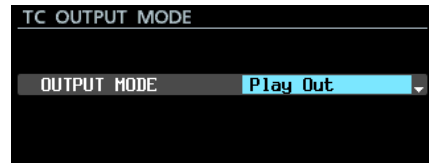
タイムコードのフレームタイプを設定します。

選択肢：“23.976F”、“24F”、“25F”、“29.97DF”（初期値）、“29.97NDF”、“30DF”、“30NDF”

TC OUTPUT MODE

タイムコードの出力モードを表示します。

“TC OUTPUT MODE”項目を選択中にMULTI JOGダイヤルを押すと、“TC OUTPUT MODE”画面を表示します。



“OUTPUT MODE”項目：

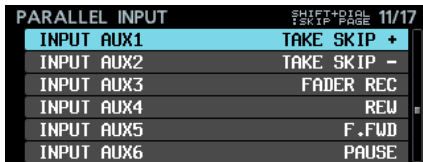
タイムコードの出力モードを設定します。

選択肢	内容
“Generator Out”	内蔵タイムコードジェネレーターのタイムコードを出力します。
“Play Out”（初期値）	ファイルに記録されているタイムコードを出力します。

PARALLEL端子の設定

“PARALLEL INPUT” ページおよび “PARALLEL OUTPUT” ページを使って、PARALLEL端子の入出力の設定を行います。

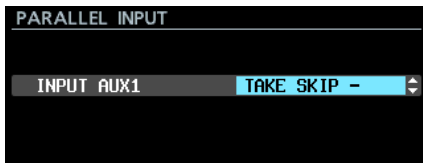
PARALLEL INPUTページの設定



INPUT AUX1 ~ INPUT AUX6

現在のPARALLEL端子のINPUT AUX1 ~ AUX6入力に設定されている機能を表示します。

“INPUT AUX1” ~ “INPUT AUX6” 項目を選択中にMULTI JOGダイヤルを押すと、“PARALLEL INPUT” 画面を表示します。



[“INPUT AUX1” 選択時]

“INPUT AUX1” ~ “INPUT AUX6” 項目：

PARALLEL端子のINPUT AUX1 ~ AUX6の機能の設定を行います。

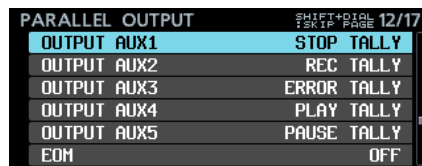
選択肢：

- “PLAY/PAUSE”
- “PAUSE” (“INPUT AUX6” の初期値)
- “REC”
- “FADER REC” (“INPUT AUX3” の初期値)
- “FADER START”
- “REW” (“INPUT AUX4” の初期値)
- “F.FWD” (“INPUT AUX5” の初期値)
- “TAKE SKIP -” (“INPUT AUX2” の初期値)
- “TAKE SKIP +” (“INPUT AUX1” の初期値)
- “MARK SKIP -”
- “MARK SKIP +”
- “TAKE/MARK SKIP -”
- “TAKE/MARK SKIP +”
- “MARK”

メモ

- INPUT AUXに複数の “FADER REC” または “FADER START” を設定することはできません。
- “FADER REC” を設定した場合、ロー信号の入力で録音開始、ハイ信号の入力で録音停止となります。
- “FADER START” を設定した場合、ロー信号の入力で再生開始、ハイ信号の入力で再生待機となります。
- 上記以外を設定した場合は、50m sec以上のロー信号の入力で動作します。(→ 12ページ「PARALLEL端子について」)

PARALLEL OUTPUTページの設定



OUTPUT AUX1 ~ OUTPUT AUX5

現在のPARALLEL端子のOUTPUT AUX1 ~ AUX5入力に設定されている機能を表示します。

“OUTPUT AUX1” ~ “OUTPUT AUX5” 項目を選択中にMULTI JOGダイヤルを押すと、“PARALLEL OUTPUT” 画面を表示します。



[“OUTPUT AUX1” 選択時]

“OUTPUT AUX1” ~ “OUTPUT AUX5” 項目：

PARALLEL端子のOUTPUT AUX1 ~ AUX5の機能の設定を行います。

選択肢：

- “STOP TALLY” (“OUTPUT AUX1” の初期値)
- “PLAY TALLY” (“OUTPUT AUX4” の初期値)
- “PAUSE TALLY” (“OUTPUT AUX5” の初期値)
- “REC TALLY” (“OUTPUT AUX2” の初期値)
- “EOM TALLY”
- “ERROR TALLY” (“OUTPUT AUX3” の初期値)
- “EOM/ERROR TLLY”

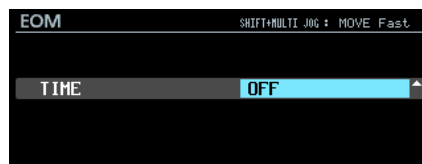
メモ

INFOインジケーターが赤色に点灯しているときにERRORタリー信号を出力します。

EOM

EOM (End Of Message) 機能の設定状態を表示します。録音中／録音待機中の録音可能時間、または再生中／再生待機中の再生総残時間が設定した時間以下になると、“OUTPUT AUX1” ~ “OUTPUT AUX5” 項目を “EOM TALLY” または “EOM/ERROR TLLY” に設定したPARALLEL端子のピン番号から、EOMタリー信号を出力します。

“EOM” 項目を選択中にMULTI JOGダイヤルを押すと、“EOM” 画面を表示します。



“TIME” 項目：

EOMタリー信号を出力するための時間を設定します。

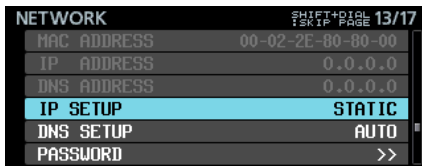
- 選択肢：“OFF” (初期値)、“1sec” ~ “99sec”
(“1sec” ステップ)

メモ

“OUTPUT AUX1” ~ “OUTPUT AUX5” 項目が “EOM/ERROR TLLY” に設定されている場合、どちらかの条件を満たした時点でタリー信号が出力されます。

ネットワーク機能の設定

“NETWORK” ページを使って、ネットワーク機能の設定を行います。



MAC ADDRESS

本機のMACアドレスを表示します。

IP ADDRESS

現在のIPアドレス設定モードを表示します。

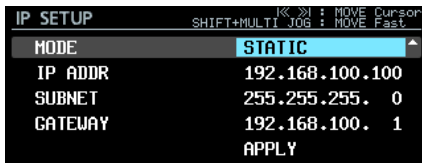
DNS ADDRESS

DNSサーバーのIPアドレス設定モードを表示します。

IP SETUP

“IP SETUP” 画面の “MODE” 項目の設定状態を表示します。

“IP SETUP” 項目を選択中にMULTI JOGダイヤルを押すと、“IP SETUP” 画面を表示します。



“MODE” 項目：

IPアドレスの設定モードを設定します。

選択肢	内容
“STATIC” (初期値)	“IP SETUP” 画面の “IP ADDR” / “SUBNET” / “GATEWAY” 項目を手動で設定します。
“AUTO”	“IP SETUP” 画面の “IP ADDR” / “SUBNET” / “GATEWAY” 項目を自動で設定します。ネットワーク上にDHCPサーバーが存在する場合に、この設定にします。

“IP ADDR” / “SUBNET” / “GATEWAY” 項目：

“IP SETUP” 画面の “MODE” 項目が “STATIC” のとき、“IP ADDR” / “SUBNET” / “GATEWAY” 項目を表示し、設定を変更することができます。

選択肢：“0”～“255”

- (“IP ADDR” 項目の初期値：“192. 168. 100. 100”)
- (“SUBNET” 項目の初期値：“255. 255. 255. 0”)
- (“GATEWAY” 項目の初期値：“192. 168. 100. 1”)

“MODE” 項目が “STATIC” の場合、最後の行の “APPLY” でMULTI JOGダイヤルを押すと、変更した設定を確定しメニュー画面に戻ります。

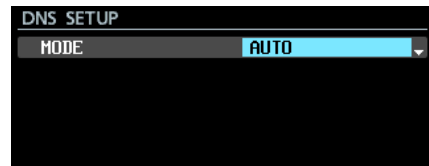
メモ

EXIT [PEAK CLEAR] ボタンを押すとメニュー操作を取り消し、メニュー画面に戻ります。

DNS SETUP

“DNS SETUP” 画面の “MODE” 項目の設定状態を表示します。

“DNS SETUP” 項目を選択中にMULTI JOGダイヤルを押すと、“DNS SETUP” 画面を表示します。



[“MODE” 項目 “AUTO” 選択時]



[“MODE” 項目 “STATIC” 選択時]

“DNS SETUP” 画面は、サーバー名からIPアドレスを調べるためのDNSサーバーのIPアドレスを設定します。

“MODE” 項目：

IPアドレスの設定モードを設定します。

選択肢	内容
“STATIC”	DNSサーバーのIPアドレスを手動で設定します。
“AUTO” (初期値)	DNSサーバーのIPアドレスを自動で設定します。ネットワーク上にDNSサーバーのIPアドレスを返すDHCPサーバーが存在する場合に、この設定にします。

“DNS ADDR” 項目：

“DNS SETUP” 画面の “MODE” 項目が “STATIC” のとき、“DNS ADDR” 項目を表示し、設定を変更することができます。

選択肢：“0”～“255” (初期値：“0. 0. 0. 0”)

“MODE” 項目が “STATIC” の場合、最後の行の “APPLY” でMULTI JOGダイヤルを押すと、変更した設定を確定しメニュー画面に戻ります。

メモ

EXIT [PEAK CLEAR] ボタンを押すとメニュー操作を取り消し、メニュー画面に戻ります。

PASSWORD

“PASSWORD” 項目を選択中にMULTI JOGダイヤルを押すと、“PASSWORD” 画面を表示します。



パスワード (初期値：“DA-6400”) を設定します。

入力文字数は、10文字までです。

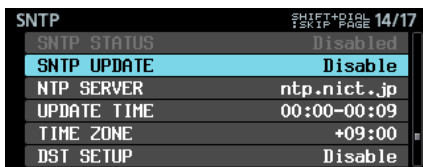
編集方法については、26 ページの「文字列の編集方法」を参照ください。

メモ

“PRESET ▲” でMULTI JOGダイヤルを押すと、初期値 “DA-6400” を入力します。

SNTP機能の設定

“SNTP” ページを使って、自動的にインターネット時刻サーバーの日時と同期するための設定を行います。



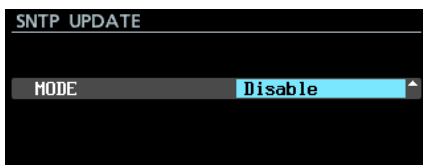
SNTP STATUS

SNTP機能の現在の状態を表示します。

表示	状態
Sync at YYYY/MM/DD hh:mm	表示された日時にNTPサーバーと同期した。
Starting Up	初期化中。
Accessing Server	サーバーに接続中。
Disabled	SNTP機能が無効状態。
Waiting for Network	ネットワーク接続の確立待ち。
Server Name not found	サーバー名がDNSサーバーから見つからなかった。
Server Name found	サーバー名がDNSサーバーから見つかった。
Server connection failed	サーバーから反応がなかった。
Server refusing connections	サーバーから反応があったが、これ以上の接続を拒否しているため、他のSNTPサーバーを選んだ方がよい状態。

SNTP UPDATE

“SNTP UPDATE” 画面の “MODE” 項目の設定状態を表示します。
 “SNTP UPDATE” 項目を選択中にMULTI JOGダイヤルを押すと、“SNTP UPDATE” 画面を表示します。



“MODE” 項目：

SNTP機能の更新モードを設定します。

選択肢

- “Disable” (初期値)：SNTP機能を使用しない。
- “Start Up”：本機の起動時にNTPサーバーから時刻を取得し、内蔵時計の時刻を更新します。
- “Start Up/24h cycle”：本機の起動時、およびその後“UPDATE TIME”項目で設定された時刻に24時間周期でNTPサーバーから時刻を取得し、内蔵時計の時刻を更新します。

メモ

SNTP機能を使用する場合、次に説明する “NTP Server” 項目と “NETWORK” ページの “DNS SETUP” 項目の設定が必要です。

NTP SERVER

“NTP SERVER” 画面の設定状態を表示します。
 “NTP SERVER” 項目を選択中にMULTI JOGダイヤルを押すと、“NTP SERVER” 画面を表示します。



NTPサーバー名 (32文字以下、初期値：“ntp.nict.jp”) を編集します。
 編集方法については、26 ページの「文字列の編集方法」を参照ください。

メモ

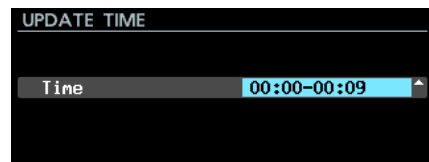
“PRESET▲” でMULTI JOGダイヤルを押すと、プルアップメニューが表示されます。



MULTI JOGダイヤルを回してメニュー項目を選び、MULTI JOGダイヤルを押すと、選択した項目のプリセット値が入力されます。
 プルアップメニューを閉じるには、EXIT [PEAK CLEAR] ボタンを押します。

UPDATE TIME

“UPDATE TIME” 画面の “Time” 項目の設定状態を表示します。
 “UPDATE TIME” 項目を選択中にMULTI JOGダイヤルを押すと、“UPDATE TIME” 画面を表示します。



“Time” 項目：

“SNTP UPDATE” 画面の “MODE” 項目の設定が “Start Up/24h cycle” のとき、NTPサーバーから時刻を取得する時刻を設定します。

選択肢：“00:00 - 00:09” ～ “23:00-23:09”
 (“01:00” / step、初期値：“00:00 - 00:09”)

メモ

00分ちょうどにSNTPサーバーへのアクセスが重なる可能性を減らすために、00分～09分間でランダムにSNTPサーバーにアクセスします。

TIME ZONE

“TIME ZONE”画面の“Time Zone”項目の設定状態を表示します。
 “TIME ZONE”項目を選択中にMULTI JOGダイヤルを押すと、
 “TIME ZONE”画面を表示します。



“Time Zone”項目：
 協定世界時 (UTC) からのオフセット時間を設定します。
 選択肢：“-12:00”～“+14:00”
 (“00:15” / step、初期値：“+09:00”)

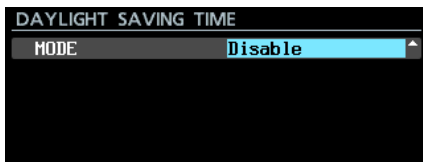
メモ

- 日本標準時 (JST) に合わせる場合は、“+09:00”に設定します。
- アメリカの場合は、下記のように設定します。

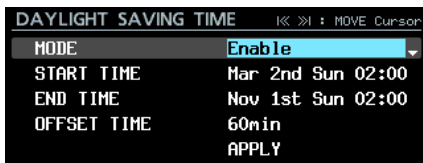
地域	設定
太平洋標準時 (PST) の地域	“-08:00”
山地標準時 (MST) の地域	“-07:00”
中部標準時 (CST) の地域	“-06:00”
東部標準時 (EST) の地域	“-05:00”

DST SETUP

設定された期間中に内蔵時計を進める夏時間機能の設定画面です。
 “DAYLIGHT SAVING TIME”画面の“MODE”項目の設定状態を表示します。
 “MODE”項目の選択肢を“Enable”に選択中MULTI JOGダイヤルを押すと、夏時間機能の設定項目を表示します。



[“MODE” 項目 “Disable” 選択時]



[“MODE” 項目 “Enable” 選択時]

“MODE”項目：
 夏時間機能を有効にするかどうかを設定します。
 選択肢
 “Disable” (初期値)：夏時間機能を無効にします。
 “Enable”：夏時間機能を有効にします。

“START TIME”項目 / “END TIME”項目：
 夏時間機能の開始 / 終了する日時を設定します。

設定項目	選択肢
月	“Jan”、“Feb”、“Mar”、“Apr”、“May”、“Jun”、“Jul”、“Aug”、“Sep”、“Oct”、“Nov”、“Dec”
週	“1st”、“2nd”、“3rd”、“4th”、“5th”、“Last”
曜日	“Sun”、“Mon”、“Tue”、“Wed”、“Thu”、“Fri”、“Sat”
時間	“00:00”～“24:00” (“01:00” / step)

“START TIME”項目の初期値：
 “Mar” / “2nd” / “Sun” / “02:00”
 “END TIME”項目の初期値：
 “Nov” / “1st” / “Sun” / “02:00”

“OFFSET TIME”項目：
 夏時間期間中に時計を進める設定します。
 選択肢：“30min”、“60min” (初期値)

メモ

この画面では、協定世界時 (UTC) ではなく、現地時間設定します。

“MODE”項目が“Enable”の場合、最後の行の“APPLY”でMULTI JOGダイヤルを押すと、変更した設定を確定しメニュー画面に戻ります。

メモ

EXIT [PEAK CLEAR] ボタンを押すとメニュー操作を取り消し、メニュー画面に戻ります。

ネットワーク機能 (FTPサーバー / telnet / VNC)

FTP(ファイル・トランスファー・プロトコル)サーバー

FTPクライアントアプリケーションを使用することで、本機とパソコンの間でのファイル転送が可能です。他のFTPサーバーと同じように本機に接続してログインしてください。

接続してログインするとルートディレクトリーに「ssd」「usb0」と表示されます。これらはそれぞれ「SSD/HDD」「USB」となります。

該当するメディアが装着されていない場合は、「ssd」「usb0」以下の内容は表示されません。

メモ

- 日本語などの多バイト文字のファイル名やフォルダー名のデータは、表示やデータ転送が正常にできません。FTP機能を使用する際は、ファイル名やフォルダー名には半角のアルファベット / 数字 / 記号 (ASCII文字) だけを使うようにしてください。
- 動作確認済みFTPクライアントアプリケーションについては、タスカム カスタマーサポート (巻末に記載) までお問い合わせください。

FTP接続する際に必要となる設定値

本機にFTP接続する際に必要な設定値は、以下の通りです。

- IPアドレス : 本機のIPアドレスは“NETWORK”ページの“IP ADDRESS”項目に表示されます。
- ポート番号 : 21
- ユーザー名 : “DA-6400”
大文字と小文字を区別します (変更はできません)。
- パスワード : デフォルトのパスワードは、“DA-6400”です。大文字と小文字を区別します。“PASSWORD”画面で変更することができます。(→ 39ページ「ネットワーク機能の設定」)

メモ

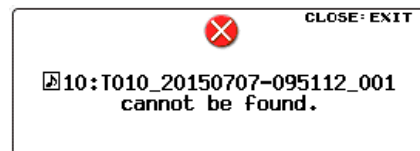
- “LOCK SETUP”画面の“EXTERNAL CONTROL”が“LOCK”に設定されている場合は、FTP接続できません。
- FTP接続中に“LOCK”に設定されると、FTP接続が切断されます。
- FTP接続中に“NETWORK”ページの設定を変更すると、FTP接続が切断されます。

FTPクライアントアプリケーションによるファイル操作について

- 本機からのファイルの読み出し
本機からのファイル読み出しは、常時可能です。
- 本機への新規ファイル追加
本機への新規ファイル追加は、常時可能です。
録音時にカレントフォルダーにBWFファイルもしくはWAVファイルを追加した場合は、既存ファイル / 録音ファイル / 追加ファイルの順でリストに表示されるようになります。
- 本機の既存ファイルへの上書き
カレントテイクへの上書きは、停止中のみ可能です。
これ以外の既存ファイルへの上書きは、常時可能です。ただし、“PLAY MODE”画面の“MODE”項目が“ALL”に設定で再生中の場合、タイミングによってはカレントテイクの次のテイクへの上書きができない場合があります。(→ 35ページ「再生モードを設定する」)

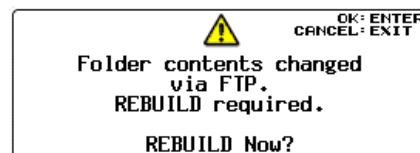
注意

- 音声ファイルのサイズ / チャンネル数 / ビット長 / Fsが上書き前のファイルから変わってしまうと、不整合が生じる場合があります。
不整合が生じた状態で再生すると、下記エラーメッセージが表示される場合があります。



不整合を解消してエラーメッセージが表示されないようにするには、該当テイクをSSD/HDDから削除してください。

- Fsの異なるファイルで既存の音声ファイルを上書きしないでください。不整合を解消することができなくなります。
- 本機のファイルの削除
カレントテイクの削除は、停止中のみ可能です。
カレントテイク以外のファイルは、常時削除可能です。ただし、管理ファイルと音声ファイルとの間に不整合が生じるため、ファイル削除後にリビルド (再構成) を実施する必要があります。
 - ファイル削除後 (再生 / 録音中の場合は停止時) に、下記リビルドの実施確認メッセージが表示されますのでリビルドを実施してください。



- リビルドを実施しない場合、管理ファイルと音声ファイルとの間に不整合が生じるため下記のメッセージがポップアップ表示される場合があります。



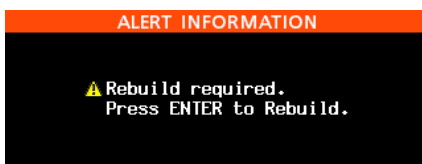
- リビルドが必要な状態になると、INFOインジケーターが赤く点灯し、下記のメッセージがポップアップ表示されます。



MULTI JOGダイヤルを押すと、リビルド（再構築）を実施します。

EXIT [PEAK CLEAR] ボタンを押すと、ポップアップ表示を閉じます。

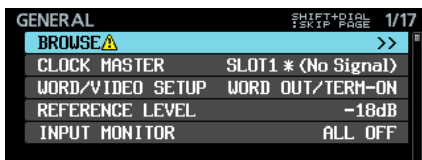
- リビルドが必要な状態で、INFOインジケーターが赤く点灯しているときにINFOボタンを押すと、下記のような“ALERT INFORMATION”画面が表示されます。



この表示の際にMULTI JOGダイヤルを押すと、リビルド（再構築）の実施確認のメッセージがポップアップ表示されますので、MULTI JOGダイヤルを押すとリビルド（再構築）を実施します。

EXIT [PEAK CLEAR] ボタンを押すと、ポップアップ表示を閉じます。

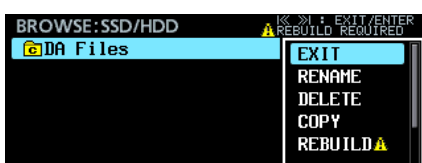
- リビルドが必要な状態になると、下記に“△”マークが表示されます。“BROWSE”画面のプルアップメニュー内の“REBUILD”項目を選択してリビルドを実施してください。
- メニュー画面“GENERAL”ページの“BROWSE”項目の右側。



- “BROWSE”画面の右上。マーク右には“REBUILD REQUIRED”と表示。



- “BROWSE”画面のプルアップメニュー内の“REBUILD”項目の右側。



- 本機への新規フォルダー追加
本機への新規フォルダー追加は、常時可能です。
- 本機のフォルダーの削除
カレントフォルダーの削除は、停止中のみ可能です。
カレントフォルダー以外のフォルダーは、常時削除可能です。
- 本機のファイル／フォルダーの名前変更
本機のファイル／フォルダーの名前は、変更できません。

メモ

USBメモリーとのFTP転送については、停止状態においてのみ対応しています。編集、フォルダーロード、スキップなど、操作しないでください。

リモートコントロール (Telnet)

本機は、ポート23番経由でTelnetを使ったイーサネットによるリモートコントロールが可能です。

● Telnet接続する際に必要となる設定値

本機にTelnet接続する際に必要な設定値は、以下の通りです。

- IPアドレス : 本機のIPアドレスは、“NETWORK”ページの“IP ADDRESS”項目に表示されます。
- ポート番号 : 23
- パスワード : デフォルトのパスワードは、“DA-6400”です。大文字と小文字を区別します。“PASSWORD”画面で変更することができます。(→ 39ページ「ネットワーク機能の設定」)

● 本機にTelnet接続する

- 上記IPアドレス、ポート番号で本機にTelnet接続後、コンピューターのEnterキーを押してください。
- Telnetコンソールに“Enter Password”と表示されますので、上記パスワードを入力してEnterキーを押してください。
- ログインに成功するとTelnetコンソールに“Login Successful”と表示されます。“exit”と入力してEnterキーを押すとTelnet接続を切断します。

メモ

- 同時に2つのTelnet接続が可能です。
- “LOCK SETUP”画面の“EXTERNAL Control”項目が“LOCK”に設定されている場合は、Telnet接続できません。Telnet接続中に“LOCK”に設定されると、Telnet接続が切断されます。
- Telnet接続中に“NETWORK”ページの設定を変更すると、Telnet接続が切断されます。
- 本機のTelnetコマンドプロトコルについては、タスカム カスタマーサポート（巻末に記載）までお問い合わせください。

VNC (ヴァーチャル・ネットワーク・コンピューティング)

VNCビューワアプリケーションを使用することで、本機のディスプレイに表示される画面をパソコンで表示させて操作することが可能です。

VNCビューワアプリケーション上でマウス操作をすることにより、下記の操作が可能です。

- マウス左クリック : 本機のMULTI JOGダイヤルを押したときと同様の動作をします。
- マウス右クリック : 本機のEXIT [PEAK CLEAR] ボタンを押したときと同様の動作をします。
- マウスホイール操作 : 本機のMULTI JOGダイヤルと同じ動作をします。
- マウスホイール押し回し : 本機のSHIFTボタンを押しながらのMULTI JOGダイヤルを回した場合と同じ、大まかな設定動作 (MOVE Fast動作) をします。

また、VNCビューワアプリケーションをアクティブにしてコンピューターのキーボード操作をすることにより、本機に接続した外部キーボードと同じ動作をします。詳細は、54ページ「キーボード操作一覧」を参照ください。

VNC接続する際に必要となる設定値

VNCビューワアプリケーションを本機に接続する際に必要な設定値は、以下の通りです。

IPアドレス: 本機のIPアドレスは、“NETWORK” ページの“IP ADDRESS” 項目に表示されます。

パスワード: デフォルトのパスワードは、“DA-6400” です。大文字と小文字を区別します。“PASSWORD” 画面で変更することができます。(→ 39ページ「ネットワーク機能の設定」)

メモ

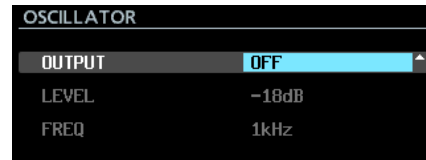
- 2つ以上同時にVNC接続することはできません。
- “LOCK SETUP” 画面の“KEYBOARD” が“LOCK” に設定されている場合、VNCビューワアプリケーションでの表示は可能ですが、操作はできなくなります。
- VNC接続中に“NETWORK” ページの設定を変更すると、VNC接続が切断されます。
- 動作確認済みVNCビューワアプリケーションについては、タスクカスタマーサポート (巻末に記載) までお問い合わせください。
- FTPによるファイル転送中やシステムFsが88.2k / 96kHzの場合は、VNCビューワアプリケーションの表示や操作がスムーズに行えません。

OSC (オシレーター) の設定

基準レベル (→ 23ページ「リファレンスレベルを設定する」)、1kHzのサイン波を出力します。

接続状況の確認などにお使いください。

1. “SYSTEM SETUP” ページの“OSCILLATOR” 項目を選択し、“OSCILLATOR” 画面を表示します。(→ 16ページ「メニュー操作の手順」)



2. オシレーター機能のオン/オフを設定します。
選択肢: “OFF” (初期値)、“ON”
3. 設定を確定し、メニュー画面に戻ります。

メモ

- “REFERENCE LEVEL” 画面で基準レベルを変えるとオシレーターの出力レベルも変わります。
- この画面では、基準レベルの変更はできません。
- 周波数は、1kHz固定です。
- オシレーターのオン設定は、バックアップされません。
- 再生中はオシレーターをオンに設定できません。
- 下記のタイミングでオシレーター設定が自動的にオフに切り換わります。
 - 起動時
 - フォルダのロード時
 - 再生開始時

マーク機能

マークポイントを登録する

以下の方法でマークポイントを登録します。
 マークポイントは、オートマーク機能によって登録されたマークポイントと合わせて、1つのテイクあたり最大99個まで登録することができます。

手動でマークポイントを登録する

MULTI JOGダイヤルを押すと、そのときの再生/録音時刻にマークポイントを登録することができます。
 マークポイント名は、“MARK xx”となります。



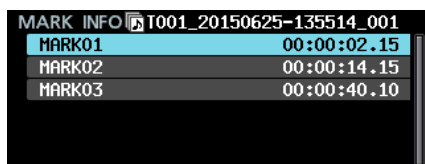
自動でマークポイントを登録する

オートマーク機能を使って、録音中に自動でマークポイントを登録することができます。オートマーク機能については、27ページ「録音中に自動でマークポイントを登録する」をご参照ください。
 マークポイント名は、それぞれ以下ようになります。

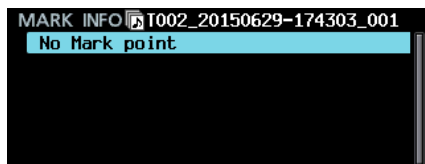
オートマーク機能による登録	マークポイント名表示
オーバーロードインジケータ点灯時	OVERxx
マスタークロックとの同期が外れたとき	UNLKxx
一定時間ごと	TIMExx

マークポイントの操作

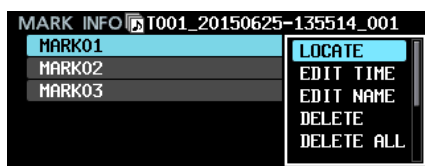
SHIFTボタンを押しながらINFOボタンを押すと、“MARK INFO”画面を表示します。



カレントテイクにマークポイントが登録されていない場合は、“No Mark Point”と表示します。



“MARK INFO”画面内の希望のマークポイントを選択し、MULTI JOGボタンを押してマークメニューをポップアップ表示します。



MULTI JOGボタンを回して希望の項目を選択し、MULTI JOGボタンを押すと、次の動作を行います。

LOCATE

選択したマークポイントの時刻に移動します。(→ 45ページ「マークポイントに移動する」)

EDIT TIME

選択したマークポイント時刻を編集する“EDIT MARK TIME”画面を表示します。

EDIT NAME

選択したマークポイント名を編集する“MARK NAME”画面を表示します。

DELETE

選択したマークポイントを削除します。(→ 46ページ「マークポイントを削除する」)

DELETE ALL

カレントテイクの全てのマークポイントを削除します。(→ 46ページ「カレントテイクの全てのマークポイントを削除する」)

SORT BY TIME

マークポイント時刻順にソートして表示します。

SORT BY NAME

マークポイント名順にソートして表示します。

INFO

カレントテイクの各種マークポイントの数をポップアップ表示します。(→ 46ページ「マークポイントの情報を見る」)

CANCEL

マークメニューを閉じます。

マークポイントに移動する

ボタン操作でマークポイントに移動する

SHIFTボタンを押しながら、◀◀ [MARK ◀◀] ボタンまたは ▶▶ [MARK ▶▶] ボタンを押すことにより、1つ手前または1つ先のマークポイントに移動します。

メモ

“PARALLEL INPUT”画面の“INPUT AUX1”～“INPUT AUX6”項目の設定が“MARK SKIP +” / “MARK SKIP -” / “TAKE/MARK SKIP +” / “TAKE/MARK SKIP -” / “MARK” のとき、PARALLEL端子にマークポイント移動のイベントが入力されると、それぞれ1つ先または1つ手前のマークポイントに移動します。(→ 38ページ「PARALLEL INPUTページの設定」)

マークメニューを使ってマークポイントに移動する

1. MULTI JOGダイヤルを回して、移動したいマークポイントを選択します。
2. MULTI JOGダイヤルを回してマークメニューをポップアップ表示し、“LOCATE”項目を選んでMULTI JOGダイヤルを押すと、選択したマークポイントに移動します。

第8章 マーク機能とロケート機能

マークポイントの名前を編集する

1. 名前を編集したいマークポイントを選択し、MULTI JOGボタンを押してマークメニューをポップアップ表示します。
2. マークメニューの“EDIT NAME”項目を選択しMULTI JOGダイヤルを押して、“MARK NAME”画面を表示します。



3. マークポイント名を入力します。
マークポイント名の編集方法については、26 ページの「文字列の編集方法」を参照ください。

メモ

- オートマーク機能によって登録されたマークポイントは、編集できません。
- マークポイントの名前の編集は、停止中、再生待機中のみ可能です。

マークポイントを削除する

1. 削除したいマークポイントを選択し、MULTI JOGボタンを押してマークメニューをポップアップ表示します。
2. マークメニューの“DELETE”項目を選択し、MULTI JOGダイヤルを押します。
3. 確認のメッセージがポップアップ表示されます。
MULTI JOGダイヤルを押すと、再度確認のメッセージがポップアップ表示されます。
4. MULTI JOGダイヤルを押し続けると、選択したマークポイントを削除します。

メモ

マークポイントの削除は、停止中／再生待機中のみ可能です。

カレントテイクの全てのマークポイントを削除する

1. MULTI JOGボタンを押して、マークメニューをポップアップ表示します。
2. マークメニューの“DELETE ALL”項目を選択し、MULTI JOGダイヤルを押します。
3. 確認のメッセージがポップアップ表示されます。
MULTI JOGダイヤルを押すと、再度確認のメッセージがポップアップ表示されます。
4. MULTI JOGダイヤルを押し続けると、カレントテイクの全てのマークポイントを削除します。

メモ

マークポイントの削除は、停止中／再生待機中のみ可能です。

マークポイントの位置を編集する

MULTI JOGダイヤル操作で付けたマークポイント（マークポイント名が“MARK xx”のもの）は、マークポイントの位置（時刻）を編集することができます。

メモ

- オートマーク機能によって登録されたマークポイントは、編集できません。
 - マークポイントの位置の編集は、停止中／再生待機中のみ可能です。
1. 位置を編集したいマークポイントを選択し、MULTI JOGボタンを押してマークメニューをポップアップ表示します。
 2. マークメニューの“EDIT TIME”項目を選択し、MULTI JOGダイヤルを押します。
 3. “EDIT MARK TIME”画面が表示されるので、MULTI JOGダイヤルを使って時刻を変更します。



最後の桁でMULTI JOGダイヤルを押して確定し、“MARK INFO”画面に戻ります。

メモ

- 編集集中にEXIT [PEAK CLEAR] ボタンを押すと変更を中止し、“MARK INFO”画面に戻ります。
- USBキーボードで数字を入力することもできます。

マークポイントの情報を見る

MULTI JOGボタンを押してマークメニューをポップアップ表示し、“INFO”項目を選択してMULTI JOGボタンを押すとカレントテイクの各種マークポイントの数をポップアップ表示します。

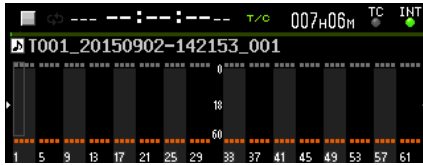


EXIT [PEAK CLEAR] ボタンを押すと、ポップアップ表示を閉じます。

指定した位置にロケートする

テンキーがあるUSBキーボードやUSBテンキーボードを使用すると、停止中/再生中/再生待機に、指定した位置に移動（ロケート）することができます。

ホーム画面で*キー（アスタリスクキー）を押すと、テイク番号と時間表示がクリアされて、数字入力待ち状態になります。



そのままテンキーを使って、以下の順番で数字を入力します。

- テイク番号：3桁
- テイクの先頭からの経過時間
(xx時 xx分 xx秒 xxフレーム)：それぞれ2桁

たとえば、テイク2の先頭から1分30秒の位置を指定する場合、以下の順にボタンを押します。

0 → 0 → 2 → 0 → 0 → 0 → 1 → 3 → 0 → 0 → 0

11桁の数字入力を終えた時点で、自動的に指定位置にロケートします。

本機のロケート後の状態（停止中/再生待機中/再生中）は、ロケート前の状態と同じになります。

この条件により、再生中にロケートを行った場合のみ、ロケート後もその位置からすぐに再生が始まります。

メモ

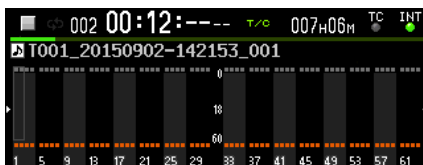
USBキーボードのBackspaceキーまたは/キー（バックslashキー）を押すと、入力した数値を1桁削除します。

途中まで指定したロケート条件でサーチを行う

指定する時間の値の入力が完了する前にUSBキーボードのEnterキーを押す、本体のMULTI JOGダイヤルを押す、または▶ボタンや|| [CHASE] ボタンを押すと、その時点で入力した指定位置にロケートします。

たとえば、下記の順序で途中までボタンを押します。

0 → 0 → 2 → 0 → 0 → 1 → 2



この状態で▶ボタンを押すと、テイク2の先頭から12分の位置にロケートします。

ロケート前に押したボタンによって、ロケート後の動作が異なります。

MULTI JOGダイヤルを押した場合：

ロケート前の状態に応じて再生または再生待機状態になります。

▶ボタンを押した場合：

再生を開始します。

|| [CHASE] ボタンを押した場合：

再生待機状態になります。

第9章 外部機器で録音したファイルを取り込む

以下の要件を満たす音声ファイルを取り込んで、テイクとして再生することができます。また、TASCAM DA-6400 / DA-6400dpで作成された以下の要件を満たすファイルは、そのまま再生することができます。

- ファイルフォーマット : BWF / WAV
- サンプル周波数 : 44.1k/48k/88.2k/96kHz
- 量子化ビット数 : 16 / 24ビット
- チャンネル数 : 1チャンネル

注意

“REC Fs” 画面の設定と異なるサンプル周波数のテイクを再生することはできません。(→ 25ページ「録音するファイル形式を設定する」)

異なるサンプル周波数のテイクを再生する場合、“REC Fs” 画面の設定を変更してください。

同一フォルダーの中には、できるだけ同じサンプル周波数のファイルを用意することをおすすめします。

メモ

- [ファイル名前前半部]_[チャンネル番号2桁].wav というファイル名で、64個以下の1チャンネルのWAVファイルをまとめて、1つのテイクとして認識します。
- チャンネル番号が1桁の場合は、番号の先頭に“0”を付加して“01”、“02”のようにしてください。
- ファイル名の [チャンネル番号2桁] 部が“65”以上のWAVファイルは、1つのテイクとして認識されます。
- ファイル名の [チャンネル番号2桁] 部がないWAVファイルは、1つのテイクとして認識されます。

取り込み前の準備

本機で初めて使用するSSD / HDDの場合は、必ず本機でフォーマットを行ってください。本機でフォーマットされたSSD / HDDは、性能向上のために最適化されています。

他の機器、パソコンなどでフォーマットしたSSD / HDDを使用した場合は、動作に影響が出る場合があります。

1. SSD / HDDをフォーマットします。(→ 20ページ「SSD / HDD / USBメモリーを使えるようにする」)

メモ

本機でフォーマットを行うと、自動でルートに《DA Files》フォルダーを作成します。

2. 本機をUSB接続モードに切り換える、または本機の電源を切りSSD/HDDケースを取り外し、パソコンなどと接続します。(→ 49ページ「SSD/HDDとパソコンを接続する」)
3. 本機でフォーマットした場合、パソコンからは《DA-6400》というドライブとして認識されます。
4. 取り込みたい音声ファイルを《DA-6400》の下層にあるフォルダーにコピーしてください。
5. 書き込みが終わったら、USB接続モードを終了する、またはSSD/HDDケースをパソコンから切り離してください。

取り込んだファイルを本機で扱う

- カレントフォルダーに追加した場合、自動で再生可能なオーディオファイルがテイクとして認識されます。
- カレントフォルダー以外に追加した場合、追加したフォルダーをカレントフォルダーに選択すると、自動で再生可能なオーディオファイルがテイクとして認識されます。

第10章 パソコンを使ったデータ送受信

本機に装着されたSSD/HDDケースとパソコンをUSB接続することで、データの送受信、またフォルダーやファイルの構成を確認することが可能です。

ただし、フォルダー内のファイルの変更や削除をする、または名称を変更するとDA-6400からそのフォルダーを再生することができなくなる場合があります。ご注意ください。

パソコンにファイルをコピーするときの注意

DA-6400用のSSD / HDDからパソコンにファイルをコピーするときには、次の点に注意してください。

- 後日DA-6400で正しく再生させたい場合には、フォルダー構成を変更せずにフォルダーを丸ごとコピーしてください。フォルダー構成を変更したり、BWF/WAVファイルだけをコピーしたりすると、DA-6400でチャンネル数やテイク番号などが正しい状態で再生できなくなる場合があります。

パソコンからファイルをコピーするときの注意

パソコンからDA-6400用のSSD / HDDにファイルをコピーするときには、次の点に注意してください。

- サンプリング周波数が44.1k/48k/88.2k/96kHzで、サンプル・サイズ（ビット数）が16/24ビットの組み合わせのリニアPCMのWAVファイルのみ、DA-6400で再生することができます。WAVファイル以外はDA-6400では、認識できないため無視されます。
- 異なるサンプリング周波数のファイルを同一フォルダー内に混在させ、テイクと認識させることは可能です。ただし、“**RECFs**”画面の設定と異なるサンプリング周波数のテイクを再生することはできません。同一フォルダーの中には、できるだけ同じサンプリング周波数のファイルを用意することをおすすめします。（→ 25ページ「録音するファイル形式を設定する」）
- 2GB以上のファイルは、DA-6400用のSSD / HDDにコピーしないでください。DA-6400の動作が不安定になり、SSD / HDD内のファイルが破損する場合があります。

メモ

本章の説明の中で「パソコン」と表記する場合は、本機が対応しているWindowsまたはMacのパソコンを指します。

必要なパソコンシステム

本機と以下のパソコンを接続することができます。

Windows

Windows 10、Windows 8（8.1を含む）、Windows 7

Mac

Mac OS X 10.2以上

本機とパソコンを接続すると、パソコンは本機をリムーバブルディスクとして認識します。専用のドライバーは不要です。

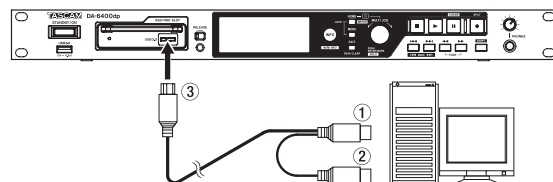
メモ

SSD/HDDケースとパソコン間のデータ転送は、USB3.0スピード（最大）で行われます。USB3.0のスピードを得るためには、付属のUSBケーブルまたは市販のUSB3.0に対応したケーブル（USB3.0 microB）とパソコンのUSB3.0対応端子を使用する必要があります。

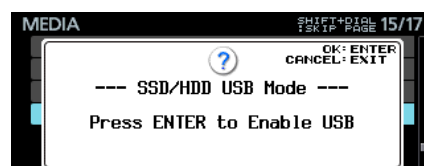
SSD/HDDとパソコンを接続する

本機に装着されたSSD/HDDケースをパソコンに接続し、本機で記録したオーディオデータをパソコンに転送することができます。SSD/HDDケースとパソコンの接続は、**USB3.0**端子を使って行います。

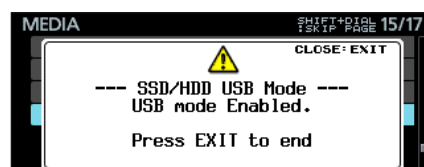
1. SSD/HDDケースとパソコンを、以下イラストの番号順（① → ② → ③）で付属のUSBケーブルを接続します。



2. “MEDIA” ページの “SSD/HDD USB CONNECT” 項目を選択します。
3. MULTI JOGダイヤルを押すと、確認のメッセージがポップアップ表示されます。
4. MULTI JOGダイヤルを押します。以下のメッセージがポップアップ表示されます。



5. MULTI JOGダイヤルを押すと、パソコンと接続を開始します。パソコンと接続中は、以下の画面を表示します。



SSD/HDDケースとパソコンを接続する場合の注意事項

- 付属USBケーブルのタイプA端子（①、②）は、2つともパソコンに接続してください。パソコンのUSB端子の電源供給能力やケースに搭載されたSSD/HDDの種類によっては、電力が不足しSSD/HDDが正常に動作しない場合があります。
- 付属USBケーブルは最初にタイプA端子（①、②）2つともパソコンに接続し、その後USB3.0対応microB端子（③）をSSD/HDDケースに接続してください。
- 付属USBケーブルのタイプA端子（①、②）には、ACアダプターなどのパソコン以外の5V電源供給機器を接続しないでください。パソコンとは別の電源供給機器に接続すると、ケーブルに接続した全ての機器が故障する可能性があります。

接続を解除する

以下の手順で接続を解除してください。
手順を誤るとファイルの一部が破壊されてしまう場合があります。
必ず手順通りに解除してください。

注意

データを転送中にUSB接続を解除したり、USBケーブルを抜いたりしないでください。
パソコンや本機のデータが破壊される可能性があります。

1. パソコンから接続を解除します。
以下の手順で、個々にSSD / HDDを取り外すことができます。

Windows 10 / Windows 8 (8.1を含む) / Windows 7 の場合

タスクバーのシステムトレイ (通常は右下) 内の《**ハードウェアの安全な取り外し**》をクリックし、ハードウェアの取り出しを行うと、DA-6400のSSD / HDDが取り外されます。

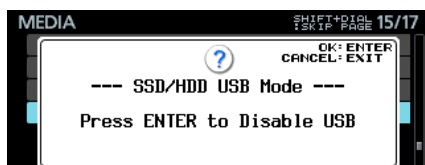
Mac の場合

本機のアイコン《**DA-6400**》をゴミ箱にドラッグするか
Command + E 操作を行って、DA-6400を「取り出し」ます。

この時点でSSD / HDDの抜き差しが可能になります。続けて他のSSD / HDDを差し込んで作業することも可能です。

メモ

- 取り出しを行ったあとにパソコンと再度接続する場合は、USBケーブルをいったん抜き差ししてください。
 - Mac OS X のバージョンによっては、Finderウィンドウに表示される《**DA-6400**》のイジェクトアイコンをクリックする、またはControlキーを使った操作を行って、取り出すこともできます。
2. 本体から接続を解除します。
本体からパソコンとの接続を解除するには、**EXIT [PEAK CLEAR]** ボタンを押します。このとき、以下のメッセージがポップアップ表示されます。



MULTI JOGダイヤルを押すとパソコンとの接続を終了し、メニュー画面に戻ります。

EXIT [PEAK CLEAR] ボタンを押すと、接続中のポップアップ表示に戻ります。

3. USBケーブルを外します。

メモ

SSD/HDDケースを本機から取り外した状態でもパソコンと接続してデータをやりとりすることができます。

INFOボタン／インジケータの表示

本機が正常に動作しているときは、INFOインジケータが青色に点灯します。

本機にエラーまたは警告事項が発生しているときは、INFOインジケータが赤色に点灯します。

INFOインジケータが青色に点灯しているときにこのボタンを押すと、ディスプレイに本機の動作状態を表示します。また、INFOインジケータが赤色に点灯しているときにこのボタンを押すと、ディスプレイにエラーメッセージを表示します。

動作状態表示（青色点灯時）

INFORMATION	
CLOCK	48kHz INTERNAL
FILE	BWF 24bit 64ch MONO 2015/02/14

表示内容：

CLOCK

現在動作しているサンプリング周波数／クロックソース

FILE

現在選択されているファイルの情報

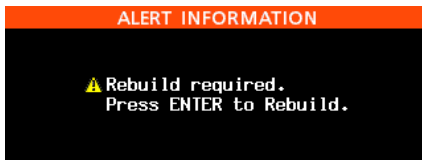
ファイルタイプ／量子化ビット数

チャンネル数／ファイルモード

録音日

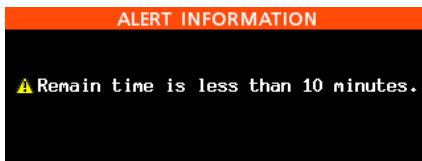
青色点灯状態時は、INFOボタンを押すたびにホーム画面と動作状態表示を交互に表示します。

アラート表示（赤色点灯時）



表示内容1：

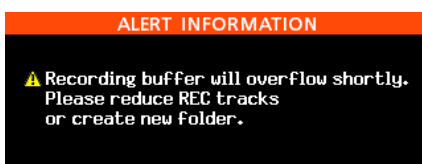
リビルド（再構築）が必要です。MULTI JOGダイヤルを押すとリビルド（再構築）を実施します。



表示内容2：

録音残り時間が10分を切りました。アラート表示は、録音中または録音待機中に録音可能時間が10分以下になると表示されます。

このアラート表示は、一度確認すると録音が終了するまで表示されません。



表示内容3：

フォルダー内のファイル数が増えるなどの要因で、メディアへの書き込みが遅くなってきたため、もうすぐ録音バッファがオーバーフローしそうです。録音チャンネル数を減らすか、新しいフォルダーを作ってください。

これらは同時に表示される場合もあります。

エラー表示 1（赤色点灯時）

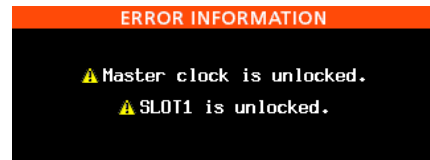


表示内容：

メディアのエラーを表示します。

DA-6400dpの場合は、電源のエラーも表示します。（→55ページ「電源リダンダント確認機能の設定（DA-6400dpのみ）」）

エラー表示 2（赤色点灯時）



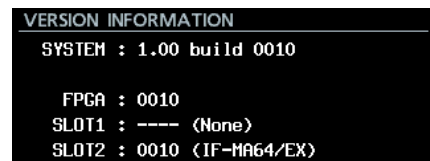
表示内容：

マスタークロックとSLOTのエラーを表示します。

INFOボタンを押すたびにアラート表示 → エラー表示1 → エラー表示2 → 動作状態表示 → ホーム画面の順番で表示します。ただし、アラート表示とエラー表示は、アラートおよびエラーが発生している状態（赤色点灯状態）のときだけ表示されます。

ファームウェアバージョンの確認

1. “SYSTEM SETUP” ページの “VERSION INFO” 項目を選択し、“VERSION INFORMATION” 画面を表示します。（→16ページ「メニュー操作の手順」）

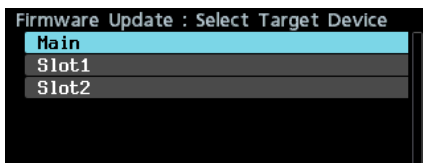


“VERSION INFORMATION” 画面には、システムのファームウェアバージョン情報とビルド番号と、SLOT 1またはSLOT 2に挿入されているカード情報が表示されます。

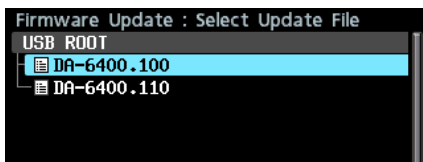
2. EXIT [PEAK CLEAR] ボタンを押して、メニュー画面に戻します。

ファームウェアアップデート手順

1. TASCAMのウェブサイト (<http://tascam.jp/>) より最新のファームウェアをダウンロードします。ダウンロードを行ったファイルがZIP形式などの圧縮ファイルの場合は、解凍してください。
2. ダウンロードしたファームウェアをUSBメモリーのルートディレクトリ（一番上の階層）にコピーしてください。
3. 手順2.で作成したUSBメモリーを、フロントパネルのUSB2.0端子に挿入します。
4. “SYSTEM SETUP” ページの “FW UPDATE” 項目を選択し、“Firmware update” 画面を表示します。（→ 16ページ「メニュー操作の手順」）



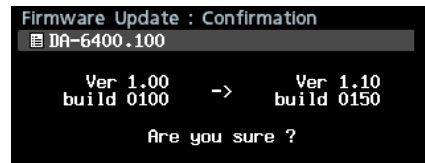
5. ファームウェアをアップデートするデバイスを選択します。
 選択肢：
 - “Main” : 本機のファームウェアをアップデートする
 - “Slot1” : SLOT 1に挿入されているI/Oカードのファームウェアをアップデートする
 - “Slot2” : SLOT 2に挿入されているI/Oカードのファームウェアをアップデートする
6. USBメモリーを認識し、ファームウェア用アップデートファイルを確認すると以下の画面が表示されます。



メモ

- 上記の画面には、フロントパネルのUSB2.0端子に挿入されたUSBメモリーのルートフォルダー内にあるファームウェアアップデート用のファイルがリスト表示されます。上記の2.でコピーされたファームウェアも表示されます。アップデート用のファイルがない場合は、“No Update File” と表示されます。
- 表示行はファームウェア最大5行です。表示最大行を超えるファイルがある場合には、MULTI JOGダイヤルでリストをスクロールさせてください。
- 画面は一例で、実際の表示とは異なります。

7. アップデートするファームウェアを選択します。以下の画面が表示されます。



左側に現在のバージョン、右側にアップデートするバージョンナンバーが表示されます。

メモ

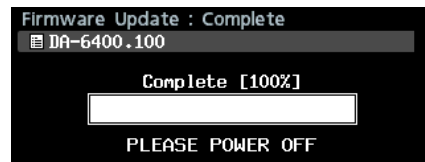
画面は一例で、実際の表示とは異なります。

8. MULTI JOGダイヤルを押すと、アップデートを開始します。

注意

- アップデート中は電源を切断しないようにご注意ください。
- アップデート途中で電源が切断されると、起動できなくなる恐れがあります。

9. アップデートが完了すると、以下の画面が表示されます。

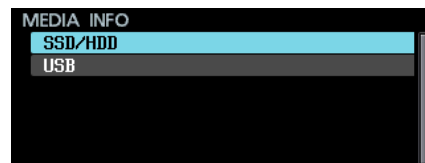


10. 本体のSTANDBY/ONスイッチを押して、電源を切ります。
11. 51ページ「ファームウェアバージョンの確認」を参照して、最新のファームウェアとなっていることを確認してください。以上で本機のアップデート作業は終了です。
12. USBメモリー内あるファームウェアアップデート用ファイルを削除してください。

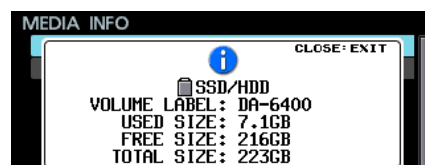
メディアの情報の確認

カレントデバイスのメディア情報を見ることができます。

1. “MEDIA” ページの “MEDIA INFO” 項目を選択し、“MEDIA INFO” 画面を表示します。



2. メディア情報を確認するメディアを選択し、メディア情報をポップアップ表示します。カレントデバイスのメディア情報が表示され、使用容量、空き容量、全体容量を確認することができます。

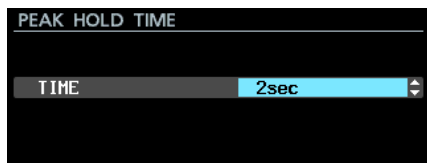


3. EXIT [PEAK CLEAR] ボタンを押して、メニュー画面に戻します。

ピークホールド表示の設定

レベルメーターのピークホールド表示の設定を行います。

1. “PREFERENCES” ページの “PEAK HOLD TIME” 項目を選択し、“PEAK HOLD TIME” 画面を表示します。(→ 16ページ「メニュー操作の手順」)



2. レベルメーターのピークホールド時間を設定します。
選択肢: “0sec” ~ “10sec”、“inf” (常にホールド)
 (初期値: “2sec”)
3. 設定選択を確定し、メニュー画面に戻します。

メモ

ホーム画面を表示中にEXIT [PEAK CLEAR] ボタンを押すと、ピークホールド表示をリセットします。

メーターモードの設定

ホーム画面のレベルメーター表示部に表示されるチャンネル数を設定します。

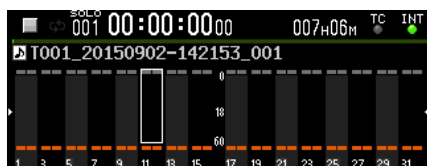
1. “PREFERENCES” ページの “METER MODE” 項目を選択し、“METER MODE” 画面を表示します。(→ 16ページ「メニュー操作の手順」)



2. ホーム画面のレベルメーター表示部に表示されるチャンネル数を設定します。
選択肢: “32ch”、“64ch” (初期値)
3. 設定選択を確定し、メニュー画面に戻します。

メモ

- メーターモードが “32ch” のとき、ホーム画面が以下のような表示になります。



ホーム画面に表示するレベルメーターのチャンネル表示を “1-32” 表示と “33-64” 表示を切り換えるには、SHIFT ボタンを押しながらHOME [METER] ボタンを押します。

- メーターモードが “32ch” のときにチャンネル表示を “1-32” 表示と “33-64” 表示で切り換えた場合、ソロ選択枠は切り換え前の位置を維持します。そのため、ソロ選択枠が見えない状態になります。
 この状態でMULTI JOGダイヤルを操作すると、表示されているチャンネルにソロ選択枠が移動します。

- メーターモードが “32ch” のとき、ソロ選択枠は表示されているチャンネル間でのみ移動できます。

USBキーボードを使った操作

Windowsパソコン用USBキーボードやテンキーを、本機フロントパネルのUSB2.0端子に接続することにより、キーボードを使って本機を操作することができます。
 各種コントロールが可能です。特に名前を入力を効率的に行うことができます。

キーボードタイプの設定

接続するキーボードに合わせて、キーボードタイプを選択します。

1. “PREFERENCES” ページの “KEYBOARD TYPE” 項目を選択し、“KEYBOARD TYPE” 画面を表示します。(→ 16ページ「メニュー操作の手順」)



2. “US” (英語対応キーボード) または “JPN” (日本語対応キーボード) に設定します。
選択肢: “JPN” (初期値)、“US”
3. 設定選択を確定し、メニュー画面に戻します。

キーボードを使って名前や数値を入力する

パソコンの文字入力と同じ感覚で、以下の項目で文字を編集／入力することができます。

- フォルダー名 (→ 33ページ「新しいフォルダーを作成する」)
- ファイル名 (→ 31ページ「フォルダー名／テイク名／ファイル名を編集する」)
- パスワード (→ 39ページ「ネットワーク機能の設定」)
- NTPサーバー名 (→ 40ページ「SNTP機能の設定」)
- マークポイント名
 (→ 46ページ「マークポイントの名前を編集する」)

また、以下の項目で数値を入力することができます。

- 指定した位置にロケートする
 (→ 47ページ「指定した位置にロケートする」)

入力する文字種を選択するには：

パソコンでの操作と同じように、ShiftキーとCaps Lockキーを使って入力する文字の種類を選択できます。

入力するには：

数字キー、文字キー、記号キーで直接入力します。

カーソルを移動するには：

- ← / → キーを使います。
- HOME / ↑ キーでカーソルを先頭に移動します。
- END / ↓ キーでカーソルを末尾に移動します。

第11章 各種設定／情報表示／キーボード操作

文字を削除するには：

- Deleteキー：カーソル位置の文字を削除します。
Back Spaceキー：カーソル手前の文字を削除します。

文字を挿入するには：

希望の位置で文字を入力します。(初期値：挿入モード)
文字入力モードが初期値の挿入モードになっていない場合は、Insertキーを押して挿入モードに切り換えてから入力します。

文字を修正するには：

Insertキーを押して上書きモードに切り換えてから、カーソルを合わせて入力します。

注意

- 以下の記号や句読点は、名前に使うことができません。
¥ / : * ? " < > |
- カナ入力はできません。

また、以下の項目でも数値を入力することができます。

- “EDIT TAKE TC”画面 (→ 33ページ)
- “EDIT MARK TIME”画面 (→ 46ページ)
- “GENERATOR USER BITS”画面 (→ 36ページ)
- “START TIME”画面 (→ 36ページ)
- “IP SETUP”画面 (→ 39ページ)
- “DNS SETUP”画面 (→ 39ページ)

- これらの画面では、←キーまたは / キーでカーソルを左に、→キーまたはENTERキーでカーソルを右に移動します。
- “IP SETUP”画面と“DNS SETUP”画面では、.(ドット)キーでカーソルを右に移動します。
- ↑キーまたは+キーで数値を加算します。
- ↓キーまたは-キーで数値を減算します。

キーボード操作一覧

名前の入力だけでなく、トランスポートコントロール、編集など、各種動作をキーボードからコントロールすることができます。本機のフロントパネルにあるボタンを下記のように、キーボードに割り当てられます。また、この文字入力モードとの切り換えは、本機での動作に合わせ、自動的に切り換わります。

フルキーボード

キーボードのキー	動作
Esc キー	EXIT [PEAK CLEAR] ボタンと同じ。
Shift キー	SHIFT ボタンと同じ。
F1 キー	HOME [METER] ボタンと同じ。
F2 キー	INFO ボタンと同じ。
F3 キー	MENU ボタンと同じ。
F12 キー	● [SPLIT] ボタンと同じ。
Shift + F1 キー	メーターモードの設定が“32ch”に設定されている際にSHIFTボタンを押しながらこのボタンを押すと、ホーム画面に表示するレベルメーターのチャンネル表示を“1-32”表示と“33-64”表示で切り換える。(→ 53ページ「メーターモードの設定」)
Shift + F2 キー	“MARK INFO”画面を表示する。
Shift + F3 キー	メニュー画面の逆ページ送りする。
R キー	早戻しサーチする。(REWの「R」)

キーボードのキー	動作
P キー	前のテイクにスキップする。(Previousの「P」)
Shift + P キー	前のマークポイントにスキップする。
S キー	停止する。(Stopの「S」)
F キー	早送りサーチする。(F.FWDの「F」)
N キー	次のテイクにスキップする。(Nextの「N」)
Shift + N キー	後のマークポイントにスキップする。
Enter キー	「MULTI JOGダイヤルを押す」と同じ(マークポイントを登録/削除)。
Shift + Enter キー	ホーム画面表示中、ソコ選択枠表示の白/灰色を切り換える。
スペースバー	「▶ ボタンとII [CHASE] ボタン」と同じ。
↑ キー	トランスポート操作時は「▶▶ ボタン」と同じ、それ以外はカーソルを上へ移動します。
↓ キー	トランスポート操作時は「◀◀ ボタン」と同じ、それ以外はカーソルを下へ移動します。
Shift + ↑ キー	トランスポート操作時は後のマークポイントにスキップ、メニュー画面では逆ページ送り。
Shift + ↓ キー	トランスポート操作時は前のマークポイントにスキップ、メニュー画面ではページ送り。
← キー	トランスポート操作時は「MULTI JOGダイヤルを左へ回す」と同じ(カレントテイクの前方のマークポイントに移動。マークポイントがない場合は、前のテイクにスキップ。)、それ以外はカーソルを左へ移動します。
→ キー	トランスポート操作時は「MULTI JOGダイヤルを右へ回す」と同じ(カレントテイクの後方のマークポイントに移動。マークポイントがない場合は、後のテイクにスキップ。)、それ以外はカーソルを右へ移動します。

テンキー (トランスポート操作のみ)

キーボードのキー	動作
. (ドット) キー	■ ボタンと同じ。
0 キー	▶ ボタンとII [CHASE] ボタンと同じ。
1 キー	早戻しサーチする。
2 キー	早送りサーチする。
3 キー	● [SPLIT] ボタンと同じ。
4 キー	高速早戻しサーチする
5 キー	高速早送りサーチする
7 キー	前のテイクにスキップする。
8 キー	次のテイクにスキップする。
- キー	「MULTI JOGダイヤルを左へ回す」と同じ(カレントテイクの前方のマークポイントに移動。マークポイントがない場合は、前のテイクにスキップ)。
+ キー	「MULTI JOGダイヤルを右へ回す」と同じ(カレントテイクの後方のマークポイントに移動。マークポイントがない場合は、後のテイクにスキップ)。
Enter キー	「MULTI JOGダイヤルを押す」と同じ(マークポイントを登録/削除)。
* キー (アスタリスクキー)	ホーム画面で押すと、指定位置へのロケット入力モードに切り換わる。
/ キー	指定時間へのロケット入力モード時、入力数値を1桁削除する。

電源リダンダント確認機能の設定 (DA-6400dpのみ)

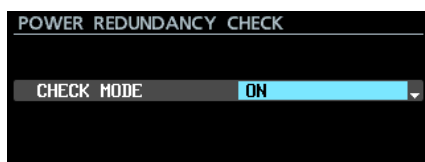
DA-6400dpは電源回路を2系統搭載し、電源に起因する事故を防止するためのリダンダントに対応しています。

工場出荷状態では、電源リダンダント確認機能がオンに設定されていますので、この機能を使う場合は2系統の電源をそれぞれ別系統の電源に接続します。

電源リダンダント確認機能がオンの状態で電源を1系統のみ接続した場合には、本機が1系統の接続が断線した状態と判断し、INFOインジケータが赤色に点灯します。

電源リダンダント確認機能を使用しない場合には、“PREFERENCES” ページの“POWER REDUNDANCY CHECK” 項目の設定をオフにしてください。

1. “PREFERENCES” ページの“POWER REDUNDANCY CHECK” 項目を選択し、“POWER REDUNDANCY CHECK” 画面を表示します。(→ 16ページ「メニュー操作の手順」)



2. 電源リダンダント確認機能のオン/オフを設定します。
選択肢：“ON” (初期値)、“OFF”

3. 設定選択を確定し、メニュー画面に戻します。

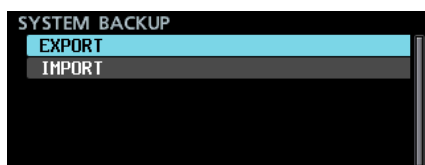
メモ

設定中にEXIT [PEAK CLEAR] ボタンを押すと変更を中止し、メニュー画面に戻します。

システムバックアップデータをエクスポートする／インポートする

本機の内蔵メモリー内にあるシステムバックアップデータを、フロントパネルのUSB2.0端子に接続したUSBメモリーにエクスポートする、またはインポートすることができます。

1. “SYSTEM SETUP” ページの“SYSTEM BACKUP” 項目を選択し、“SYSTEM BACKUP” 画面を表示します。(→ 16ページ「メニュー操作の手順」)

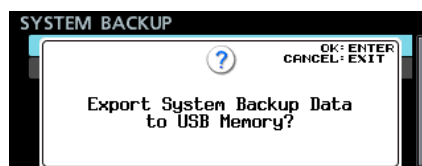


2. システムバックアップデータをUSBメモリーにエクスポートする／インポートするかを選択します。

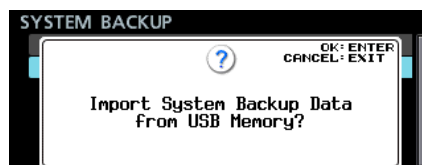
“Export” 項目 : システムバックアップデータをUSBメモリーに書き出す。

“Import” 項目 : システムバックアップデータをUSBメモリーから読み出し内蔵メモリーを書き換える。

3. MULTI JOGダイヤルを押します。
確認のメッセージがポップアップ表示されます。

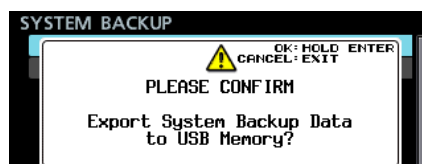


[“Export” 設定時のポップアップ表示]

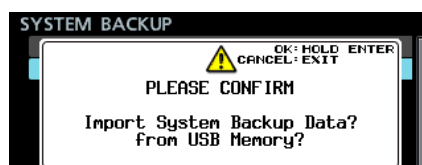


[“Import” 設定時のポップアップ表示]

4. 再度、MULTI JOGダイヤルを押します。
再度、確認のポップアップメッセージが表示されます。



[“Export” 設定時のポップアップメッセージ]



[“Import” 設定時のポップアップ表示]

5. 確認メッセージ表示中にMULTI JOGダイヤルを押し続けると、USBメモリーへのエクスポート/USBメモリーからのインポートが開始されます。
エクスポート／インポートが終了すると、“SYSTEM BACKUP” 画面に戻ります。

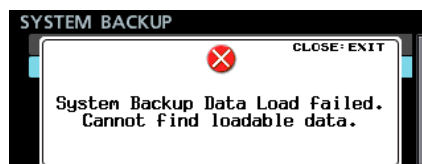
メモ

- “Import” を選択時、正常にインポートが終了しなかった場合は、以下のメッセージがポップアップ表示されます。

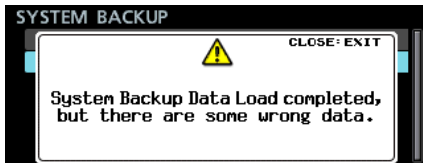
接続したUSBメモリー内にシステムバックアップデータのファイルがない場合



接続したUSBメモリー内のシステムバックアップデータファイルに有効なデータがない場合



インポートが完了したが、いくつか問題のあるデータをインポートしなかった場合(システムバックアップデータファイルの一部が壊れている)



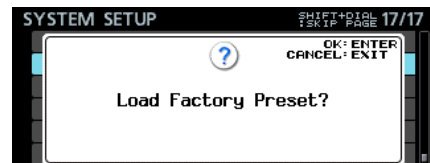
- システムバックアップデータの保存・読み出し対象の設定項目は、以下の設定となります。

画面名	ページ名	設定項目
ホーム画面		タイムカウンター表示モード ソロ選択チャンネル
“LOCK SETUP”画面		全設定
“MENU”画面	“GENERAL” ページ	CLOCK MASTER
		WORD/VIDEO SETUP
		REFERENCE LEVEL
		INPUT MONITOR
	“REC FILE FORMAT” ページ	全設定
	“REC OPTIONS” ページ	全設定
	“PLAY SETUP” ページ	全設定
	“INPUT ROUTING1” ページ	全設定
	“INPUT ROUTING2” ページ	全設定
	“SLOT1” ページ	全設定
	“SLOT2” ページ	全設定
	“TC SETUP 1” ページ	全設定
	“TC SETUP 2” ページ	全設定
	“PARALLEL INPUT” ページ	全設定
	“PARALLEL OUTPUT” ページ	全設定
	“NETWORK” ページ	IP SETUP
		DNS SETUP PASSWORD
	“SNTP” ページ	SNTP UPDATE
		NTP SERVER
		UPDATE TIME
TIME ZONE DST SETUP		
“PREFERENCES” ページ	全設定	
その他		カラーディスプレイの輝度設定 インジケータの輝度設定

出荷時の設定に戻す

本機のバックアップメモリーに保存されている各設定情報を工場出荷時の状態に戻すことができます。
以下のメニュー操作を行います。

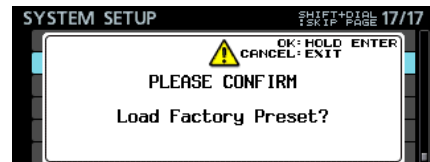
- “SYSTEM SETUP” ページの “FACTORY PRESET” 項目を選択します。(→ 16ページ「メニュー操作の手順」)
- MULTI JOGダイヤルを押します。
確認のメッセージがポップアップ表示されます。



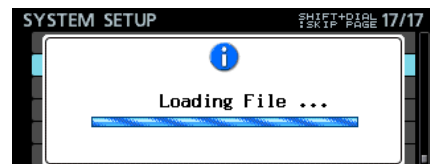
メモ

中止するには、EXIT [PEAK CLEAR] ボタンを押します。

- 再度、MULTI JOGダイヤルを押します。
再度、確認のメッセージがポップアップ表示されます。



- 確認メッセージ表示中にMULTI JOGダイヤルを押し続けると、メッセージ “Loading File ...” がポップアップ表示され、工場出荷時の状態に戻します。



終了したらメニュー画面に戻ります。

第12章 トラブルシューティング

本機の動作がおかしいときは、修理を依頼する前にもう一度、下記の点検を行ってください。
それでも改善しないときは、お買い上げ店またはティアック修理センター（巻末に記載）にご連絡ください。

電源が入らない。

↓

- 電源プラグなどがしっかりと差し込まれているか確認してください。

メディアを認識しない。

↓

- SSD/HDDケースまたはUSBメモリーがしっかりと挿入されているか確認してください。

再生できない。

↓

- WAVファイルの場合は、本機が対応しているサンプリング周波数（44.1k/48k/88.2k/96kHz）と量子化数（16 / 24ビット）であるかどうかを確認してください。

音が出ない。

↓

- モニターシステムとの接続をもう一度確認してください。また、アンプの音量を確認してください。
- 入力信号音が聴こえない場合は、“INPUT MONITOR”画面の設定をオンにしてください。
- 再生音が聴こえない場合は、“INPUT MONITOR”画面の設定をオフにしてください。

録音できない。

↓

- 接続をもう一度確認してください。
- 音源のレベルを確認してください。
- 必要なチャンネルのレコードファンクションをオンにしてください。
- メディアの容量が不足している場合は、不要なデータを削除して空き容量を増やすかメディアを変更してください。
- 記録可能な最大テイク数/テイク番号に達している場合は、録音するフォルダーを変更してください。
- フォルダー内の全エントリー数（ファイル、フォルダーなどの総数）が多い場合は、録音するフォルダーを変更してください。

設定を変えたのに記憶されていない。

↓

- 本機では、設定を変更するたびにバックアップを行っています。電源を切るタイミングによっては、バックアップを失敗してしまう場合がありますので、設定の変更直後に電源を切らないでください。

雑音がる。

↓

- 接続ケーブルが接触不良になっていないか、確認してください。

名前の編集時、“Name Full”が表示される。

↓

- フォルダー名やファイル名などの文字数は、ファイルシステムの制約上255文字（半角）までです。なお、“BROWSE”画面内のフルパスで255文字です。

フォルダーが新規作成できない。

↓

- 同じ名前のフォルダーがすでに存在していないか、確認してください。
- メディアの残り容量が少ない場合は、フォルダー作成を行えません。不要なデータを削除してから、フォルダー作成を行ってください。

SSD/HDDケースをパソコンに接続しても正常に認識しない。

SSD/HDDケースをパソコンが認識しているが、ファイルの読み書きの途中で動作しなくなる。

↓

- USBバスパワーの電力が不足している可能性があります。付属のUSBケーブルを使い、パソコンの2つのUSB端子から電源を供給してください。付属のケーブルを使用しても正常に動作しない場合は、USB端子の電源供給能力不足の可能性もあります。この場合はSSD/HDDケースを本体に挿入し、49ページ「SSD/HDDとパソコンを接続する」の手順にしたがってパソコンと接続してください。
- 市販のUSBケーブルを使用すると、ケーブルの抵抗成分による電力不足により、SSD/HDDが正常に動作しない場合があります。付属のUSBケーブルをご使用ください。

第13章 仕様

定格

記録メディア

SSD / HDD

ファイルシステム

FAT32

ファイルフォーマット

BWF形式 (拡張子.wav)

チャンネル数

最大64チャンネル (サンプリング周波数44.1k/48kHz時)

最大32チャンネル (サンプリング周波数88.2k/96kHz時)

量子化ビット数

16ビット / 24ビット

サンプリング周波数

44.1k/48k/88.2k/96kHz

クロックリファレンス

INTERNAL、WORD IN、VIDEO IN、SLOT1 IN、SLOT2 IN

タイムコードフレーム

23.976F、24F、25F、29.97DF、29.97NDF、30DF、30NDF

アナログ出力

PHONES端子

コネクター : 6.3mm (1/4") ステレオ標準ジャック

最大出力レベル : 45mW + 45mW 以上

(THD+N 0.1%以下、32Ω負荷)

コントロール入出力定格

USB端子

コネクター : USB2.0 タイプA

プロトコル : USB2.0 Hi Speed (480Mbps)

TIME CODE IN端子

コネクター : BNCコネクター

信号電圧振幅 : 0.5 ~ 5Vp-p

入力インピーダンス : 10kΩ

フォーマット : SMPTE 12M-1999準拠

TIME CODE OUT端子

コネクター : BNCコネクター

信号電圧振幅 : 2Vp-p

出力インピーダンス : 600Ω

フォーマット : SMPTE 12M-1999準拠

WORD / VIDEO IN端子

コネクター : BNCコネクター

信号電圧振幅 : 0.5V ~ 5V p-p (WORD IN) /
1V p-p (VIDEO IN)

入力インピーダンス : 75Ω ± 10% (終端抵抗オン)
(終端抵抗のオン/オフ切り換えは、23ページ「ワード/ビデオ端子の設定をする」を参照)

入力周波数 (WORD) : 44.1k/48k/88.2k/96kHz

入力信号 (VIDEO) : 24/25/29.97/30Frame
(NTSC / PAL Black burst、HDTV Tri-Level)

WORD / VIDEO THRU / OUT端子

コネクター : BNCコネクター

信号電圧振幅 : 5V TTL 相当

出力周波数 (WORD) : 44.1k/48k/88.2k/96kHz

VIDEO信号はTHRU OUTのみ対応

(OUT / THRU切り換えは、23ページ「ワード/ビデオ端子の設定をする」を参照)

ETHERNET端子

コネクター : RJ45

対応規格 : 100BASE-TX、1000BASE-T

RS-422端子

コネクター : D-sub 9ピン (メス型インチ規格)

PARALLEL端子

コネクター : D-sub 15ピン (メス型インチ規格)

一般

電源

AC100-240V、50/60Hz

消費電力

21W (IF-MA64/EX搭載時)

外形寸法

482.6 x 44.7 x 304.8mm (幅 x 高さ x 奥行き)

質量

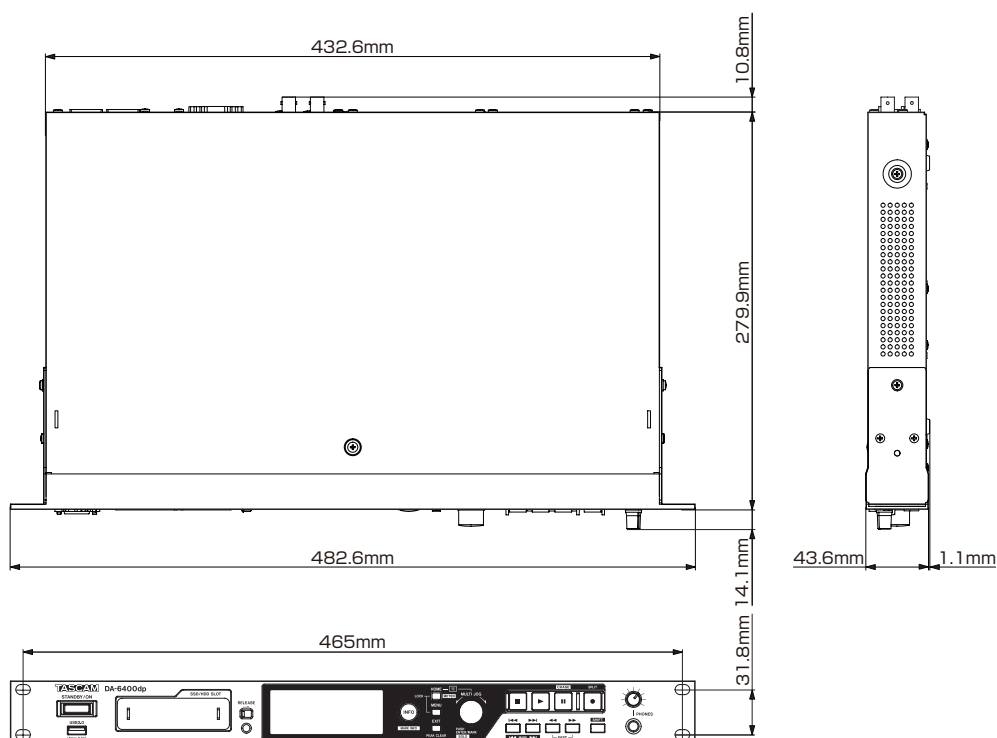
DA-6400 : 3.9kg、DA-6400dp : 4.0kg

(別売のI/Oカード、SSD/HDDケース未搭載時)

動作温度

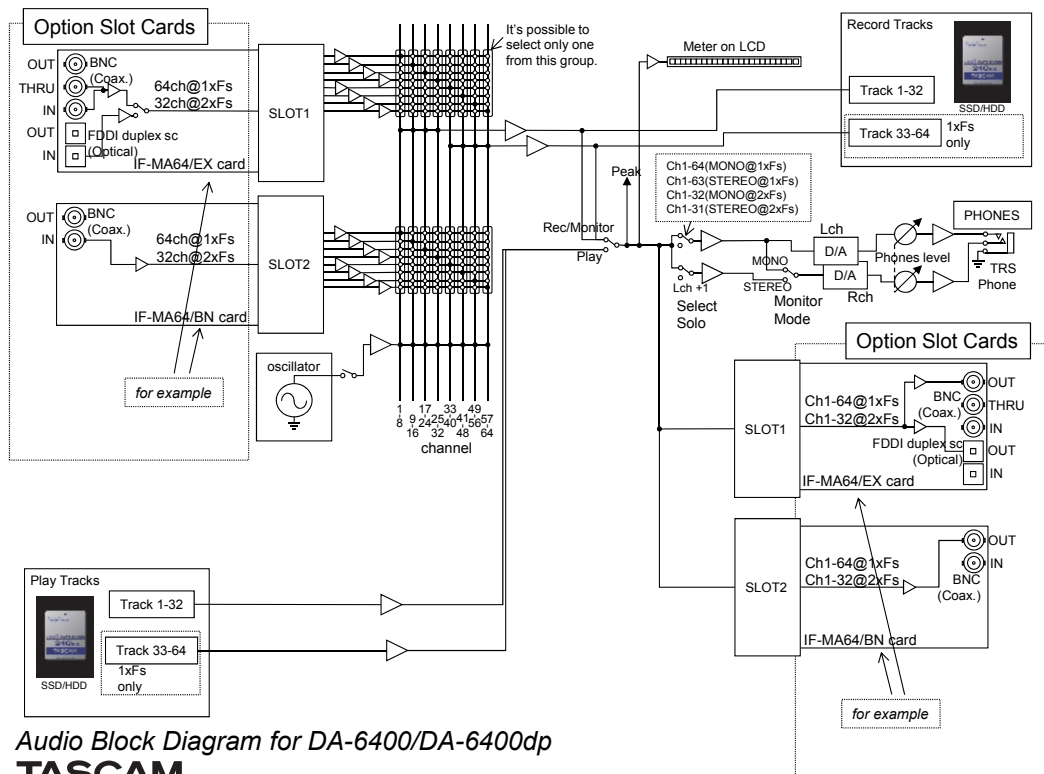
0 ~ +40℃

寸法図



- 取扱説明書のイラストが一部製品と異なる場合があります。
- 製品の改善により、仕様および外観が予告なく変更することがあります。

ブロックダイアグラム



Audio Block Diagram for DA-6400/DA-6400dp
TASCAM

第14章 ソフトウェアなどに関する重要なお知らせ

Open Source License Term

As some of the Open Source and Public Domain Software is used in eT-Kernel/Compact and PrCONNECT/Pro, the following Copyright and/or License Term need to be described accordingly.

(1)eT-Kernel/Compact

Copyright (c) 1982, 1985, 1993
The Regents of the University of California. All rights reserved.

Copyright (c) 1982, 1986, 1993
The Regents of the University of California. All rights reserved.

Copyright (c) 1982, 1986, 1989, 1993
The Regents of the University of California. All rights reserved.
(c) UNIX System Laboratories, Inc.
All or some portions of this file are derived from material licensed to the University of California by American Telephone and Telegraph Co. or Unix System Laboratories, Inc. and are reproduced herein with the permission of UNIX System Laboratories, Inc.

Copyright (c) 1982, 1986, 1991, 1993, 1994
The Regents of the University of California. All rights reserved.
(c) UNIX System Laboratories, Inc.
All or some portions of this file are derived from material licensed to the University of California by American Telephone and Telegraph Co. or Unix System Laboratories, Inc. and are reproduced herein with the permission of UNIX System Laboratories, Inc.

Copyright (c) 1983, 1990, 1993
The Regents of the University of California. All rights reserved.

Copyright (c) 1983, 1990, 1993
The Regents of the University of California. All rights reserved.
(c) UNIX System Laboratories, Inc.
All or some portions of this file are derived from material licensed to the University of California by American Telephone and Telegraph Co. or Unix System Laboratories, Inc. and are reproduced herein with the permission of UNIX System Laboratories, Inc.

Copyright (c) 1983, 1993
The Regents of the University of California. All rights reserved.

Copyright (c) 1987, 1991, 1993
The Regents of the University of California. All rights reserved.

Copyright (c) 1987, 1993
The Regents of the University of California. All rights reserved.

Copyright (c) 1988 Regents of the University of California.
All rights reserved.

Copyright (c) 1988 University of Utah.
Copyright (c) 1992, 1993
The Regents of the University of California. All rights reserved.
This code is derived from software contributed to Berkeley by the Systems Programming Group of the University of Utah Computer Science Department and Ralph Campbell.

Copyright (c) 1988, 1993
The Regents of the University of California. All rights reserved.

Copyright (c) 1989 The Regents of the University of California.
All rights reserved.

Copyright (c) 1989 The Regents of the University of California.
All rights reserved.
(c) UNIX System Laboratories, Inc.
All or some portions of this file are derived from material licensed to the University of California by American Telephone and Telegraph Co. or Unix System Laboratories, Inc. and are reproduced herein with the permission of UNIX System Laboratories, Inc.

Copyright (c) 1989, 1993
The Regents of the University of California. All rights reserved.

Copyright (c) 1989, 1993
The Regents of the University of California. All rights reserved.
(c) UNIX System Laboratories, Inc.
All or some portions of this file are derived from material licensed to the University of California by American Telephone and Telegraph Co. or Unix System Laboratories, Inc. and are reproduced herein with the permission of UNIX System Laboratories, Inc.

Copyright (c) 1990, 1993
The Regents of the University of California. All rights reserved.
Copyright (c) 1990, 1993
The Regents of the University of California. All rights reserved.

This code is derived from software contributed to Berkeley by Chris Torek.

Copyright (c) 1991, 1993
The Regents of the University of California. All rights reserved.

Copyright (c) 1991, 1993
The Regents of the University of California. All rights reserved.
This code is derived from software contributed to Berkeley by Berkeley Software Design, Inc.

Copyright (c) 1992, 1993
The Regents of the University of California. All rights reserved.

Copyright (c) 1992, 1993
The Regents of the University of California. All rights reserved.
This code is derived from software contributed to Berkeley by Ralph Campbell.

Copyright (c) 1992, 1993
The Regents of the University of California. All rights reserved.
(c) UNIX System Laboratories, Inc.
All or some portions of this file are derived from material licensed to the University of California by American Telephone and Telegraph Co. or Unix System Laboratories, Inc. and are reproduced herein with the permission of UNIX System Laboratories, Inc.

Copyright (c) 1993
The Regents of the University of California. All rights reserved.

Copyright (c) 1994
The Regents of the University of California. All rights reserved.
This code is derived from software contributed to Berkeley by Andrew Hume of AT&T Bell Laboratories.

Portions Copyright (c) 1993 by Digital Equipment Corporation.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. [rescinded 22 July 1999]
4. Neither the name of the University nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE REGENTS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED.

IN NO EVENT SHALL THE REGENTS OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

-
Copyright (c) 1982, 1986, 1990, 1993
The Regents of the University of California. All rights reserved.

Copyright (c) 1983, 1993
The Regents of the University of California. All rights reserved.

Copyright (c) 1990, 1993
The Regents of the University of California. All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. Neither the name of the University nor the names of its contributors

may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE REGENTS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED.

IN NO EVENT SHALL THE REGENTS OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

Copyright (c) 1991, 1993, 1994
The Regents of the University of California. All rights reserved.

-
Copyright (c) 1996 The NetBSD Foundation, Inc.
All rights reserved.
This code is derived from software contributed to The NetBSD Foundation by J.T. Conklin.

Copyright (c) 1997 The NetBSD Foundation, Inc.
All rights reserved.
This code is derived from software contributed to The NetBSD Foundation by Klaus Klein.

Copyright (c) 1997, 1998 The NetBSD Foundation, Inc.
All rights reserved.

Copyright (c) 1997,98 The NetBSD Foundation, Inc.
All rights reserved.
This code is derived from software contributed to The NetBSD Foundation by J.T. Conklin.

Copyright (c) 1997, 1998 The NetBSD Foundation, Inc.
All rights reserved.
This code was contributed to The NetBSD Foundation by Klaus Klein.

Copyright (c) 1998 The NetBSD Foundation, Inc.
All rights reserved.
This code is derived from software contributed to The NetBSD Foundation by Klaus Klein.

Copyright (c) 1998, 1999 The NetBSD Foundation, Inc.
All rights reserved.
This code is derived from software contributed to The NetBSD Foundation by Klaus Klein.

Copyright (c) 1998, 2000 The NetBSD Foundation, Inc.
All rights reserved.
This code is derived from software contributed to The NetBSD Foundation by Klaus J. Klein.

Copyright (c) 2000 The NetBSD Foundation, Inc.
All rights reserved.
This code is derived from software contributed to The NetBSD Foundation by Dieter Baron and Thomas Klausner.

Copyright (c) 2000, 2001 The NetBSD Foundation, Inc.
All rights reserved.
This code is derived from software contributed to The NetBSD Foundation by Jun-ichiro itojun Hagino and by Klaus Klein.

Copyright (c) 2001 The NetBSD Foundation, Inc.
All rights reserved.
This code is derived from software contributed to The NetBSD Foundation by Klaus Klein.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. [rescinded 20 Jun 2008]

第14章 ソフトウェアなどに関する重要なお知らせ

4. [rescinded 20 Jun 2008]

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE NETBSD FOUNDATION, INC. AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED.

IN NO EVENT SHALL THE FOUNDATION OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

-
This product includes software developed by Christos Zoulas.

Copyright (c) 1997 Christos Zoulas. All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgement:

This product includes software developed by Christos Zoulas.

4. The name of the author may not be used to endorse or promote products

derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE AUTHOR "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED.

IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

-
This product includes software developed by Winning Strategies, Inc.

Copyright (c) 1994 Winning Strategies, Inc.
All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgement:

This product includes software developed by Winning Strategies, Inc.

4. The name of the author may not be used to endorse or promote products

derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE AUTHOR "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED.

IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

-
Copyright (C) 1995, 1996, 1997, and 1998 WIDE Project.
All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions

are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. Neither the name of the project nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE PROJECT AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED.

IN NO EVENT SHALL THE PROJECT OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

-
Copyright (c) 1999 Citrus Project,
All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE AUTHOR AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED.

IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

Copyright (c) 1999, 2000 The NetBSD Foundation, Inc.
All rights reserved.

This code is derived from software contributed to The NetBSD Foundation by Julian Coleman.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgement:

This product includes software developed by the NetBSD

-
Copyright (c) 1995, 1996 Carnegie-Mellon University.
All rights reserved.

Author: Chris G. Demetrious

Permission to use, copy, modify and distribute this software and its documentation is hereby granted, provided that both the copyright notice and this permission notice appear in all copies of the software, derivative works or modified versions, and any portions thereof, and that both notices appear in supporting documentation.

CARNEGIE MELLON ALLOWS FREE USE OF THIS SOFTWARE IN ITS "AS IS" CONDITION. CARNEGIE MELLON DISCLAIMS ANY LIABILITY OF ANY KIND FOR ANY DAMAGES WHATSOEVER RESULTING FROM THE USE OF THIS SOFTWARE.

Carnegie Mellon requests users of this software to return to

Software Distribution Coordinator or Software.Distribution@CS.CMU.EDU
School of Computer Science
Carnegie Mellon University

Pittsburgh PA 15213-3890

any improvements or extensions that they make and grant Carnegie the rights to redistribute these changes.

(2) PrCONNECT/PRO

Copyright (c) 1980, 1983, 1988, 1993
The Regents of the University of California. All rights reserved.

Copyright (c) 1982, 1986 Regents of the University of California.
All rights reserved.

Copyright (c) 1983, 1987, 1989
The Regents of the University of California. All rights reserved.

Copyright (c) 1983, 1989, 1993
The Regents of the University of California. All rights reserved.

Copyright (c) 1985, 1988, 1993
The Regents of the University of California. All rights reserved.

Copyright (c) 1985, 1989, 1993
The Regents of the University of California. All rights reserved.

Copyright (c) 1983, 1993
The Regents of the University of California. All rights reserved.

Copyright (c) 1985, 1993
The Regents of the University of California. All rights reserved.

Copyright (c) 1988 Stephen Deering.

Copyright (c) 1989, 1993, 1995
The Regents of the University of California. All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. [rescinded 22 July 1999]
4. Neither the name of the University nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE REGENTS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED.

IN NO EVENT SHALL THE REGENTS OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

Portions Copyright (c) 1993 by Digital Equipment Corporation.

Permission to use, copy, modify, and distribute this software for any purpose with or without fee is hereby granted, provided that the above copyright notice and this permission notice appear in all copies, and that the name of Digital Equipment Corporation not be used in advertising or publicity pertaining to distribution of the document or software without specific, written prior permission.

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS" AND DIGITAL EQUIPMENT CORP. DISCLAIMS ALL WARRANTIES WITH REGARD TO THIS SOFTWARE, INCLUDING ALL IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS.

IN NO EVENT SHALL DIGITAL EQUIPMENT CORPORATION BE LIABLE FOR ANY SPECIAL, DIRECT, INDIRECT, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES OR ANY DAMAGES WHATSOEVER RESULTING FROM LOSS OF USE, DATA OR PROFITS, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, NEGLIGENCE OR OTHER TORTIOUS ACTION, ARISING OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE USE OR PERFORMANCE OF THIS SOFTWARE.

Copyright (c) 2004 by Internet Systems Consortium, Inc. ("ISC")
Portions Copyright (c) 1996-1999 by Internet Software Consortium.

Permission to use, copy, modify, and distribute this software for any purpose with or without fee is hereby granted, provided that the above copyright notice and this permission notice appear in all copies.

第14章 ソフトウェアなどに関する重要なお知らせ

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS" AND ISC DISCLAIMS ALL WARRANTIES WITH REGARD TO THIS SOFTWARE INCLUDING ALL IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS.

IN NO EVENT SHALL ISC BE LIABLE FOR ANY SPECIAL, DIRECT, INDIRECT, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES OR ANY DAMAGES WHATSOEVER RESULTING FROM LOSS OF USE, DATA OR PROFITS, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, NEGLIGENCE OR OTHER TORTIOUS ACTION, ARISING OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE USE OR PERFORMANCE OF THIS SOFTWARE.

Copyright 1996 - 2000 By InterNiche Technologies Inc. All rights reserved
Copyright 1997 - 2000 By InterNiche Technologies Inc. All rights reserved
Copyright 1997 - 2002 By InterNiche Technologies Inc. All rights reserved
Copyright 1997 - 2003 By InterNiche Technologies Inc. All rights reserved
Copyright 1997-2007 By InterNiche Technologies Inc. All rights reserved
Copyright 2004 By InterNiche Technologies Inc. All rights reserved

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. [rescinded 22 July 1999]
4. Neither the name of the University nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE REGENTS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED.

IN NO EVENT SHALL THE REGENTS OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

Copyright (c) 2004 by Internet Systems Consortium, Inc. ("ISC")
Portions Copyright (c) 1996-1999 by Internet Software Consortium.
Copyright (c) 1997-1999 by Internet Software Consortium.
Copyright (c) 1995-1999 by Internet Software Consortium.
Copyright (c) 1995, 1999 by Internet Software Consortium.
Copyright (c) 1996, 1999 by Internet Software Consortium.
Copyright (c) 1997, 1999 by Internet Software Consortium.
Copyright (c) 1999 by Internet Software Consortium.

Permission to use, copy, modify, and distribute this software for any purpose with or without fee is hereby granted, provided that the above copyright notice and this permission notice appear in all copies.

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS" AND ISC DISCLAIMS ALL WARRANTIES WITH REGARD TO THIS SOFTWARE INCLUDING ALL IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS.

IN NO EVENT SHALL ISC BE LIABLE FOR ANY SPECIAL, DIRECT, INDIRECT, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES OR ANY DAMAGES WHATSOEVER RESULTING FROM LOSS OF USE, DATA OR PROFITS, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, NEGLIGENCE OR OTHER TORTIOUS ACTION, ARISING OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE USE OR PERFORMANCE OF THIS SOFTWARE.

This product includes software developed by WIDE Project and its contributors.

Copyright (C) 1995, 1996, 1997, and 1998 WIDE Project.
All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. Neither the name of the project nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE PROJECT AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED.

IN NO EVENT SHALL THE PROJECT OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY

DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

Copyright 1997- 2006 By InterNiche Technologies Inc. All rights reserved

Portions Copyright 1986 by Carnegie Mellon

Portions Copyright 1984 by the Massachusetts Institute of Technology
Copyright (c) 1982, 1986, 1988 Regents of the University of California.
All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms are permitted provided that the above copyright notice and this paragraph are duplicated in all such forms and that any documentation and other materials related to such distribution and use acknowledge that the software was developed by the University of California, Berkeley.

The name of the University may not be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.
THIS SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS" AND WITHOUT ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, WITHOUT LIMITATION, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE.

Rights, responsibilities and use of this software are controlled by the agreement found in the "LICENSE.H" file distributed with this source code. "LICENSE.H" may not be removed from this distribution, modified, enhanced nor references to it omitted.

Copyright 1983 by the Massachusetts Institute of Technology
Copyright 1984 by the Massachusetts Institute of Technology

Copyright 1984, 1985 by the Massachusetts Institute of Technology

Copyright 1986 by Carnegie Mellon

All Rights Reserved

Permission to use, copy, modify, and distribute this software and its documentation for any purpose and without fee is hereby granted, provided that the above copyright notice appear in all copies and that both that copyright notice and this permission notice appear in supporting documentation, and that the name of CMU not be used in advertising or publicity pertaining to distribution of the software without specific, written prior permission.

Copyright 1999- 2000 By InterNiche Technologies Inc. All rights reserved
Portions Copyright 1984 by the Massachusetts Institute of Technology

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of this software and associated documentation files (the "Software"), to deal in the Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, sublicense, and/or sell copies of the Software, and to permit persons to whom the Software is furnished to do so, subject to the following conditions:

The above copyright notice and this permission notice shall be included in all copies or substantial portions of the Software.

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT.

IN NO EVENT SHALL THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

Copyright 2000 By InterNiche Technologies Inc. All rights reserved
Copyright 1998- 2000 By InterNiche Technologies Inc. All rights reserved
Copyright 1997-2002 By InterNiche Technologies Inc. All rights reserved
Copyright 1997- 2001 By InterNiche Technologies Inc. All rights reserved
Copyright 1997- 2000 By InterNiche Technologies Inc. All rights reserved
Copyright 2000- 2007 By InterNiche Technologies Inc. All rights reserved
Copyright 1996- 2000 By InterNiche Technologies Inc. All rights reserved
Copyright 1986 by Carnegie Mellon
Copyright 1984 by the Massachusetts Institute of Technology

Portions Copyright 1990 by NetPort Software.
Portions Copyright 1990, 1993 by NetPort Software.
Portions Copyright 1990-1993 by NetPort Software.
Portions Copyright 1993 by NetPort Software
Portions Copyright 1990-1996 by NetPort Software.
Portions Copyright 1990-1997 by NetPort Software.
Portions Copyright 1990-1994 by NetPort Software
Portions Copyright 1986 by Carnegie Mellon
Portions Copyright 1983 by the Massachusetts Institute of Technology
Portions Copyright 1984 by the Massachusetts Institute of Technology
Portions Copyright 1984, 1985 by the Massachusetts Institute of Technology

Copyright (c) 1994-2000 Carnegie Mellon University. All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. The name "Carnegie Mellon University" must not be used to endorse or promote products derived from this software without prior written permission. For permission or any legal details, please contact
Office of Technology Transfer
Carnegie Mellon University
5000 Forbes Avenue
Pittsburgh, PA 15213-3890
(412) 268-4387, fax: (412) 268-7395
tech-transfer@andrew.cmu.edu
4. Redistributions of any form whatsoever must retain the following acknowledgment:
"This product includes software developed by Computing Services at Carnegie Mellon University (<http://www.cmu.edu/computing/>)."

CARNEGIE MELLON UNIVERSITY DISCLAIMS ALL WARRANTIES WITH REGARD TO THIS SOFTWARE, INCLUDING ALL IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS, IN NO EVENT SHALL CARNEGIE MELLON UNIVERSITY BE LIABLE FOR ANY SPECIAL, INDIRECT OR CONSEQUENTIAL DAMAGES OR ANY DAMAGES WHATSOEVER RESULTING FROM LOSS OF USE, DATA OR PROFITS, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, NEGLIGENCE OR OTHER TORTIOUS ACTION, ARISING OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE USE OR PERFORMANCE OF THIS SOFTWARE.



無料修理規定（持ち込み修理）

1. 取扱説明書、本体貼付ラベルなどの注意書きにしたがった正常な使用状態で保証期間内に故障が発生した場合には、ティアック修理センターが無料修理致します。
2. 保証期間内に故障して無料修理を受ける場合は、本書をご提示の上、ティアック修理センターまたはお買い上げの販売店に修理をご依頼ください。商品を送付していただく場合の送付方法については、事前にティアック修理センターにお問い合わせください。
3. ご転居、ご贈答品などでお買い上げの販売店に修理をご依頼になれない場合は、ティアック修理センターにご連絡ください。
4. 次の場合には、保証期間内でも有償修理となります。
 - (1) ご使用上の誤りおよび不当な修理や改造による故障および損傷
 - (2) お買い上げ後の輸送・移動・落下などによる故障および損傷
 - (3) 火災、地震、水害、落雷、その他の天災地変、公害や異常電圧による故障および損傷
 - (4) 接続しているほかの機器に起因する故障および損傷
 - (5) 業務上の長時間使用など、特に苛酷な条件下において使用された場合の故障および損傷

(6) メンテナンス

(7) 本書の提示がない場合

(8) 本書にお買い上げ年月日、お客様名、販売店名（印）の記入のない場合、あるいは字句を書き換えられた場合

5. 本書は日本国内においてのみ有効です。

This warranty is valid only in Japan.

6. 本書は再発行致しませんので、紛失しないよう大切に保管してください。

修理メモ

※ この保証書は、本書に明示した期間・条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。この保証書によって保証書を発行しているもの（保証責任者）、およびそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありません。保証期間経過後の修理などについてご不明の場合は、ティアック修理センターにお問い合わせください。



ティアック株式会社

〒206-8530 東京都多摩市落合1-47

この製品の取り扱いなどに関するお問い合わせは

タスクム カスタマーサポート 〒206-8530 東京都多摩市落合1-47



0570-000-809

一般電話・公衆電話からは市内通話料金でご利用いただけます。

受付時間は、10:00～12:00 / 13:00～17:00です。(土・日・祝日・弊社指定休日を除く)

- ナビダイヤルがご利用いただけない場合

電話：042-356-9137 / FAX：042-356-9185

故障・修理や保守についてのお問い合わせは

ティアック修理センター 〒358-0026 埼玉県入間市小谷田858



0570-000-501

一般電話・公衆電話からは市内通話料金でご利用いただけます。

受付時間は、9:30～17:00です。(土・日・祝日・弊社指定休日を除く)

- ナビダイヤルがご利用いただけない場合

電話：04-2901-1033 / FAX：04-2901-1036

■ 住所や電話番号は、予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

Printed in China

保証書

品名 および 形名	DA-6400 / DA-6400dp		
機番			
保証期間	本体	1年	
お買い上げ日	年	月	日
お客様	お名前		
	ご住所		

この保証書は、本書記載内容で無料修理を行うことをお約束するものです。お買い上げの日から上記期間中に故障が発生した場合は、本書をご提示の上、取扱説明書に記載のティアック修理センターまでお買い上げ販売店の修理をご依頼ください。

販売店	本	
	電話	()

見

